

令和6年度

研修実績報告書

環境省環境調査研修所

目 次

1 令和6年度の研修について	1
2 令和6年度の研修内容について	1
表1 令和6年度研修コース別実績（研修修了者数）	3
表2 研修日数及び研修修了者数の前年度実績との比較	4
表3 所属機関別研修修了者数の前年度との比較	5
(参考)令和6年度研修日程表	6
(別添資料)各研修の実施要綱および日程表	
●行政研修	
地方公共団体実行計画策定研修	8
第22回日中韓三カ国合同環境研修	13
動物愛護管理研修	20
産業廃棄物対策研修（基礎）	24
廃棄物・リサイクル専攻別研修（循環型社会実践コース）	28
国際環境協力基本研修	32
大気環境研修	36
騒音・振動防止研修	41
水環境行政研修	46
環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）	51
●分析研修	
水質分析研修	55
特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）	61
特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第1回	66
特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第2回	71
大気分析研修	76
廃棄物分析研修	82
VOCs分析研修（水質）	87
課題分析研修Ⅰ（プランクトン）	92
ダイオキシン環境モニタリング研修（基礎課程）	96
アスベスト分析研修 第1回	102
アスベスト分析研修 第2回	106
研修支援教材の配信	110

●職員研修

環境省新採用職員研修	115
環境省職員研修（課長補佐級）	122
自然保護官等研修Ⅰ	125
自然保護官等研修Ⅱ①	128
自然保護官等研修Ⅱ②	132
環境行政基本研修	136
環境省職員研修（令和3年度入省職員フォローアップ研修）	139
環境省職員研修（環境問題史）	142

1. 令和6年度の研修について

令和6年度には、表1「令和6年度研修コース別実績」のとおり、行政研修10コース（10回）、分析研修9コース（11回）及び職員研修7コース（8回）の合計26コース（29回）の研修を実施した。

令和6年度の研修修了者は、令和5年度より251名増加して1,138名となった。修了者の研修区分別数は、行政研修が487名、分析研修が132名、職員研修が519名であった。

研修コース別の実施時期、研修日数及び修了者数の実績は表1のとおりである。表2は研修日数及び修了者数について、前年度実績との比較を示している。

所属機関別の修了者の割合は、国が43.9%、地方公共団体が54.6%（うち、都道府県が25.3%、市区町村が29.3%）、独法等が0.6%、その他が0.9%となっている（表3参照）。

2. 令和6年度の研修内容について

(1) 行政研修

- ① コロナ禍の影響で令和2年度以降実施していなかった「大気環境研修」、「騒音・振動防止研修」、「水環境行政研修」を実施した。
- ② 「日中韓三カ国合同環境研修」については、日本がホスト国となり北九州市において協同実施した（令和5年度には中国がホスト国となって実施）。
- ③ 「産業廃棄物対策研修（基礎）」、「廃棄物・リサイクル専攻別研修（循環型社会実践コース）」、「国際環境協力基本研修」、「大気環境研修」、「騒音・振動防止研修」、「環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）」においては、集合形式のほか、講義動画のオンデマンド配信や講義のリアルタイム配信によるオンライン形式を組み合わせた研修を行った。このうち「産業廃棄物対策研修（基礎）」、「廃棄物・リサイクル専攻別研修（循環型社会実践コース）」、「大気環境研修」、「騒音・振動防止研修」においては、研修生とは別に講義動画のみの視聴を希望する者を募り、動画視聴者数は1,760名となった。

(2) 分析研修

- ① コロナ禍の影響で令和2年度以降実施していなかった「課題分析研修Ⅰ（プランクトン）」、「ダイオキシン類環境モニタリング研修（基礎課程）」を実施した。
- ② 「水質分析研修」、「特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）」、「特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）」、「大気分析研修」、「廃棄物分析研修」、「VOCs分析研修（水質）」、「ダイオキシン類環境モニタリング研修（基礎課程）」の7コースにおいては、一部、講義動画のオンデマンド配信、講義のライブ配信等のオンラインによる研修を行った。
- ③ 昨年度に引き続き、従来実施してきた分析研修の研修カリキュラムに関連した研

修支援教材（動画教材）を作成し、環境分析業務に携わる実務者を対象に配信を行った。支援教材について聴講登録をした者は、前期 572 名、後期 789 名、延べ 1,361 名であった。

(3) 職員研修

- ① 「環境省新採用職員研修」については、5 日間の集合研修のうち、福島県での現地研修を 1 泊 2 日で実施した。
- ② コロナ禍により環境省新採用職員研修の実施が見送られていた職員を対象に、昨年度の令和 2 年度入省職員に引き続き「環境省職員研修（令和 3 年度入省職員フォローアップ研修）」を実施した。
- ③ 令和 6 年度研修計画書において当初予定していた「自然保護官等研修Ⅲ」の実施を取りやめ、代わりに、コロナ禍により自然保護官等研修Ⅱの実施が見送られていた職員を対象に「自然保護官等研修Ⅱ②」を実施した。

表1 令和6年度研修コース別実績(研修修了者数)

区分	研修の名称	研修期間	研修日数 【うち集合】 (日)	動画視 聴者数 (人)	研修生 数(人)	研修修了者数(人)					
						国	都道 府県	市区 町村	独法 等	その 他	合計
行政 研修	地方公共団体実行計画策定研修	10月7日-10月11日	5【5】		9	0	0	9	0	0	9
	日中韓三カ国合同環境研修	11月5日-11月8日	4【4】		19	2	1	5	1	10	19
	動物愛護管理研修	7月22日-7月25日	4【4】		71	0	34	27	0	0	61
	産業廃棄物対策研修(基礎)	10月28日-11月22日	19【4】	426	90	1	41	48	0	0	90
	廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)	10月29日-11月22日	18【3】	194	42	2	19	21	0	0	42
	国際環境協力基本研修	1月7日-1月31日	18【3】		22	7	6	8	1	0	22
	大気環境研修	8月1日-8月30日	21【2】	328	76	3	32	38	0	0	73
	騒音・振動防止研修	6月24日-7月12日	15【2】	812	67	0	17	49	0	0	66
	水環境行政研修	7月2日-7月5日	4【4】		90	3	40	47	0	0	90
	環境問題史研修(もやい直し-水俣の経験から学ぶ地域再生-)	1月9日、1月22日~1月24日	4【3】		15	0	4	11	0	0	15
	小計			1,760	501	18	194	263	2	10	487
分析 研修	水質分析研修	11月25日-12月13日	15【5】		36	2	20	13	1	0	36
	特定機器分析研修 I (ICP-MS)	5月20日-6月7日	15【5】		12	0	8	4	0	0	12
	特定機器分析研修 II (LC/MS/MS) 第1回	5月20日-6月7日	15【5】		10	0	4	6	0	0	10
	特定機器分析研修 II (LC/MS/MS) 第2回	10月7日-10月25日	14【5】		10	0	6	4	0	0	10
	大気分析研修	1月20日-2月7日	15【5】		20	0	16	2	2	0	20
	廃棄物分析研修	10月7日-10月25日	14【5】		8	1	4	3	0	0	8
	VOCs分析研修(水質)	7月12日-8月2日	15【5】		10	1	6	3	0	0	10
	課題分析研修 I (プランクトン)	6月24日-6月28日	5【5】		10	0	10	0	0	0	10
	ダイオキシン類環境モニタリング研修(基礎課程)	8月26日-9月13日	15【5】		4	0	3	0	1	0	4
	アスベスト分析研修 第1回	6月24日-6月28日	5【5】		6	0	6	0	0	0	6
	アスベスト分析研修 第2回	7月29日-8月2日	5【5】		6	0	5	0	1	0	6
	研修支援教材の配信	(前期)5月13日-9月30日 (後期)11月5日-3月28日			(前期)572 (後期)789						
	小計			1,361	132	4	88	35	5	0	132
職員 研修	環境省新採用職員研修	4月2日-4月18日	13【5】		92	86	0	0	0	0	86
	環境省職員研修(課長補佐級)	9月-12月の間	3【1】		80	68	0	0	0	0	68
	自然保護官等研修 I	1月14日-1月17日	4【4】		32	29	0	0	0	0	29
	自然保護官等研修 II ①	12月2日-12月6日	5【5】		22	21	0	0	0	0	21
	自然保護官等研修 II ②	12月2日-12月5日	4【4】		16	14	0	0	0	0	14
	環境行政基本研修	4月2日-4月18日	13【0】		327	189	6	34	0	0	229
	環境省職員研修(令和3年度入省職員フォローアップ研修)	10月3日-10月4日	2【2】		58	57	0	1	0	0	58
	環境省職員研修(環境問題史)	1月9日、1月22日~1月24日	4【3】		15	14	0	0	0	0	14
	小計			0	642	478	6	35	0	0	519
	合計			3,121	1275	500	288	333	7	10	1,138

(注) 1.このほか、環境行政実務研修の修了者が69名であった。
2. 研修修了者数における「その他」は、海外からの研修生である。

表2 研修日数及び研修修了者数の令和5年度実績との比較

区分	令和5年度			令和6年度		
	研修の名称	研修日数 (日)	修了者数 (人)	研修の名称	研修日数 【うち集合】 (日)	修了者数 (人)
行政研修	地方公共団体実行計画策定研修	5【5】	12	地方公共団体実行計画策定研修	5【5】	9
	日中韓三カ国合同環境研修	4【4】	17	日中韓三カ国合同環境研修	4【4】	19
	動物愛護管理研修	5【5】	71	動物愛護管理研修	4【4】	61
	産業廃棄物対策研修(基礎)	19【4】	76	産業廃棄物対策研修(基礎)	19【4】	90
	廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)	10【3】	40	廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)	18【3】	42
	国際環境協力基本研修	10【3】	17	国際環境協力基本研修	18【3】	22
				大気環境研修	21【2】	73
				騒音・振動防止研修	15【2】	66
				水環境行政研修	4【4】	90
				環境問題史研修(もやい直し-水俣の経験から学ぶ地域再生-)	4【3】	15
	小計	56【27】	248	小計	112【34】	487
分析研修	水質分析研修	15【5】	35	水質分析研修	15【5】	36
	特定機器分析研修Ⅰ(ICP-MS)	13【5】	12	特定機器分析研修Ⅰ(ICP-MS)	15【5】	12
	特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS/MS)(第1回)	13【5】	8	特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS/MS)(第1回)	15【5】	10
	特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS/MS)(第2回)	14【5】	8	特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS/MS)(第2回)	14【5】	10
	大気分析研修	20【5】	21	大気分析研修	15【5】	20
	廃棄物分析研修	14【5】	10	廃棄物分析研修	14【5】	8
	VOCs分析研修(水質)	9【5】	8	VOCs分析研修(水質)	15【5】	10
				課題分析研修Ⅰ(プランクトン)	5【5】	10
				ダイオキシン類環境モニタリング研修(基礎課程)	15【5】	4
				アスベスト分析研修	5【5】	6
			アスベスト分析研修(第2回)	5【5】	6	
	研修支援教材の配信	-	-	研修支援教材の配信	-	-
	小計	103【40】	108	小計	133【55】	132
職員研修	環境省新採用職員研修	3【1】	73	環境省新採用職員研修	13【5】	86
	環境省職員研修(課長補佐級)	1【1】	80	環境省職員研修(課長補佐級)	3【1】	68
	自然保護官等研修Ⅰ	4【4】	22	自然保護官等研修Ⅰ	4【4】	29
	自然保護官等研修Ⅱ	4【4】	24	自然保護官等研修Ⅱ①	5【5】	21
	自然保護官等研修Ⅲ	3【3】	12	自然保護官等研修Ⅱ②	4【4】	14
	環境行政基本研修	2【0】	253	環境行政基本研修	13【0】	229
	環境省職員研修(令和2年度入省職員フォローアップ研修)	2【2】	52	環境省職員研修(令和3年度入省職員フォローアップ研修)	2【2】	58
	環境省職員研修(環境問題史)	3【3】	15	環境省職員研修(環境問題史)	4【3】	14
	小計	22【18】	531	小計	48【24】	519
	合計	181【85】	887	合計	293【113】	1,138

(注)「研修日数」は実日数である。

表3 所属機関別研修修了者数の令和5年度との比較

区 分 所属機関	令和5年度		令和6年度	
	修了者数 (人)	構成比 (%)	修了者数 (人)	構成比 (%)
国 家 公 務 員	443	49.9	500	43.9
地 方 公 務 員	378	42.6	621	54.6
（都道府県職員）	213	24.0	288	25.3
（市区町村職員）	165	18.6	333	29.3
独 法 等 職 員	54	6.1	7	0.6
そ の 他	12	1.4	10	0.9
合 計	887	100.0	1,138	100.0

(注)所属機関における「その他」は、海外からの研修生である。

(参考) 令和6年度 研修日程表【実績】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
4月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火			
	環境行政基本研修(オンライン) 環境省新採用職員研修(オンライン) 研修所 福島 (5日・92名)																																
5月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	31	
	接 特定機器分析 I (ICP-MS) (オンライン) 開 接 特定機器分析 II (LC/MS/MS) ①(オンライン) 開																																
6月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	30
	ICP-MS 閉 (5日・12名) LC/MS/MS① 閉 (5日・10名) 開 アスベスト分析① 閉 (5日・6名) 開 課題分析 I (プランクトン) 閉 (5日・10名) 騒音・振動防止研修(オンライン)																																
7月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	30	31	
	接 VOCs分析研修(水質)(オンライン) 開 水環境行政研修 (4日・90名) 騒音・振動防止研修 (2日・67名) 動物愛護管理研修 (4日・71名) VOCs分析(水質) 開 (5日・10名) アスベスト分析② 開 (5日・6名)																																
8月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	31	
	閉 メンテナンス期間 閉 大気環境研修(オンライン) 大気環境研修 (2日・76名) ダイオキシン(基礎)(オンライン)																																
9月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	30	
	開 ダイオキシン(基礎) 閉 (5日・4名) 課長補佐研修 (環境省本省での開催(オンライン併用):1日・80名) 課長補佐研修(オンライン)																																
10月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	31	
	接 廃棄物分析(オンライン) 開 廃棄物分析 閉 (5日・8名) 接 特定機器分析 II (LC/MS/MS) ②(オンライン) 開 LC/MS/MS② 閉 (5日・10名) フォローアップ研修 (2日・58名) 課長補佐研修 (研修所での開催:1日・21名) 課長補佐研修 (研修所での開催:1日・21名) 課長補佐研修 (中部事務所での開催:1日・16名; (中国四国事務所での開催:1日・5名) 産業廃棄物(基礎)(オンライン) 地方公共団体実行計画策定研修 (5日・9名) 廃り専攻別(オンライン)																																
11月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	30		
	課長補佐研修 (福島事務所での開催:1日・10名)(沖縄奄美事務所での開催:1日・7名) 接 水質分析(オンライン) 日中韓三カ国合同環境研修 (北九州市での開催:4日・19名) 産業廃棄物対策研修(基礎) (4日・90名) 廃り専攻別 (北九州市での開催:3日・42名)																																
12月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	31	
	開 水質分析 閉 (5日・36名) メンテナンス期間 閉庁期間 自然保護官等研修Ⅱ① (5日・22名) 自然保護官等研修Ⅱ② (4日・16名)																																
1月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	31	
	閉庁期間 接 大気分析研修(オンライン) 開 自然保護官等研修Ⅰ (4日・32名) 職員研修(環境問題史)(オンライン) 職員研修(環境問題史) (水俣市での開催:3日・15名) 環境問題史研修(もやい直し)(オンライン) 環境問題史研修(もやい直し) (水俣市での開催:3日・15名) 国際協力基本(オンライン) 国際協力基本 (北九州市での開催:3日・22名)																																
2月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	28
	大気分析実習 閉 (5日・20名)																																
3月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	31

注 | ■ は閉庁日。
接 接続テスト
開 開講式 閉 閉講式

(別添資料)

令和6年度

各研修の実施要綱および日程表

令和6年度地方公共団体実行計画策定研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

地方公共団体は、地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年法律第117号）第21条に基づき、地方公共団体の温室効果ガス削減計画（地方公共団体実行計画）を策定することとされている。このうち、事業者・住民等も含めた区域全体の温室効果ガス削減計画である地方公共団体実行計画（区域施策編）は、小規模な団体を中心に、人員や専門的知見の不足等を理由として計画の策定率が低い傾向にある。一方で、2050年カーボンニュートラルや2030年度温室効果ガス削減目標の達成に向けては、全国の地方公共団体で地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定し計画的に脱炭素施策を推進していく必要がある。

このような背景を踏まえ、本研修では、市町村（指定都市及び中核市を除く）において地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画の策定・改定業務等担当している職員等を対象に、地域脱炭素政策や地方公共団体実行計画の制度、計画策定のポイントについて解説等を行うとともに、先進自治体からの事例紹介を行う。併せて、地方公共団体実行計画策定に係るワークショップを、グループワーク形式で行うことなどを通じて、計画策定に必要な基本的な考え方や専門的知識・技術を習得させるとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互の啓発及びネットワークの形成を図ることを目的とする。

2. 期間及び会場

(1) 期間：令和6年10月7日（月）～令和6年10月11日（金）（5日間）

※期間中は全員合宿制となります。

(2) 場所：

① 講義等：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

TEL 04-2994-9766

② 現地見学：所沢市内の再生可能エネルギー施設等

3. 教科内容 3～4頁のとおり

4. 研修予定人数 30名程度

5. 受講資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1). 市町村（指定都市及び中核市を除く）において、地球温暖化対策の推進に関する業務を担当している職員

(2). 基本的なPC操作（Word, Excel, PowerPoint等）が可能である者

(3). 研修受講に支障のない健康状態にある者

(4). 所属長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦方法

所属長は、研修生を推薦する場合、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**令和6年8月1日（木）**までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・ 地方公共団体実行計画の策定・改訂を担当している職員を優先する場合がある。
- ・ 同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位に基づき調整する場合がある。
- ・ 被推薦者数を調整するに当たっては、過去の他研修受講実績などを考慮する場合がある。
- ・ 地方公共団体実行計画（区域施策編）の未策定団体を優先する場合がある。
- ・ 財政力指数の低い自治体を優先する場合がある。

8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。なお、決定した研修生に対しては、研修までに地方公共団体実行計画（区域施策編）策定に必要な所属元の情報（産業・経済構造、地域課題、温室効果ガス排出量、再エネポテンシャル等）を収集する事前課題を課す予定。

9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1). 往復に必要な旅費
- (2). 滞在費

11. 日程

別添2「日程表（令和6年度地方公共団体実行計画策定研修）」のとおり。

12. その他

- (1). 本研修では当所で用意したPC及びインターネット環境（ポケットWi-Fi）を用いた演習を行います。
- (2). 演習を行うにあたり事前課題を提出いただきます。事前課題のデータの提出・持参方法は、研修生決定後に連絡します。
- (3). 「研修受講ガイドブック」（研修受講に当たっての留意事項に関する情報）を環境調査研修所ホームページ（URL <http://www.neti.env.go.jp>）に掲載しておりますので御参照ください。

令和6年度地方公共団体実行計画策定研修 教科内容

【研修の柱】

1. **オリエンテーション**・・ 1時間00分
本研修の趣旨、ワーク内容の説明を受けるとともに、他研修生に対して自己紹介を行う。また、グループワークの班員を把握する。
2. **個人ワーク**・・ 9時間05分
事前課題で収集した情報や講義を踏まえ、研修生個人にて温室効果ガス排出量の推計・要因分析等を行い、CO2削減目標、再生可能エネルギー導入目標策定等に必要な知識・技術を習得する。
また、研修全体通して簡易版の地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定する。
3. **グループワーク 1**・・ 3時間10分
事前課題、個人ワークで把握した研修生の自治体特徴と各講義受講を経て得た知識を踏まえて、各自治体の地域課題の整理やその解決につながる地方公共団体実行計画（区域施策編）の施策をグループ別に検討する。また、施策発表を通じて、多様な視点からの脱炭素について理解を深める。

グループワーク 2・・ 3時間50分
合意形成の手法について講義を受けた後、地域に再エネ導入の計画が持ち込まれたシチュエーションを想定して地域関係者（住民、自治体職員、事業者、環境保全団体、商工会議所等）役に分かれた協議会の開催、運営をロールプレイング形式で実施する。
4. **ワーク成果発表**・・ 1時間40分
当該研修を通じて策定した簡易的な地方公共団体実行計画（区域施策編）を発表し、研修生同士での質疑応答を通して理解を深める。

※全体を通して研修生同士の交流を活発に行い、相互の啓発・交流の促進を図る。

【講義等】

個人ワーク、グループワークに必要な情報のインプット

●講義

1. **【基調講義】脱炭素政策に関する国内外の最新動向について**・・・・・・・・ 1時間10分
地球温暖化の現状と科学的知見、脱炭素の動き（世界・国内）、地域脱炭素の必要性・意義、地域脱炭素を支える様々な制度・仕組み等についての理解を深める。
地方公共団体実行計画制度の概要・構成と施行状況の説明・各種支援の講義を受け、実行計画の意義や手法、策定に必要なツール、補助制度等の理解を深める。
太陽光発電設備に関する第三者所有モデル（PPAモデル）の概要説明、公共施設等への導入事例の紹介を受け、自らの自治体における太陽光発電設備導入の糸口を見つける。
2. **地域共生型再エネの導入と再エネ促進区域の設定に向けたゾーニング・合意形成の取組について**・・ 0時間55分
地域共生型再エネ導入の必要性や背景、国や自治体における対策の現状等の説明を受け、地域脱炭素化促進事業制度の理解を深める。
再エネ促進区域を設定する取組事例の紹介を受け、ゾーニングや合意形成に係る手法・留意点等を学び、自らの自治体に取り入れるヒントを得る。

●外部講義

3. **実効性のある地方公共団体実行計画策定に向けて**・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間00分
自治体の実効性のある地方公共団体実行計画を策定するための留意点等についての講義を通じ、各々の自治体の計画策定に向けたヒントを得る。
4. **地域新電力の取組紹介**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0時間30分
稼働済み地域新電力会社による自治体と連携した地域脱炭素の取組に係る講義を受け、地域新電力設立の効果や事業者との連携のためのヒントを得る。
5. **小規模自治体における区域施策編策定の取組紹介**・・・・・・・・・・・・・・・・ 0時間30分
実際に地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定した小規模自治体から、策定の背景や流れ、具体的な施策・取組内容等の紹介を受け、計画策定の必要性や技術を学ぶ。
6. **現地見学**・・ 4時間00分
地域脱炭素の取組事例の現場見学を行うことにより、地域脱炭素の具体的な取組の課題

や意義等についてより理解を深める。

●その他

7. その他（研修の講評、開・閉講式）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0時間55分

合計 27時間45分

（注）

- 教科内容は、都合により変更になることがあります。
- 開講式は13時00分から行います。12時30分までに入所して下さい。
- 閉講式は12時35分に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 地方公共団体実行計画策定研修 日程表

別添2

時分	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																												
分	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
10月7日 1日目 (月)	<研修生 移動>																																					
10月8日 2日目 (火)	8:50～12:00 (190分)(休憩含む) <個人ワーク①> 事前課題で集めた情報をもとに、受講生毎に温室効果ガス排出量の推計・要因分析を行う。					昼休み (12:00～13:00)					13:00～13:30(30分) <外部講義②> 地域新電力の取組紹介 ・地域新電力における自治体と連携した地域脱炭素の取組について講義いただく。 たんたんエナジー株式会社 代表取締役 木原 浩貴					13:40～17:00 (200分)(休憩含む) <グループワーク1> 区域施策編の施策をグループ別に検討する 施策発表を通じ、多様な視点からの脱炭素について理解を深める。					休憩																	
10月9日 3日目 (水)	08:50～9:20(30分) <外部講義③> 小規模自治体における区域施策編策定の取組紹介 ・小規模自治体における地方公共団体実行計画区域施策編策定の背景、流れや施策・取組内容等をご紹介いただく。 邑南町 地域みらい課 係長 藤田 浩司					9:20～12:00 (160分) (休憩含む) <グループワーク1(続き)> 区域施策編の施策をグループ別に検討する 施策発表を通じ、多様な視点からの脱炭素について理解を深める。					昼休み (12:00～13:00)					13:00～13:40 (40分) <グループワーク1 成果発表> 施策発表を通じ、多様な視点からの脱炭素について理解を深める。 ●ワーク内容 ・グループ毎に5分の発表を行う。(5分×6グループ) ・質疑応答(全グループ発表後に10分)					13:50～17:50 <現地見学> 地域脱炭素の取組事例の現場見学を行うことにより、地域脱炭素の具体的な取組の課題や意義等についてより理解を深める (所要時間の関係等必要に応じて見学場所を調整する) 13:40 ロータリー集合 北岩岡太陽発電所 13:50 研修所出発 メガソーラー所沢 YOT-TOKO エア・リキード所沢松郷水素ステーション 研修所着																	
10月10日 4日目 (木)	8:50～10:55 (125分)(休憩含む) <個人ワーク②> 地方公共団体実行計画区域施策編策定作業 ●ワーク内容 ・事前課題で収集した情報、個人ワーク①で設定した再エネ導入目標に加え、グループワークの成果から各自治体に適した具体的施策を選択し、統合・整理の上で自治体ごとの独自の区域施策編を策定する。					休憩					11:05～12:00 (55分) <講義> 地域共生型再エネの導入について再エネ促進区域の設定に向けたゾーニング・合意形成の取組について ・地域における再エネ導入の現状 ・地方自治体における対応(再エネ条例等) ・地域脱炭素化促進事業制度 ・過年度の計画づくり支援事業での補助自治体の取組紹介 環境省大臣官房地域脱炭素推進審議官グループ 地域脱炭素政策調整担当参事官室 係長 林 孝彦					昼休み (12:00～13:00)					13:00～14:50 (110分) <グループワーク2①> 地域共生型再エネの導入に必要な地域の合意形成について学ぶ(事前準備編) ●ワーク内容 ・グループワーク2の趣旨説明 ・自治体職員役、住民役、環境保全団体役、商工会議所役等に分かれて作戦会議					休憩												
10月11日 5日目 (金)	8:50～9:50 (60分) <個人ワーク③> ・個人ワークの続き ●ワーク内容 ・各自で所属自治体の区域施策編(簡易版)の完成を目指す。 ・10:00開始のワーク成果発表資料を完成させる(発表資料は区域施策編(簡易版)そのままとすることも可とする。)					休憩					10:00～11:40 (100分) <ワーク成果発表> 目標・発表を通じ、多様な視点からの脱炭素について理解を深める。 ●ワーク内容 ・区域施策編策定成果を1人12分程度で発表してもらう。 その後、全体からの質疑応答(20分程度)を行う。					休憩					11:50～12:10 (20分) <研修の講評> 成果発表へのコメント、今後の脱炭素施策へのアドバイス 環境省大臣官房地域脱炭素推進審議官グループ 地域脱炭素政策調整担当参事官 大倉 紀彰					休憩												

第22回日中韓三カ国合同環境研修 募集要項

1. 目的及び概要

本研修は、平成11年から始まった日中韓三カ国の環境大臣会合で、日本、中国、韓国が、「環境共同体」であることの意識の向上を図る必要があるという合意がなされたことを受けて、第1回（平成13年度）日本の環境研修センター（現：環境調査研修所）での実施を皮切りに三カ国の合同プロジェクトとして毎年持ち回りで開催しているものです。令和4年度にはオンライン（韓国主催）、令和5年度は中華人民共和国浙江省寧波市奉化区（中国主催）で開催されました。

本年度は日本が主催し、令和6年11月5日（火）から11月8日（金）（移動日含む）の日程で、福岡県北九州市において研修を行います。

2. 期間及び開催地：

(1) 期間：令和6年11月5日（火）から11月8日（金）まで（4日間）

※期間中は当所の用意したホテルでの宿泊となります。

※11月5日（火）及び8日（金）は移動日とする予定です。

(2) 開催地：福岡県北九州市

3. 研修予定人員：日本から10名（予定）

（韓国からは5名、中国からは5名（予定））

4. 使用言語：日本語、中国語、韓国語、英語

※研修プログラムにおいては、研修生は母国語で発言し、日本語への通訳を用意する予定。研修期間中の研修生間の交流は英語等にて行っていただきます。

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国又は地方公共団体において下記研修テーマに関連する環境行政分野に従事している職員（過去従事していた者も含む）

テーマ：循環経済及び資源効率性

Circular Economy and Resource Efficiency

(2) 3年以上、公務員としての実務経験を持つ者

(3) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(4) 所属長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合は、別紙様式による被推薦者名簿を添え8月30日（金）までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知願います。

なお、送付は電子での提出を基本とするとともに、2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を明示願います。

【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

※研修実施事業者（環境省発注）に対し、参加予定の研修生情報をお伝えすることを予定しておりますので、予めご了承ください。

7. 研修プログラムの準備等

研修プログラムのなかで、【テーマ：循環経済及び資源効率性】に関するプレゼンテーションを予定しています。研修生は、研修前にプレゼンテーションの準備をする必要があります。プレゼンテーションの詳細なテーマや時間、締め切り等は研修生決定後、研修生に連絡します。なお、

プレゼンテーションにおける発表言語は日本語、スライドについては英語使用を想定していません。

8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知します。

9. 修了について

所定の課程を修了した者に対して、修了証書（英語）を交付します。研修受講の結果については、研修修了後、所属長に通知します。

10. 経費

- (1) 受講料は無料です。
- (2) 研修生居所から集合場所（福岡県北九州市小倉駅付近を想定）までの交通費及び日当については、研修生所属機関の負担となります。集合場所等については、研修生決定後に別途連絡します。環境省職員の居所から現地までの往復交通費については環境調査研修所が負担します。
- (3) 滞在中の宿泊場所、食事については、当所において用意します。

11. 留意事項

- (1) 本募集要項の情報につきましては、現状の内容となります。本研修は国際研修であるという性質から、日程等詳細につきましては、変更が生じ得ますこと、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先
環境省環境調査研修所教務課
内海、阿部
TEL:04-2994-9766
E-mail:KYOMU_KA@env. go. jp

(参考)

本研修を企画した背景

日本・中国・韓国の三カ国は、地域的にも、歴史的にも緊密な関係を有しており、また、大気、海洋等を通じて環境問題も共有しています。この三カ国が地域内のみならず地球規模の環境問題に関し、率直な意見交換を行い協力を強化していくため、1999年以来、日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM）を行っています。

日中韓三カ国合同環境研修は、環境大臣会合において、日本、中国、韓国が「環境共同体」であることの意識の向上を図る必要があるという合意がなされたことを受け、三カ国の合同プロジェクトとして合意されたプロジェクトの一つです。

- ①第一回大臣会合（平成11年1月）…三カ国の環境共同体意識の向上の必要性を確認
- ②第二回大臣会合（平成12年2月）…「日中韓三カ国の環境共同体意識の向上*」プロジェクトの一つとして三カ国の環境行政に携わる公務員の合同研修を行うことを確認。

*「日中韓三カ国の環境共同体意識の向上」について

日中韓の三カ国は、地域的に同じ大気・海域・自然環境条件等を有している。したがって、環境悪化の原因、環境への影響、環境対策の基盤、更には環境対策の効果も共有している。このような事実を三カ国の人々が常に意識し、三カ国が協力して問題に対処していくという共通認識を持つことが、日中韓三カ国のみならず、地球全体の環境問題の解決に重要である。第一回日中韓三カ国環境大臣会合の際に、こうした意識の形成を図る必要性が認識されました。

また、平成27年度に開催されたTEMM17では、今後5年間の三カ国の協力を定めた「環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画」が策定されました。同行動計画において、この合同研修の継続的实施が定められました。その後のTEMM22で採択された令和3年度から5年間の計画である新しい「環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画」においても、同趣旨は引き継がれています。

研修の実施機関

研修の企画・実施は、各国の以下の三つの実施機関が協力して行っています。

- 日 本 ○環境省環境調査研修所
- 中 国 ○中華人民共和国環境保護部宣伝教育中心
- 韓 国 ○大韓民国環境部国立環境人力開発院

本研修は、平成13年度に第1回研修を開催し、毎年1回、日本、韓国、中国が三カ国持ち回りで開催することとしています。

合同研修の目的

この研修は、日中韓三カ国の公務員が、三カ国の環境の現状、各国が抱えている環境に関する課題及びその対策等についての情報や認識を共有し、ひいては今後の各国及び各国内の地方レベルでの環境行政において、より広い視野からの施策の展開を促進することを目的としています。

受講対象者

日本、中国、韓国で現在環境行政に携わっている国家及び地方公務員で、政策決定を担う業務に従事している、または将来従事することが期待される者を対象とします（研究職の方は対象外です）。

研修の構成

- (1) 日中韓三カ国の地域の環境の状況等についての相互理解の醸成を目的として、今回は「循環経済及び資源効率性」をテーマとして研修を実施します。
- (2) 研修員によるディスカッション等により、研修生相互間での情報及び意見交換を促すものとします。
- (3) 現地視察として、テーマに関連する施設等の見学を行う予定です。

※日中韓三カ国環境大臣会合については、下記の環境省ウェブサイトをご参照ください。
https://www.env.go.jp/earth/coop/temm/introduction_j.html

これまでの実績等

回数	年度	開催国	期間	研修テーマ	研修生数
第1回	13	日本	11.27～ 12.4	・日中韓各国の環境行政に関する行政組織体制と業務の概要 ・淡水域の水質汚染の現状と課題	日本：10名 韓国、中国：各5名
第2回	14	韓国	12.2～ 12.11	・大気保全 ・水質保全 ・廃棄物管理	韓国：9名 日本、中国：各5名
第3回	15	中国	12.1～ 12.10	・水質管理 ・廃棄物管理 ・北東アジア地域における国際環境協力	中国：10名 日本、韓国：各5名
第4回	16	日本	11.21～ 11.28	・循環型社会の構築(廃棄物・リサイクル対策) ・地球温暖化対策	日本：10名 韓国、中国：各5名
第5回	17	韓国	11.20～ 11.26	・都市大気汚染 ・循環型社会	韓国：10名 日本：5名 中国：3名
第6回	18	中国	11.21～ 11.25	・循環型経済(3R)政策及び法制度について ・自然環境保全及び再生の手法について	中国：8名 日本、韓国：各5名
第7回	19	日本	11.26～ 11.30	・化学物質管理 ・ESD(持続可能な開発のための教育)・環境教育／環境意識の普及・啓発	日本：10名 韓国・中国：各5名
第8回	20	韓国	11.24～ 11.28	・廃棄物のエネルギー資源化に係る政策 ・環境負荷の少ない廃棄物管理(3Rを含む)	韓国：9名 日本・中国：各5名
第9回	21	中国	11.23～ 11.27	・生物多様性の保護と持続可能な利用の推進に係る政策及び法制度 ・生物多様性の保護と持続可能な利用の推進に係る普及啓発及び教育	中国：10名 日本、韓国：各5名
第10回	22	日本	11.22～ 11.26	・水環境保全 ・淡水域における水質汚染の現状と課題 ・地下水汚染対策	日本：8名 韓国：5名 中国：4名
第11回	23	韓国	11.21～ 11.25	・低炭素、グリーン成長 ・グリーン成長に係る教育とエコラインスタイル実践戦略 ・グリーン技術開発とグリーン産業振興計画	韓国：8名 日本：5名 中国：3名
第12回	24	中国	11.26～ 11.30	・湖の環境保全 ・湖の環境保全政策 ・湖の環境保全に係る教育・普及啓発	中国：8名 韓国：5名 日本：2名

第13回	25	日本	11.18～ 11.22	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な都市の大気環境 ・大気汚染のモニタリング、防止及び規制のための技術 ・大気汚染防止に係る施策 	日本：7名 韓国、中国：各5名
第14回	26	韓国	11.2～ 11.8	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保全 	韓国：6名 日本、中国：各5名
第15回	27	中国	11.8～ 11.14	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保護に関する公衆参加の促進 	中国：8名 韓国、日本：各5名
第16回	28	日本	11.6～ 11.12	<ul style="list-style-type: none"> ・資源循環利用/3R 	日本：10名 韓国、中国：各5名
第17回	29	韓国	10.15～ 10.21	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な成長のための生物多様性 	韓国：5名 中国：4名 日本：5名
第18回	H30	中国	11.18～ 11.23	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン開発と市民参加 	中国、日本：各4名 韓国：5名
第19回	H31 (R1)	日本	9.15～ 9.21	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における環境管理 	日本：8名 中国：5名 韓国：0名
第20回	R4	韓国	R5 2.14～ 2.17 (オンライン形式)	<ul style="list-style-type: none"> ・資源循環と廃棄物管理 	日本：2名 中国：3名 韓国：4名
第21回	R5	中国	12.6～ 12.9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域レベルでの低炭素な開発の促進 	日本：5名 中国：7名 韓国：5名

第22回日中韓三カ国合同環境研修

*テーマ：「循環経済と資源効率性」

*研修期間： 2024.11.5～11.8

*場所： 福岡県北九州市

月日(曜)	時間	場所	プログラム
11.5(火)			研修会場到着(チェックイン・夕食)
11.6(水)	9:00~9:30	ホテル	開講式、オリエンテーション
	9:40~10:40		基調講義「プラスチック資源循環に関する国際動向と日本の取組」 環境省環境再生・資源循環局総務課容器包装・プラスチック資源循環室長 井上 雄祐
	10:50~11:50		講義「北九州市の循環ビジョンおよびプラごみアップサイクルの取組と課題」 北九州市環境局環境国際部環境国際戦略課長 村上 恵美子
	12:00~13:00		ランチ
	13:00~13:30		プレゼンテーション①：韓国のプラスチックリサイクルの取組と課題
	13:30~14:00		プレゼンテーション②：中国のプラスチックリサイクルの取組と課題
	14:00~14:30		プレゼンテーション③：日本のプラスチックリサイクルの取組と課題
	14:40~15:00		アイスブレイク
	15:00~16:00		ディスカッション① 国別
	16:15~17:30		ディスカッション② 全体
	18:30~		歓迎会
11.7(木)	9:00~9:30	Iタウン センター(ほか)	移動
	9:30~10:20		施設見学① 北九州市エコタウンセンター
	10:20~10:40		移動
	10:40~11:40		施設見学② 株式会社ビートルエンジニアリング(分別ライン)
	11:40~11:50		移動
	11:50~13:00		ランチ及びフィールドツアー 響灘ビオトープ
	13:00~13:10		移動
	13:10~14:20		施設見学③ 株式会社JEPLAN(プラスチックリサイクル)
	14:20~14:30		北九州市エコタウンセンターへ移動
	14:30~14:50		ラップアップミーティング
	15:00~15:30		閉講式
	15:30~16:00		ホテルクラウンパレス小倉へ移動
	16:15~17:30		小倉城庭園に移動し日本文化体験
	18:30~	ホテル	歓送会
11.8(金)	8:00		研修会場出発(中韓参加者福岡空港へ移動)

令和6年度動物愛護管理研修実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

人と動物の共生社会の実現にあたり、一部の不適正な動物取扱業者や増加する動物虐待事案への適切な対応、災害時の避難所におけるペット同行避難の受入れ体制整備、野良猫による人の生活環境被害の防止など、動物の愛護及び管理に係る様々な取組が行政機関や職員において求められている。

このような背景から、本研修は、国及び地方公共団体等において動物愛護管理に関する業務を担当している職員が、動物愛護管理を巡る課題と基本的な考え方、ペット問題に関する様々な取組等業務実施に必要な専門的知識を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的として実施する。

2. 期間及び会場

(1) 期間：令和6年7月22日（月）から7月25日（木）まで（4日間）

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

TEL04-2994-9766

3. 教科内容

3頁のとおりとする。

4. 研修予定人員

90名程度

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国において動物愛護管理又は自然環境業務を概ね2年以上経験している者及び地方公共団体等において動物愛護管理業務を概ね2年以上経験している者。

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者。

(3) 所属長の推薦を受けた者。

6. 研修生の推薦方法

所属長は、研修生を推薦する場合、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**令和6年6月14日（金）**までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 行政事例の作成

研修生が日々抱えている問題事例を共有し、事例と問題の理解を深め、情報を交換し、問題解決の糸口を探る等により、今後の業務遂行に資するとともに、研修生相互の啓発、交流を図ることを目的として「行政事例発表」を実施する予定。受講決定者に様式を送付するため、行政事例を必ず作成させたい。環境調査研修所まで提出すること。なお、詳細や不切等については別途連絡する。

8. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先させていただく場合がある。
- ・調整するに当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

9. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

10. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

1.1. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。

1.2. 日程について

別添2「日程表（令和6年度動物愛護管理研修）」のとおり。

* 次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL [http:// neti.env.go.jp](http://neti.env.go.jp)）に掲載していますのでご参照下さい。

◎ 「研修ガイドブック」（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しています。）

◎ 「実施要綱」・「被推薦者名簿」様式

<令和6年度動物愛護管理研修／教科内容>

教科目	時間
I 1日目	
1. 動物愛護管理行政概論/動物取扱業対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.5時間
動物愛護管理の意義や法制度、課題や展望について知見を得る。また、飼養管理基準について、法制度や現場での運用実態及び課題や、不利益行政処分実施要領の作成等、自治体での動物取扱業者への取組事例に関する知見を得る。	
2. 動物のしつけや問題行動相談対応及び譲渡に向けた行動修正について・・・・・・・・	1.5時間
犬や猫のしつけや問題行動に関する相談や譲渡に際し、獣医学的、行動学的な観点からの適切な対応を行うための知見を得る。	
II 2日目	
3. ペット災害対策・・	1.5時間
災害時におけるペットの同行避難や自治体における受入れ体制について取組事例や工夫点、課題について知見を得る。	
4. 虐待事例と臨床獣医学、シェルターメディスン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4.5時間
動物愛護管理法における罰則規定等、動物虐待等に関する基本事項について知見を得る。シェルターに特化した獣医療としてのシェルターメディスンを理解するほか、シェルター以外の地域の動物問題についても知見を得る。	
III 3日目	
5. 災害時等の広域譲渡で起こりうる課題と対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.5時間
能登半島地震において行った広域譲渡の事例を紹介しつつ、災害時等の広域譲渡の平時から行うべき備えや検討すべき課題、民間団体との連携についてや地域性のある疾病への対応などについて知見を得る。	
6. 多頭飼育問題対策における多職種連携の在り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.5時間
多頭飼育問題について、発生の背景や対応方法、事例紹介、動物愛護部局や社会福祉部局をはじめとした多職種連携などについて、知見を得る。	
7. 地域猫対策のこれまでとこれから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3時間
野良猫による生活環境被害の防止と動物愛護の両立に根ざした地域猫活動に関する取組事例や工夫点、課題について知見を得る。	
IV 4日目	
8. グループワーク（不適正な動物取扱業者への対応）・・・・・・・・・・・・・・・・	4.5時間
不適正に動物を取扱う動物取扱事業者に対する適切な対応をグループワークで検討し、研修で得た専門的知見の活用を図るとともに、研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図る。	
VI その他	
9. その他（開・閉講式、オリエンテーション、事例発表）・・・・・・・・・・・・	2.75時間
	合計 22.25時間

(注)

- 教科内容および講義時間は、都合により一部変更になることがあります。
- 開講式は13時15分より行いますので、12時45分までに入所してください。
- 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 動物愛護管理研修 日程表

(別添2)

環境調査研修所

	8:50	9:30	10:00	11:00 11:15	12:45 13:45	15:15 15:30	17:00
				(休憩)	(昼休み)	(休憩)	
7/22 (月)					(13:15~ 13:45) 開講式/オリ エンテーショ ン	動物愛護管理概論/動物取扱業対応 【環境省動物愛護管理室】	動物のしつけや問題行動相談対応及び譲渡 に向けた行動修正について 【東京農工大学ディーブテック産業開発機構 フロンティア研究環伴侶動物診療拠点特任准教 授 入交眞巳氏 / 東京農工大学フロンティア研究環伴侶動物臨床 拠点産学官連携研究員 対馬美香子氏】
7/23 (火)	事例共有	ペット災害対策（講義） 【NPO法人アナイス理事長 平井潤子氏】		虐待事例と臨床獣医学、シェルターメディスン（講義・事例研究等含む） 【日本獣医生命科学大学獣医学野生動物学教室特任教授 田中亜紀氏、環境省動物愛護管理室】			
7/24 (水)	事例共有	災害時等の広域譲渡で起こりうる課題と対策 【環境省動物愛護管理室、 NPO法人ねりまねこ副理事長 亀山嘉代 氏】		多頭飼育問題対策における多職種連携の在り方 【長野県社会福祉協議会総務企画部企画グ ループ主任 佐藤 尚治氏】		地域猫対策のこれまでとこれから 【元新宿区人と猫との調和のとれたまちづくり連絡協議会顧問 高木優治氏】	
7/25 (木)	事例共有	グループワーク テーマ：不適正な動物取扱業者への対応 【環境省動物愛護管理室、高井剛介氏（長野県）、堀江明弘氏（大阪府）】				(15:30~)	閉講式

○使用教室：講堂（本館3階）

○注意事項：最終日の閉講式終了時間は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。初日の昼食の用意はありません。研修日程（講義内容）については、変更となる場合もありますのであらかじめご承知おきください。

令和6年度産業廃棄物対策研修（基礎）実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

産業廃棄物の適正処理の推進には、産業廃棄物行政の実務を担い、産業廃棄物処理業者を指導・監督・育成する立場にある担当者の対処能力を向上させることが重要である。

このような背景から、本研修は、国及び地方公共団体等において産業廃棄物対策業務を担当する職員に対し、業務遂行に必要な基本的な法的知識等を習得させるとともに、研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的として実施する。

2. 概要

本研修は、期間内に講義動画をすべて視聴し、指定された日時に環境調査研修所に集合し実施する。

また、カリキュラムの一部に含まれている講義動画については、環境調査研修所において開催する集合研修に参加できないことから講義動画の視聴のみを希望する者（以下「動画視聴希望者」という。）に対しては公開する。詳細については「13. 動画視聴のみを希望する場合」を参照。

※以下「研修」「研修生」とは動画視聴及び集合研修両方に参加する者を前提とし、講義動画視聴のみ場合は研修としては取り扱わない。

3. 期間及び会場

(1) 期間

会場に集合する期間：令和6年11月12日（火）～11月15日（金）

講義動画視聴期間：令和6年10月28日（月）～11月22日（金）

※講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場

環境調査研修所：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

TEL 04-2994-9766

4. 教科内容

3頁のとおりとする。

5. 研修予定人員

90名程度

6. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国及び地方公共団体等において**産業廃棄物対策業務を担当している職員**

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 所属長の推薦を受けた者

(4) YouTube 環境調査研修所公式チャンネル（※）へのアクセスが可能な者

（※）<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFg1Q>

7. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙1「被推薦者名簿」を添えて、令和6年9月13日（金）までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

なお、2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

8. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先させていただく場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

9. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、7の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

なお、定員超過等により研修生として決定されなかった被推薦者に対しても、「13. 動画視聴のみ希望する場合」と同様に、講義動画視聴の URL を送付する。

10. 研修修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
※講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートは令和6年11月29日（金）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

11. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費
※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。
- (2) 滞在費
※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。

12. 日程について

別添2「令和6年度 産業廃棄物対策研修（基礎） 日程表」のとおり。

13. 動画視聴のみ希望する場合

「6. 研修を受ける資格」（1）、（2）、（4）を満たす者であって被推薦者でない者のうち、都合により集合研修に参加できないが、本研修で動画配信を行う講義（対象講義は3項に記載）の動画視聴希望者がいる場合は、別紙2「動画視聴希望者登録表」を令和6年10月4日（金）までに必着するよう提出すること。その際、環境調査研修所所長あて文書は要さない。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

動画視聴期間は、「3. 期間及び会場」（1）に記載の講義動画視聴期間と同様とし、動画視聴希望者の定員は設けない。講義動画の URL は、別紙2で登録のあった動画視聴希望者宛に後日連絡する。なお、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わないため、「10. 研修修了証書の交付」に記載の修了の状態の通知は行わないが、動画視聴者は後日送付するアンケートに回答し、指定する期日までに教務課（KYOMU_KA@env.go.jp）に提出すること。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL [研修受講ガイドブック](#) | [研修受講案内](#) | [環境調査研修所 \(env.go.jp\)](#)）に 掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

<産業廃棄物対策研修(基礎) 教科内容 > 合計 25.25 時間

○講義動画一覧

配信される以下の講義動画を令和6年10月28日(月)～11月22日(金)の間に視聴すること。実施要綱13.により登録した動画視聴希望者は、下記の講義のみ受講可能。

1. 本研修の概要、産業廃棄物に関する最近の動向(※集合研修開始前までに視聴すること)・・・1.0時間
2. 行政処分の指針等重要通知・・・1.0時間
3. 行政不服審査・・・1.0時間
4. 会計学の基礎知識・・・1.0時間
5. 排出事業者責任・・・1.0時間

I 廃掃法の基礎的な法的知識

廃棄物該当性判断や施設設置許可審査等に関する法的知識を体系的に学び、産業廃棄物対策業務に必要な基礎的な法的知識等を整理する。

1. 廃掃法概論・・・1.5時間
2. 廃棄物該当性・・・1.5時間
3. 業許可審査・・・1.5時間
4. 施設設置許可の審査・・・1.5時間
5. 処理基準・・・1.5時間
6. 施設基準・・・1.5時間

II 不法投棄・不適正処理事案の発見・対応

不法投棄・不適正処理事案の発見・対応のために必要な法的知識を体系的に習得し、実務に対応するためのスキルを向上させる。特に立入検査の際の実務上の留意点の習得、排出事業者責任の追及のための法的知識等の習得により、実際の不適正処理事案を適切な発見し対応するための法的知識等の理解を深める。

1. 不適正処理事案の端緒・・・1.5時間
2. 不法投棄・不適正処理事案の端緒・・・1.5時間
3. 改善命令・・・1.5時間
4. 措置命令・・・1.5時間
5. 原状回復・・・1.5時間

III 事例紹介・・・1.5時間

IからVで学んだ法的知識等を適用する典型的事例を紹介し、実際の産業廃棄物行政実務に習得した法的知識等を適用し、適切に対応する能力を高める。

IV 産廃行政と暴力団対策・・・1.5時間

廃棄物行政と関連の多い暴力団の状況について理解を深め、業務の遂行に資する。

V その他(開・閉講式、オリエンテーション等)・・・0.75時間

(注) ○教科内容は、都合により一部変更になることがあります。

○開講式は13時15分より行いますので、12時45分までに入所してください。

○閉講式は15時45分に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

○帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 産業廃棄物対策研修（基礎） 日程表

	月 日	9:30～11:00	11:15～12:45		13:45～15:15	15:30～17:00						
動画視聴期間	10月28日(月)～11月22日(金)	【動画視聴期間】研修生は、以下の講義を動画配信（YouTube環境調査研修所公式チャンネル）により各自受講し、別途送付するアンケートを環境調査研修所に提出する。 ・本研修の概要、産業廃棄物に関する最近の動向（※集合研修開始前までに視聴すること）（環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 課長補佐 山田 浩司） ・行政処分の指針等重要通知（環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 課長補佐 三原 利教） ・行政不服審査（環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 主査 池田 恵里香） ・会計学の基礎知識（エース会計事務所 公認会計士・税理士 山田 咲道） ・排出事業者責任（橋元綜合法律事務所 弁護士 鈴木 道夫）										
研修所にて実施	11月12日(火)				13:15～13:45	13:45	15:15	15:30	17:00			
	11月13日(水)				9:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:30	17:00
	11月14日(木)				9:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:30	17:00
	11月15日(金)				9:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:30～15:45	17:00
		処理基準		施設基準		廃掃法概論		廃棄物該当性				
		長野県環境部資源循環推進課 企画幹（廃棄物対策担当） 胡桃澤 博司		長野県環境部資源循環推進課 企画幹（廃棄物対策担当） 胡桃澤 博司		一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センター センター長 松山 豊樹						
		不適正処理事案の端緒		不法投棄・不適正処理事案の対応 <small>（立入検査・報告徴収から事実認定、是正指導、解消・改善まで）</small>		業許可審査		施設設置許可の審査				
		愛知県環境局資源循環推進課 課長補佐 桑山 知之		公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 専門家委員 岩城 吉英		横浜市資源循環局事業系廃棄物対策部事業系廃棄物対策課 担当課長（許可指導） 田島 禎之						
		改善命令		措置命令		産廃行政と暴力団対策		事例紹介				
		松山市環境部清掃施設課 副主幹 徳永 努		松山市環境部清掃施設課 副主幹 徳永 努		警察庁刑事局組織犯罪対策部 組織犯罪対策第一課 暴排係 深谷 周平		BUN環境課題研修事務所 主宰 長岡 文明				
						原状回復		閉講式				
						長野県環境部水大気環境課 課長 是永 剛						

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネル(<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)にアクセスして視聴していただけます。

○使用教室 本館3階 講堂

*注意事項

1. 日程は都合により一部変更する場合があります。
2. 最終日は15:45終了予定となっておりますが、講義時間の延長等により遅れる場合があります。帰路の交通機関の利用等による閉講式の欠席は認めません。
3. 参加にあたっては、「研修ガイドブック」（環境調査研修所Webページに掲載）をお読みください。

令和6年度廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース) 実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

国及び地方公共団体等において廃棄物・リサイクル行政に一定(概ね1年以上)の経験があり、実務の中心となっている職員が、循環型社会形成に向けた実践的な取組が行われている現場の見学を通して、循環型社会の形成を中心とした廃棄物・リサイクル対策に係る業務遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的とする。

2. 概要

本研修は、3.(1)に記載の期間内に講義動画を全て視聴した上で、福岡県北九州市に集合し実施する。また、カリキュラムの一部に含まれている講義動画については、福岡県北九州市において開催する集合研修に参加できないことから、動画配信を行う講義の視聴のみを希望する者(以下「動画視聴希望者」という。)に対しても公開する。詳細については「14. 動画視聴のみを希望する場合」を参照。
※以下「研修」「研修生」とは動画視聴及び集合研修両方に参加する者を前提とし、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わない。

3. 期間及び会場

(1)期間

全体：令和6年10月29日(火)～11月22日(金)

動画視聴期間：令和6年10月29日(火)～11月19日(火)

集合研修期間：令和6年11月20日(水)～11月22日(金)

(2)集合研修の実施場所

①講義等

タカミヤ環境ミュージアム (北九州市八幡東区東田2丁目2-6)

北九州エコタウンセンター (福岡県北九州市若松区向洋町10番地20)

KMMビル (福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目14-1)

②現地見学

北九州エコタウン (北九州市若松区響灘地区)

③宿泊先

アパホテル小倉駅前 (福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-65)

4. 教科内容 3頁のとおり

5. 研修予定人数 40名程度

6. 受講資格

次の各号のいずれかにも該当する者とする。

- (1) 国及び地方公共団体等において廃棄物・リサイクル対策業務(循環型社会の形成に係るもの)を担当している職員
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) YouTube環境調査研修所公式チャンネル(※)へのアクセスが可能な者
(※) <https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFg1Q>

7. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙1「被推薦者名簿」を添えて、**9月13日(金)《必着》**までに、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

8. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位に留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先する場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績等を考慮する。

9. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、7の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。なお、定員超過等により研修生として決定されなかった被推薦者に対しても、14. 動画視聴のみ希望する場合と同様に、講義動画視聴のURLを送付する。

10. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了又は未修了）については、研修終了後、所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

11. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費（ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する）
- (2) 滞在費（ただし、宿泊施設は環境調査研修所が借り上げるため、費用負担は不要。国家公務員（独立行政法人の職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。）

12. 日程

別添2「日程表（令和6年度廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)）」のとおり。

13. 研修実施方法

- ・受講生は、環境調査研修所がYouTube 環境調査研修所公式チャンネル（※）に掲載する講義動画を集合研修開始日前日までに視聴する。配信のURLは受講生決定後、対象者に通知する。
- ・講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートの提出先、提出期限は別途連絡する。
- ・集合研修は福岡県北九州市内において行う。集合場所・時間等は受講決定後に連絡する。

（※）YouTube 環境調査研修所公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfGJ9MS2nLCFg1Q>

14. 動画配信を行う講義のみ視聴を希望する場合

6. 受講資格（1）、（2）、（4）を満たす者であって被推薦者でない者のうち、都合により集合研修に参加できないが、本研修で動画配信を行う講義（対象講義は次頁に記載）の視聴を希望する者がいる場合は、別紙2「動画視聴希望者登録表」を令和6年9月13日（金）までに必着するよう提出すること。その際、環境調査研修所所長あて文書は要さない。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

動画視聴期間は、3.（1）に記載の講義動画視聴期間と同様とし、動画視聴希望者の定員は設けない。講義動画のURLは、別紙2で登録のあった動画視聴希望者宛に、動画視聴開始日までに連絡する。なお、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わないため、9.に記載の研修生の決定の通知及び11.に記載の修了の状態の通知は行わないが、動画視聴者は後日送付するアンケートに回答し、指定する期日までに教務課（KYOMU_KA@env.go.jp）に提出すること。

なお、講義動画は集合研修期間も含めた研修の一部であるため、集合研修への参加を前提とした内容（現地見学の訪問先に関する説明等）も含まれる可能性がある。

[令和6年度廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)／教科内容]

- ・①～⑤の【動画講義】については、令和6年10月29日(火)～11月19日(火)の期間に、YouTube環境調査研修所公式チャンネルに掲載する動画を視聴することにより各自受講してください。
- ・実施要綱14.により登録いただく動画視聴希望者は、①～⑤のみ動画にて受講可能です。

1 循環型社会の形成に向けた基本理念と方策について理解する

①【動画講義】基調講義

循環型社会の形成－我が国の廃棄物処理の変遷と循環型社会に求められる処理技術－

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会形成の意義や歴史的経過、現状と今後の展望等について理解を深める。

②【動画講義】循環型社会形成に向けた施策の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会の形成に向けた基本計画及び諸制度等について、仕組みや個別施策との関係性等について理解を深める。

2 循環型社会構築のための市民との協働について学ぶ

③【動画講義】循環型社会の形成に向けた北九州市の取組・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

北九州市における3R推進活動の具体例を学ぶ。

④【動画講義】循環型社会形成に向けた市民活動等の取組の現状と課題・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会形成に向けては、市民を含めた地域の広範な関係者の連携・参画が必要なことから、市民活動についての現状と課題を理解し、協働の重要性を知る。

⑤【動画講義】循環型社会形成に向けたリサイクル産業の現状と課題・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会形成に向けた資源循環の促進に当たっては、資源のリサイクルが重要であるところ、実際のリサイクル産業の現状と課題を学ぶ。

3 リサイクルの現場を知る

⑥現地見学(講義含む：北九州エコタウン他)・・・・・・・・・・・・・・・・ 8時間25分

各種リサイクル事業者の見学・講義を通して、リサイクルの現場を知る。

4 研修成果の整理・確認を図る

⑦グループ討議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間20分

グループ討議により、研修成果の整理・確認を図る。

⑧その他(開・閉講式、オリエンテーション)・・・・・・・・・・・・・・・・ 0時間40分

合計21時間55分

(注)都合により一部変更になることがあります。

※開講式は9時30分から行います。集合時間・場所は受講決定後にご連絡します。

※最終日の閉講式終了時刻は12時30分頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース) 日程表

(別添2)

2024. 10/29(火) ～11/19 (火)	【動画視聴期間】受講生は、以下の講義を動画配信(YouTube環境調査研修所公式チャンネル)により各自受講する。 ・【基調講義】循環型社会の形成 -我が国の廃棄物処理の変遷と循環型社会に求められる処理技術- (九州大学名誉教授 島岡 隆行) ・循環型社会形成に向けた施策の概要(環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室室長補佐 湯山 桃子) ・循環型社会の形成に向けた北九州市の取組(北九州市環境局循環社会推進課長 稲田 佳代子) ・循環型社会形成に向けた市民活動等の取組の現状と課題(高倉環境研究所代表 高倉 弘二) ・循環型社会形成に向けたリサイクル産業の現状と課題 (アマタ株) 取締役 宮原 伸朗																																
	8:30	9:00	9:30	9:50	10:00	10:50	11:00	11:45	12:00	12:30	12:45	13:00	13:15	14:00	14:10	15:00	15:10	15:20	16:00	16:50	17:00	17:30	18:00										
2024 11/20 (水)	小倉駅 北口 集合	バス移動 (環境ミュージアム)	開講式 オリエン テーショ ン	【グループ討議①】 アイスブレイク・自己紹介 オンライン講義を視聴して本研修 に期待するもの			休 憩	【見学・学習】 環境ミュージアムの 概要 (リサイクルを中心に)		昼食		自由 見学・ 移動 準備	バス移動 (エコタウンセ ンター)	【見学・学習】 エコタウンセンター の概要		バス 移動	【企業見学】 西日本ペットボトル リサイクル (PET)		バス 移動	【企業見学】 西日本家電リサイクル (家電)		バス移動 (小倉駅前)		交 流 会									
11/21 (木)	8:30	9:00	9:30	9:50	10:00	10:10	10:30	11:00	11:10	11:30	11:40	12:00	12:10	12:20	12:40	13:00	13:10	13:30	13:50	14:00	14:10	14:30	14:40	15:00	15:10	15:30	16:00	16:30	17:00	17:10	17:30	17:40	18:00
	バス移動 (北九州エコ タウン)	【企業見学】 リサイクルテック (廃ソーラー)		バス 移動	【企業見学】 ビートル エンジニアリング (分別回収)		バス 移動	【企業見学】 西日本オートリサイクル (自動車)		バス 移動	昼食 響灘ピオトープ		ピオト ープ紹介	バス 移動	【企業見学】 エコウッド (廃木材、廃ブラ)		バス 移動	【グループ討議②】 ブレインストーミング (エコタウンセンター別館2F)			バス移動 (小倉駅前)												
11/22 (金)	8:30	9:00	9:30	9:50	10:00	10:10	10:30	11:00	11:10	11:30	11:40	12:00																					
	KMMビル 集合	【グループ討議③】 各グループまとめ			休 憩	【グループ討議④】 グループ発表		休 憩	閉講式	解散																							

【注意事項】都合により一部変更になることがあります。

最終日の閉講式終了時間は12:00頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度国際環境協力基本研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

途上国由来の環境負荷が大きくなっていることから、地球環境問題や広域環境問題の解決には国際環境協力が重要であり、国及び地方公共団体等、各主体の取組が求められている。このため、環境に関する行政又は分析業務を担当している職員であって国際環境協力に関心を有する者に対し、講義、関連施設見学を通じて国際環境協力に関する基本的知識を習得し、国際環境協力への関心を高め、国際環境協力への参加の動機付けを目的とした研修を実施する。本研修では、国際環境協力の先進地である北九州市の豊富な知見を共有し、国際環境協力の問題や課題について討議するとともに、研修生間の交流を通じて、相互啓発及びネットワーク形成を図る。

2. 期間及び会場

本研修は、指定の日時に実施するオンライン講義を受講し、指定の期間に講義動画を全て視聴した上で、北九州市に集合し実施する。

(1) 期間

全体：令和7年1月7日（火）～1月31日（金）

オンライン開催期間：令和7年1月7日（火）～1月28日（火）

うちWebEXによるオンライン講義：令和7年1月10日（金）

うち公式YouTubeチャンネルによる講義動画視聴：令和7年1月7日（火）～1月28日（火）

集合研修期間：令和7年1月29日（水）～1月31日（金）

(2) 場所

①講義等

タカミヤ環境ミュージアム（北九州市八幡東区東田2丁目2-6）

JICA九州（独立行政法人国際協力機構九州センター）（北九州市八幡東区平野2丁目2-1）

KMMビル（福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目14-1）

②現地見学

タカミヤ環境ミュージアム（北九州市八幡東区東田2丁目2-6）

③宿泊先

アパホテル小倉駅前（福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-65）

3. 教科内容 3頁のとおり

4. 研修予定人数 30名程度

5. 受講資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境に関する行政又は分析業務を担当している職員で、国際環境協力について関心を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・Webex 上でのビデオ通話
- ・研修所 YouTube チャンネルへのアクセス
(<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFg1Q/featured>)

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**11月15日（金）《必着》までに**、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位に留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先させていただく場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績等を考慮する。

8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了又は未修了）については、研修終了後、所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

ただし、宿泊施設は環境調査研修所が借り上げるため、費用負担は不要。国家公務員（独立行政法人の職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

なお、滞在費は別添により研修期間中に徴収する。

11. 日程

別添2「日程表（令和6年度国際環境協力基本研修）」のとおり。

12. 研修実施方法

- ・受講生は、令和7年1月10日にオンライン（WebEX）にて行う基調講義を受講する。WebEXのURLは受講生決定後、対象者に通知する。なお、オンライン講義には、受講生決定後に通知するWebEX接続テストを実施したうえで参加することとする。
- ・受講生は、環境調査研修所がYouTube 環境調査研修所公式チャンネル（※）に掲載する講義動画を集合研修開始日前日までに視聴する。配信のURLは受講生決定後、対象者に通知する。
- ・講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートの提出先、提出期限は別途連絡する。
- ・集合研修は福岡県北九州市内において行う。集合場所・時間等は受講決定後に連絡する。

（※）YouTube 環境調査研修所公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfGJ9MS2nLCFg1Q>

[令和6年度国際環境協力基本研修／教科内容]

1の基調講義については、令和7年1月10日（金）13:30～15:00（予定）にオンライン方式（WebEX）で実施する。
2～3の動画講義については、令和7年1月7日（火）～1月28日（火）の期間に、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する動画を視聴することにより受講する。

教課目	時間
I 国際環境協力の意義と実態を理解する	
1【オンライン講義】我が国の国際環境協力の現状と課題（基調講義） ・我が国の環境行政の動向を学び、開発途上国等に対する我が国の環境協力の現状及び課題、今後の方向性について、概要を理解する。	1時間30分
2【動画講義】途上国の環境問題の現状とJICAの国際協力による取組 ・途上国における環境問題の実状と協力活動の実態について理解を深める。	1時間30分
3【動画講義】途上国の環境問題に対する我が国の自治体・地域レベルでの取組 ・途上国における環境問題の実状を踏まえて、我が国における自治体での取組事例やその意義を学ぶ。	1時間30分
4【留学生とのディスカッション】 ・北九州市内の大学に留学している留学生との対話を通じ、海外の実態を理解する。	1時間50分
5【国際協力経験者とのディスカッション】 ・海外協力経験者との対話を通じて、海外協力の実態を理解する。	1時間50分
II 国際環境協力のベースとなるフィールドについて学ぶ（北九州市の事例）	
6【見学・学習】 ・北九州市における環境学習施設を訪問し、地域の環境関係の歴史と現状を理解する。	1時間
III 国際環境協力の具体的な実施事業を知る	
7【事例紹介】福岡県、北九州市の国際環境協力事例紹介 ・自治体による具体的な取組事例を紹介し、自治体の環境協力の考え方を理解する。	1時間50分
8【活動紹介】日本の国際協力の現状と自治体への期待 ・JICAの国際協力の取組を学ぶとともに、自治体が国際環境協力に取組む意義を理解する。	1時間20分
9【事例紹介】草の根活動へのアプローチ ・カンボジア国プノンペン都における廃棄物管理改善に関する技術協力について学ぶ。	1時間30分
IV 得られた知識を活用するために	
10【演習】講義、施設見学、対話を踏まえて、各自の今後の取組についてグループ討議	5時間20分
V その他	
開・閉講式、オリエンテーション	40分
合計（時間）	19時間50分

（注）都合により一部変更になることがあります。

※開講式は9時30分から行います。集合時間・場所は受講決定後にご連絡します。

※最終日の閉講式終了時刻は12時00分頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 国際環境協力基本研修 日程表

(別添2)

【オンライン受講期間】受講生は、以下の講義①についてはWebExでのオンライン会議方式により、また講義②、③については動画配信(YouTube環境調査研修所公式チャンネル)により各自受講し、別途送付するアンケートを環境調査研修所に提出する。														
2025 1/10 (金)	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00			
						1330		1500						
	<p style="text-align: center;">【基調講義】</p> <p style="text-align: center;">①我が国の国際環境協力の現状と課題</p> <p style="text-align: center;">環境省地球環境局国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官室 参事官補佐 工藤 俊祐</p>													
2025 1/7 ～ 1/28 (火)	<p>② 途上国の環境問題の現状とJICAの国際協力による取組 ((独法)国際協力機構(JICA)地球環境部 環境管理・気候変動対策第二チーム 課長 木村 友美)</p> <p>③ 途上国の環境問題に対する我が国の自治体・地域レベルでの取組 ((公財)地球環境戦略研究機関(IGES)北九州アーバンセンター プログラムマネジャー/KUC副ディレクター 日比野 浩平)</p>													
2025 1/29 (水)	8:30	9:00	9:30	9:50	10:50	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
	830	900	930	950	1050	1100	1200	1300	1355	1405	1500	1510	1700	1730
	小倉駅北口バス駐車場集合	環境ミュージアムへバス移動 30分	開講式 オリエンテーション	【グループ討議 ①】 アイスブレイク&自己紹介 「オンライン講義を視聴して本セミナーに期待するもの」	休憩	【見学・学習】 環境ミュージアム見学	昼食	【事例紹介】 アジアのグリーン成長に向けた北九州市の取組 北九州市環境局 環境国際戦略課 課長 村上 恵美子	休憩	【事例紹介】 福岡県の国際環境協力 福岡県環境政策課 国際環境協力係 係長 江上 哲平	休憩	ひびきの学研都市留学生 ^(*) とのディスカッション ^(*) インドネシア、インド、タイ、モンゴル、グアテマラ	小倉駅までバス移動	ホテル 交流会
1/30 (木)	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00			
		900	1020	1030	1200	1300	1450	1500		1700	1730			
	JICA九州へバス移動	【活動紹介】 「日本の国際協力の現状と自治体への期待」 JICA九州 後藤所長	休憩	【事例紹介】 「草の根活動へのアプローチーカンボジアを事例としてー」 高倉環境研究所 高倉代表	昼食	国際協力経験者とのディスカッション 福岡県環境政策課 直塚 祐貴 北九州市上下水道局係長 秦 誉幸 北九州市環境国際戦略課 田添 鈴音	休憩	【グループ討議 ②】 ブレインストーミング		小倉駅までバス移動				
1/31 (金)	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00			
		900	1020	1030	1130	1140	1200							
	KMMビル集合	【グループ討議 ③】 各グループまとめ	休憩	【グループ討議 ④】 グループ発表	休憩	閉講式	解散							

【注意事項】 都合により一部変更になることがあります。
最終日の閉講式終了時間は12:00頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度大気環境研修実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

我が国においては、様々な大気汚染公害等への対応の過程において、国や地方公共団体等により各種の法制度及び施策が体系的に整備、実施されてきたところであるが、今日においても、微小粒子状物質による健康影響や大気汚染防止法に反する不適正事案の発覚など、新たな課題も顕在化している。このような背景から、本研修は、国及び地方公共団体等において大気環境保全業務を担当している職員が、大気環境保全行政に係る基本的な考え方や昨今の情勢を踏まえた対応手法等の業務遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、研修生間の交流を通じて相互の啓発及びネットワーク形成を図ることを目的として実施する。

2. 概要

本研修は、期間内に講義動画を全て視聴し、指定された日時に環境調査研修所に集合し実施する。

また、カリキュラムの一部に含まれている講義動画については、環境調査研修所において開催する集合研修に参加できないことから動画配信を行う講義の視聴のみを希望する者（以下「動画視聴希望者」という。）に対しても公開する。詳細については「14. 動画視聴のみを希望する場合」を参照。

※以下「研修」「研修生」とは動画視聴及び集合研修両方に参加する者を前提とし、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わない。

3. 期間及び会場

(1) 期間

会場に集合する期間：令和6年8月29日（木）～8月30日（金）

講義動画視聴期間：令和6年8月1日（木）～8月28日（水）（予定）

※講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場

環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3
TEL 04(2994)9766

4. 教科内容

4ページのとおりとする。

5. 研修予定人員 90名

6. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1) 国及び地方公共団体等において大気環境保全等業務を担当している職員

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 所属長の推薦を受けた者

(4) YouTube環境調査研修所公式チャンネル(※)へのアクセスが可能な者

(※) <https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ>

7. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙1「被推薦者名簿」を添えて、令和6年6月21日（金）まで

に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。
なお、2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

8. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先する場合がある。
- ・調整に当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

9. 行政事例の作成

研修生が日々抱えている問題事例を共有し、事例と問題の理解を深め、情報を交換し、問題解決の糸口を探る等により、今後の業務遂行に資するとともに、研修生相互の啓発、交流を図ることを目的として、行政事例研究を実施する予定である。研修生決定後に、研修生に様式を送付するため、指示に基づき作成した行政事例を期日までに環境調査研修所宛て提出させること。なお、詳細や不切等については別途連絡する。

10. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、7の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。
なお、定員超過等により研修生として決定されなかった被推薦者に対しても、14. 動画視聴のみ希望する場合と同様に、講義動画視聴のURLを送付する。

11. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
※講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートは令和6年8月28日（水）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

12. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費：ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。
- (2) 滞在費：ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。

13. 日程について

別添2「令和6年度大気環境研修日程表」のとおり。

14. 動画配信を行う講義のみ視聴を希望する場合

6. 研修を受ける資格（1）、（2）、（4）を満たす者であって被推薦者でない者のうち、都合により集合研修に参加できないが、本研修で動画配信を行う講義（対象講義は4ページに記載）の視聴を希望する者がいる場合は、別紙2「動画視聴希望者登録表」を令和6年6月21日（金）までに必着するよう提出すること。その際、環境調査研修所所長あて文書は要さない。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

動画視聴期間は、3（1）に記載の講義動画視聴期間と同様とし、動画視聴希望者の定員は設けない。講義動画のURLは、別紙2で登録のあった動画視聴希望者宛に後日連絡する。なお、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わないため、11.に記載の修了の状態の通知は行わないが、動画視聴者は後日送付するアンケートに回答し、指定する期日までに教務課（KYOMU_KA@env.go.jp）に提出すること。

15. その他

「研修受講ガイドブック」（研修受講に当たっての留意事項に関する情報）を環境調査研修所ホームページ（<https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので、ご参照ください。

<大気環境研修教科内容> (都合により変更する可能性があります)

*①②③④⑥⑧の講義は動画配信により実施します。指定の期間内に、講義動画を各自で視聴し受講してください。

実施要綱14.により登録いただく動画視聴希望者は、①②③④⑥⑧のみ動画にて受講可能です。

教科目

時間

I 大気環境行政を巡る課題と基本的な考え方を理解する。

- | | |
|--|-----|
| *① 大気環境行政の現状と課題 (新たな規制 (有害物質・水銀) を中心に)
我が国の大気環境保全行政のうち、有害大気汚染物質や水銀対策などを中心に現状と今後の課題、対策について理解を深める。 | 1.5 |
| *② 我が国の大気環境問題の系譜
我が国における大気汚染を中心とした公害の歴史を振り返り、現在の大気保全行政の礎が形成された過程について理解を深め、今後の施策検討に資する。 | 2.0 |
| *③ 環境大気常時監視 (自動車排ガスを含む)
我が国の大気環境保全に係る法制度及び施策等を概観し、道路交通に起因する大気汚染を含めた、我が国の大気環境保全行政を取り巻く現状と今後の課題を理解する。 | 1.5 |
| *④ 大気汚染と健康影響 (微小粒子状物質に重点をおいて)
微小粒子状物質をはじめとする様々な大気汚染物質が人の健康に与える影響について理解を深める。 | 2.0 |

II 重要な個別課題への対応手法を理解する。

- | | |
|--|------|
| ⑤ 建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策 (施工・管理)
建築物の解体等工事に係る石綿飛散防止対策のうち、具体的な作業施工方法及び作業進捗管理について理解を深める。 | 1.75 |
| *⑥ 建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策 (漏洩監視)
建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策のうち、集じん・排気装置の漏洩監視等について理解を深める。 | 2.0 |
| ⑦ 建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策 (事前調査)
建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策のうち、解体等工事の事前調査について理解を深める。 | 2.0 |

III 具体的な取組事例を知る。

- | | |
|---|-----|
| *⑧ 地方公共団体による取組事例
激甚な大気汚染を克服した北九州市の取組状況を知る。 | 1.5 |
| ⑨ 四日市公害から学ぶ
過去の公害事例から、大気汚染に対する具体的な取組を学ぶ。 | 1.5 |

IV 知識の定着と問題解決能力の向上を図る。

- | | |
|--|------|
| ⑩ 行政事例研究及び全体発表
研修生において作成した大気環境行政に係る行政事例をもとに、グループによる討議を行い、事例における問題等について理解を深め、問題解決の方向を探ることを通じて当該分野における対策への理解を深めるとともに、相互の啓発と交流を図ることで今後の業務に資する。 | 5.25 |
| ⑪ その他 (開・閉講式、オリエンテーション 等) | 0.75 |

合計

21.75 時間

(注)

- 教科内容は、都合により一部変更になることがあります。
- 開講式は10時00分より行いますので、9時30分までに入所してください。
- 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度大気環境研修日程表

環境調査研修所

		9:00	10:00	10:30	12:00	13:00	15:15	17:00
動画視聴期間	8/1(木)～ 8/28(水)	【動画視聴期間】以下の講義を動画配信（YouTube環境調査研修所公式チャンネル）により各自受講し、別途送付するアンケートを環境調査研修所に提出する。 <ul style="list-style-type: none"> ・大気環境行政の現状と課題（新たな規制（有害物質・水銀）を中心に）（環境省水・大気環境局 環境管理課環境汚染対策室） ・我が国の大気環境問題の系譜（一般財団法人日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター 所長 大原 利真） ・環境大気常時監視（自動車排ガスを含む）（環境省水・大気環境局 環境管理課環境汚染対策室・モビリティ環境対策課） ・大気汚染と健康影響（微小粒子状物質に重点を置いて）（東邦大学医学部社会医学講座 衛生学分野 准教授 道川 武紘） ・建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策（漏洩監視）（一般社団法人日本繊維状物質研究協会 小西 淑人） ・地方公共団体による取組事例（北九州市環境局環境監視部長 江藤 優子） 						
環境調査研修所において実施	8/29(木)		10:00～ 開講式 オリエン テーション	10:30～12:00 四日市公害から学ぶ 四日市市環境部 四日市公害と環境 未来館 館長 川北 高実	12:00～ 13:00 昼休み	13:00～15:00 建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策 （事前調査） （一社）建築物石綿含有建材調査者協会 副代表理事 外山 尚紀	15:15～17:00 建築物等の解体等工事に係る石綿飛散防止対策 （施工・管理） （一社）日本石綿対策技術協会 理事 上口 浩幸	
	8/30(金)	9:00～12:00 事例研究 （助言者） 環境省水・大気環境局環境管理課環境汚染対策室 室長補佐 中澤 剛			12:00～ 13:00 昼休み	13:00～15:15 事例研究・全体発表 （助言者） 環境省水・大気環境局環境管理課環境汚染対策室 室長補佐 中澤 剛	15:30～ 閉講式	

○使用教室 講堂（本館3F）

注）最終日の閉講式終了時刻は15：45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

当日は、事前に送付する行政事例集を必ず持参ください。また、資料が多いので、必要があれば適宜資料を入れる袋等をお持ちください。

令和6年度騒音・振動防止研修実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

我が国においては、高度経済成長期を通じて顕在化した騒音振動公害に対処するため、1968年に騒音規制法、1976年に振動規制法を制定して国及び地方公共団体等が連携してその対策にあたってきたところであるが、これらの問題は国民の日常の生活環境に密接な関わりを有するが故に社会的変化に応じて多様化しており、このような変化を的確に把握したうえで適切な施策を講じていくことが求められている。

このような背景を踏まえ、本研修では、国及び地方公共団体等において騒音・振動防止に関する業務を担当している職員を対象に、地域における騒音・振動防止業務の推進に必要な基本的な考え方や専門的知識・技術を習得させるとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互の啓発及びネットワークの形成を図ることを目的とする。

2. 概要

本研修は、期間内に講義動画をすべて視聴し、指定された日時に環境調査研修所に集合し実施する。

また、カリキュラムの一部に含まれている講義動画については、環境調査研修所において開催する集合研修に参加できないことから動画配信を行う講義の視聴のみを希望する者（以下「動画視聴希望者」という。）に対しても公開する。詳細については「14. 動画視聴のみを希望する場合」を参照。

※以下「研修」「研修生」とは動画視聴及び集合研修両方に参加する者を前提とし、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わない。

3. 期間及び会場

(1) 期間

会場に集合する期間：令和6年7月11日（木）～7月12日（金）

講義動画視聴期間：令和6年6月24日（月）～7月10日（水）

※講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場

環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

TEL 04(2994)9766

4. 教科内容

4ページのとおりとする。

5. 研修予定人員 90名

6. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1) 国及び地方公共団体等において騒音・振動防止業務を担当している職員

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 所属長の推薦を受けた者

(4) YouTube環境調査研修所公式チャンネル(※)へのアクセスが可能な者

(※) <https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ>

7. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙1「被推薦者名簿」を添えて、令和6年5月24日（金）までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。
なお、2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

8. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先する場合がある。
- ・調整に当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

9. 行政事例の作成

研修生が日々抱えている問題事例を共有し、事例と問題の理解を深め、情報を交換し、問題解決の糸口を探る等により、今後の業務遂行に資するとともに、研修生相互の啓発、交流を図ることを目的として、行政事例研究を実施する予定である。研修生決定後に、研修生に様式を送付するため、指示に基づき作成した行政事例を期日までに環境調査研修所宛て提出させること。なお、詳細や不切等については別途連絡する。

10. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、7の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

なお、定員超過等により研修生として決定されなかった被推薦者に対しても、14. 動画視聴のみ希望する場合と同様に、講義動画視聴のURLを送付する。

11. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
※講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートは令和6年7月10日（水）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

12. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費：ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。
- (2) 滞在費：ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。

13. 日程について

別添2「令和6年度騒音・振動防止研修日程表」のとおり。

14. 動画配信を行う講義のみ視聴を希望する場合

6. 研修を受ける資格（1）、（2）、（4）を満たす者であって被推薦者でない者のうち、都合により集合研修に参加できないが、本研修で動画配信を行う講義（対象講義は4ページに記載）の視聴を希望する者がいる場合は、別紙2「動画視聴希望者登録表」を令和6年5月24日（金）までに必着するよう提出すること。その際、環境調査研修所所長あて文書は要さない。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

動画視聴期間は、3（1）に記載の講義動画視聴期間と同様とし、動画視聴希望者の定員は設けない。講義動画のURLは、別紙2で登録のあった動画視聴希望者宛に後日連絡する。なお、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わないため、11. に記載の修了の状態の通知は行わ

ないが、動画視聴者は後日送付するアンケートに回答し、指定する期日までに教務課 (KYOMU_KA@env.go.jp) に提出すること。

なお、同じ講義動画の動画配信を、令和6年度後期にも実施する予定。

15. その他

「研修受講ガイドブック」（研修受講に当たっての留意事項に関する情報）を環境調査研修所ホームページ (<https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>) に掲載しておりますので、ご参照ください。

<騒音・振動防止研修教科内容> (都合により変更する可能性があります)

*②③④⑦⑧⑨⑩の講義は動画配信により実施します。指定の期間内に、講義動画を各自で視聴し受講してください。
実施要綱14.により登録いただく動画視聴希望者は、②③④⑦⑧⑨⑩のみ動画にて受講可能です。

1. 騒音・振動防止行政の基礎的事項を学ぶ。

- ①【講義】環境省における騒音・振動対策の取組・・・・・・・・・・1.0時間
環境省の騒音・振動対策に係る政策について学ぶ。
- *②【講義】騒音 ー性質と測定・防止対策ー・・・・・・・・・・1.5時間
騒音の性質と防止対策の基礎知識を習得し、騒音問題への理解を深める。
- *③【講義】振動 ー性質と測定・防止対策ー・・・・・・・・・・1.5時間
振動の性質と防止対策の基礎知識を習得し、振動問題への理解を深める。
- *④【講義】騒音規制法／振動規制法の概説・・・・・・・・・・1.5時間
騒音・振動防止に係る法令について、法の趣旨やその運用について学ぶ。
- ⑤【講義】測定器の使い方・・・・・・・・・・1.5時間
騒音・振動の測定器の使用方法について学ぶ。
- ⑥【実習】騒音・振動測定実習・・・・・・・・・・1.5時間
騒音・振動の測定機器を用いた測定実習(研修生による実習は騒音を想定)を通じて、測定結果を見る際に注意すべき点などについて学ぶ。

2. 騒音・振動防止行政の個別論点を学ぶ。

- *⑦【講義】航空機騒音の現状と課題・・・・・・・・・・1.0時間
航空機の運行に起因する騒音問題の現状、対策、今後の課題について学ぶ。
- *⑧【講義】鉄道騒音の現状と課題・・・・・・・・・・1.0時間
鉄道の運行に起因する騒音問題の現状、対策、今後の課題について学ぶ。
- *⑨【講義】自動車騒音の現状と課題・・・・・・・・・・1.0時間
自動車の走行に起因する騒音問題の現状、対策、今後の課題について学ぶ。
- *⑩【講義】低周波音 ー性質と測定・防止対策ー・・・・・・・・・・1.5時間
低周波音の性質と防止対策の基礎知識を習得し、振動問題への理解を深める。

3. 騒音・振動防止行政の実務について検討する。

- ⑪【講義】騒音・振動苦情に係る測定と対策事例・・・・・・・・・・1.0時間
騒音・振動行政に関する苦情について、具体的な対策事例を学ぶ。
- ⑫【講義】騒音・振動に係る相談行政・・・・・・・・・・2.0時間
騒音・振動行政に関する苦情処理について学ぶ。
- ⑬【演習】騒音・振動規制行政の実務について(事例研究)・・3.0時間
行政事例を通じて、適正な処理手法について検討する。

4. その他(開・閉講式、オリエンテーション)

1.0時間

合計 20.0時間

※1. 開講式は10時から行います。9時30分までに入所して下さい。

※2. 閉講式は15時45分終了予定ですが、講義時間の延長等により遅れる場合があります。帰りの交通機関の利用等による閉講式の欠席は認めません。

令和6年度 騒音・振動防止研修 日程表

(別添2)

環境調査研修所

	9:00	10:00	10:30	11:15	11:45	12:45	13:45	15:00	15:30	17:00
動画視聴期間	<p>【動画視聴期間】以下の講義を動画配信（YouTube環境調査研修所公式チャンネル）により各自受講し、別途送付するアンケートを環境調査研修所に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騒音 一性質と測定・防止対策—（一般財団法人小林理学研究所 理事長 山本 貢平） ・振動 一性質と測定・防止対策—（愛知工業大学工学部建築学科 教授 佐野 泰之） ・騒音規制法・振動規制法の概説（環境省水・大気環境局環境管理課環境汚染対策室 係長 東海林 大輔） ・航空機騒音の現状と課題（一般財団法人空港振興・環境整備支援機構 航空環境研究センター 所長 篠原 直明） ・鉄道騒音の現状と課題（公益財団法人鉄道総合技術研究所 主管研究員 長倉 清） ・自動車騒音の現状と課題（環境省水・大気環境局モビリティ環境対策課 係長 田辺 和泰） ・低周波音 一性質と測定・防止対策—（一般財団法人小林理学研究所 協力研究員 落合 博明） 									
環境調査研修所において実施	7/11 (木)		10:00～ 開講式 オリエン テーション	10:30～11:30 (60分) 【講義】環境省における騒音・振動対策の取組 環境省水・大気環境局 モビリティ環境対策課 田辺 和泰 安藤 貴仁 環境管理課環境汚染対策室 石井 篤志	11:45～12:45 (60分) 【講義】騒音・振動苦情に係る測定と対策事例 神奈川県環境科学センター 調査研究部 主任研究員 横島 潤紀	12:45～ 13:45 昼 休 み	13:45～15:15 (90分) 【講義】測定器の使い方 リオン株式会社 環境機器事業部 営業部 営業技術課 副 参事 岡本 伸久 協力：公益社団法人日本騒音制御工学会	15:30～17:00 (90分) 【実習】騒音・振動測定実習 同左		
	7/12 (金)	9:00～11:00 (120分) 【講義】騒音・振動に係る行政相談 元千葉県環境局環境保全部 松島 貢		11:15～12:45(90分) 【演習】騒音・振動規制行政の実務について（事例研究） 元千葉県環境局環境保全部 松島 貢 環境省水・大気環境局環境管理課環境汚染対策室 東海林 大輔		12:45～ 13:45 昼 休 み	13:45～15:15 (90分) 同左	15:30～ 閉講式		

○使用教室 本館3階講堂

*注意事項 閉講式は15:45終了予定となっておりますが、講義時間の延長等により遅れる場合があります。

帰りの交通機関の利用等による閉講式の欠席は認めません。

参加にあたっては、「研修受講ガイドブック」（環境調査研修所ホームページに掲載）をよくお読み下さい。

令和6年度水環境行政研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

急速な産業発展とともに著しく悪化した我が国の河川や海域等の水環境は、国や自治体の規制や水処理施設の普及拡大と技術開発などにより大幅に改善したところであるが、閉鎖性水域の水質改善や更なる生活排水対策の推進といった課題も残されている。また、水環境が大幅に改善してきた中で、特に地方公共団体には、それぞれの地域特性を踏まえた水環境の目標像を掲げ、その実現に向けた取組が求められている。

このような背景を踏まえ、当研修は、国及び地方公共団体等において水環境保全業務を担当している職員が、業務遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的とする。

2. 期間及び会場

- (1) 期 間： 令和6年7月2日（火）～令和6年7月5日（金）（4日間）
※期間中は受講者全員合宿制となります。
- (2) 場 所： 環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3
TEL：04-2994-9766

3. 教科内容

3項のとおり

4. 研修予定人数

90名程度

5. 受講資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 国及び地方公共団体等において水環境・地下水環境保全業務を担当している職員
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙1「被推薦者名簿」に、7による「行政事例」を添えて、**令和6年5月17日（金）《必着》までに**、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 行政事例の作成

研修を受けようとする者に、別紙2「行政事例の作成について」に基づき、行政事例を必ず作成させ送付すること。

8. 選択講義について

7月4日（木）8:45～10:15 で予定している「日本の下水道整備について 一下水道整備の課題や日本下水道事業団の役割等を含めて」と「生活排水対策と浄化槽整備」の2つの講義については選択制の講義とする。被推薦者ごとにどちらか希望する講義を選択のうえ、別紙1「被推薦者名簿」の該当欄に記載すること。

※人数超過等の理由からご希望に添えない場合がございます。

9. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先する場合がある。
- ・調整に当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

10. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

11. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

12. 経 費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費
 - ※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。
- (2) 滞在費
 - ※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。

13. 日程について

別添2「令和6年度水環境行政研修日程表」のとおり。

* 次の情報を環境調査研修所ホームページ (URL <http://neti.env.go.jp>) に掲載していますのでご参照下さい。

- ◎ 「研修ガイドブック」(研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しています。)
- ◎ 「実施要綱」・「被推薦者名簿」・「行政事例」様式

＜水環境行政研修教科内容＞	時間
1 水環境の現状と課題	1.5
我が国の水環境の現状と課題についての理解を深め、水環境行政の実施に必要となる基本的な知識を得る。	
2 水環境行政の動向	1.5
環境基準と水質汚濁防止法に基づく排水規制による公共用水域の水質保全対策を中心に、最新の水環境保全行政を概観し理解を深める。	
3 海域の水環境保全対策	1.0
依然として富栄養化に伴う問題の発生が残る閉鎖性海域の水質の保全を中心に、各種法制度を中心とした施策体系を概観し、海域の水環境保全に向けた今後の施策のあり方について理解を深める。	
4 環境基準の概論	1.5
環境基準の意義や低層D0等の各基準における類型指定の考え方などの基本的な知識について理解を深める。	
5 衛生微生物指標の現状	1.0
水環境における衛生微生物指標（大腸菌数等）について、これまでの考え方や今後の課題について知識を得ることで、地域特性に応じた衛生微生物対策に向けた施策の推進を図る。	
6 排水処理技術の概要と動向	1.5
我が国における排水処理技術について、技術的特徴、施設の構造及び今後の動向等について知識を得ることで、汚濁負荷に応じた水処理技術の導入による水質の改善に向けた施策の推進を図る。	
7 水道水質管理の基礎とPFAS対策について	1.5
水道行政（水道水質基準）が環境省に移管されることも踏まえ、浄水原理等の水道水質管理の基礎に関する知識を得るとともに、近年の課題であるPFASの浄化対策に関する知識を得ることで、水環境におけるリスク管理に向けた施策の推進を図る。	
8-1 日本の下水道整備について	1.5
下水道整備の課題や日本下水道事業団の役割等を含めて－	【選択】
下水道整備に関する基礎的な知識を得て、水環境中への汚濁負荷低減施策の推進を図る。	
8-2 生活排水対策と浄化槽整備	
生活排水対策の一つである浄化槽整備に関する知識を得て、水環境中への汚濁負荷低減施策の推進を図る。	
9 水環境調査の基礎	1.0
水環境の監視を行う上で必要となる調査時の留意点や分析技術等の基本的な知識を得る。	
10 水環境行政における地方公共団体の役割・あり方	3.0
健全な水循環系を維持する上で基本となる考え方を再確認するとともに、水環境行政に携わる職員に求められる心構えや社会的責務について、講師とのディスカッションも交えながら、共に考える。	
11 事例研究・事例発表	6.5
特定の課題に対し研修生間で討議を行い、問題解決の方向を探ることを通して、課題解決能力の向上、相互の啓発、交流を図り、今後の各自の業務遂行に資する。	
12 その他（開・閉講式、オリエンテーション等）	0.75
合計	22.25 時間

注) 都合により一部変更になることがあります。

- * 開講式は10時00分から行います。9時30分までに入所して下さい。
- * 閉講式は13時15分に終了する予定です。

令和6年度 水環境行政研修 日程表

環境調査研修所

	8:45						17:00
7/2 (火)	10:00～10:30 開講式 オリエンテーション	10:30～12:00 水環境行政の動向 環境省水・大気環境局 環境管理課 課長補佐 岡内 啓悟	12:00～13:00 昼休み	13:00～14:30 排水処理技術の概要と動向 日本ワコン株式会社 技術顧問 和田 洋六	14:45～15:45 海域の水環境保全対策 環境省水・大気環境局 海洋環境課 海域環境管理室 室長補佐 森川 政人	16:00～17:00 事例研究 事例発表	
7/3 (水)	8:45～10:15 環境基準の概論 いであ株式会社 国土環境研究所 環境技術部 井上 雄二郎	10:30～12:00 水環境の現状と課題 中央大学研究開発機構 機構教授 古米 弘明	12:00～13:00 昼休み	13:00～14:30 水道水質管理の基礎とPFAS対策について 国立保健医療科学院 上席主任研究官 小坂 浩司	14:45～15:45 衛生微生物指標の現状 東京大学大学院工学系研究科 教授 片山 浩之	16:00～17:00 事例発表	
7/4 (木)	8:45～10:15 日本の下水道整備について 一下水道整備の課題や日本下水道事業団の役割等を含めて 日本下水道事業団事業統括部 計画課長 山縣 弘樹 ※研修棟3階大セミナー室にて実施	10:30～11:30 水環境調査の基礎 環境省環境調査研修所 主任教官 岩切 良次	11:30～12:30 昼休み	12:30～17:00 事例研究（グループ討議、討議結果共有、講評）（助言者） 環境省水・大気環境局環境管理課環境汚染対策室 係長 上津 慶和 係員 嶋田 侑治			
	8:45～10:15 生活排水対策と浄化槽整備 常葉大学 名誉教授 小川 浩 ※本館3階講堂にて実施			12:30～17:00 分析機器の実機見学 環境省環境調査研修所 主任教官 岩切 良次			
7/5 (金)	9:30～12:45(※15分の休憩含む) 水環境行政における地方公共団体の役割・あり方 公立大学法人北九州市立大学 客員研究員 門上 希和夫			13:00～ 閉講式 (*昼食の用意はありません。)			

○使用教室 : 講堂 (本館3F)

注) 7月4日(木) 12:30～17:00の工程については、事例研究を行いつつ、グループごとに環境調査研修所内の分析機器を見学していただく予定です。

最終日の閉講式終了時刻は13:15を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

最終日の昼食の用意はありません。

研修日程(講義内容)については、変更となる場合もありますのであらかじめご承知おきください。

令和6年度環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

公害を克服すべく取り組み、未来に向けて環境保全を重視した地域づくりを進めている熊本県水俣市において、環境保全を軸とした地域再生の取り組みから地域住民等と連携した環境保全の推進方策を学び、今後の環境行政及び地域再生業務の遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、実際の現場の見学、関係者との交流等の体験をもとに、自ら考え、研修生間の意見交換・交流を行うことで、相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的とする。

2. 期間及び会場

(1) 期間

①オンライン：令和7年1月9日（木）

②集合研修：令和7年1月22日（水）から1月24日（金）まで（3日間）

(2) 集合研修会場

現地見学：水俣病情報センター、水俣病資料館、熊本県環境センター、(株)JNC工場等（熊本県水俣市）

講義：水俣環境アカデミア、水俣市総合もやい直しセンター もやい館、国立水俣病総合研究センター（熊本県水俣市）

(3) 集合研修の宿泊場所：スーパーホテル水俣（〒867-0043 熊本県水俣市大黒町 1-1-38）

(4) 集合研修の集合場所：JR 新水俣駅

(5) 研修の実施方法

受講生は、(1) ①の日程でオンライン（WebEX）により実施するオリエンテーション及び講義を受講したうえで、(1) ②の日程で熊本県水俣市において実施する集合研修に参加する。なお、受講生は、オンラインでの研修実施に先立ち実施する事前接続テスト（令和6年12月19日（木）10時から予定）に参加すること。事前接続テストの詳細については、研修生決定時に連絡する。

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員

15名程度

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境行政を担当している職員及び地域再生など関連する業務を担当している職員
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**11月15日（金）《必着》**までに、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位に留意し、調整する場合がある。

- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先する場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績等を考慮する。

8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了又は未修了）については、研修終了後、所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費
- (2) 滞在費

ただし、1/22, 23の宿泊施設は環境調査研修所が借り上げるため、費用負担は不要。国家公務員（独立行政法人の職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。なお、滞在費の内訳は別添のとおり。

11. 日程

別添2 日程表のとおり。

12. その他

本研修は、環境省職員等を対象とした「令和6年度環境省職員研修（環境問題史）」と合同で実施します。

令和6年度環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）教科内容

1. 過去と現状、地域再生の取り組みを知る（講義、見学） 10時間15分
水俣病の関係者の講義、関連施設の見学、企業・市民・行政の連携取り組みの見学等を通して、実際の現場や関係者の想いに触れて、水俣病の歴史的経過・現状、地域再生の取り組みについて理解を深める。
2. ワークショップ 1時間45分
1で得たものについて、討議の中で自らの考えをまとめ、考察する。
3. その他（開・閉講式、オリエンテーション等） 1時間15分

合計 13時間15分

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 開講式は、13時45分より行う予定です。13時15分までにJR新水俣駅にお集まりください。
3. 最終日の終了時間は13時15分（JR新水俣駅着14時00分）を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

日程表 令和6年度環境問題史研修（もやい直し－水俣の経験から学ぶ地域再生－）
令和6年度環境省職員研修（環境問題史）

令和7年1月9日(木) オンライン事前学習

13:30～14:15	研修前オリエンテーション、研修生自己紹介
14:30～15:00	水俣病問題について 講師：熊本県 水俣病保健課 課長補佐 田代 絹代氏

令和7年1月22日(水)

13:00～13:30	13:15新水俣駅集合 13:15～13:30バス移動
13:40～14:00	開講式・オリエンテーション 場所：水俣病情報センター
14:00～14:30	水俣病情報センターの紹介、見学 場所：水俣病情報センター
14:35～15:35	水俣病資料館・熊本県環境センターの紹介、見学 場所：水俣病資料館、熊本県環境センター
15:40～16:40	水俣病資料館 語り部講話 水俣市立水俣病資料館語り部 川本愛一郎氏
17:10～17:15	移動（バス）
17:15～17:30	百閒排水口 見学
17:30～17:35	宿泊先・スーパーホテル水俣 到着・休憩
18:00～18:15	移動（バス）
18:30～20:30	<研修生交流会> 場所：福田農場

令和7年1月23日(木)

8:50	スーパーホテル水俣 出発
8:50～9:00	移動（バス）
9:00～10:00	JNC工場 見学
10:00～10:05	移動（バス）
10:15～11:15	もやい直しの取り組み 講師：吉永 理巳子氏 場所：水俣市総合もやい直しセンター もやい館
11:15～11:25	休憩
11:25～12:15	水俣市の環境への取り組み 水俣市環境課 場所：水俣市総合もやい直しセンター もやい館
12:15～13:00	昼食（弁当）
13:05～13:15	移動（バス）
13:30～15:10	「企業と市民と行政の連携取り組み見学」（※） Aコース：田中商店（びんのリユース事業） Bコース：バイオマスレジ（バイオマスプラスチック製造） Cコース：わく・ワークみなまた（障害福祉サービス事業所就労継続支援B）
15:20～15:40	移動（バス）
15:40～17:00	国立水俣病総合研究センター見学・講義 国立水俣病総合研究センター概要、リハビリ室見学、国際貢献・地域貢献の取組 場所：国立水俣病総合研究センター
17:00～17:15	移動（バス）
17:15	スーパーホテル水俣 到着

（※）「企業と市民と行政の連携取り組み見学」は、3コースに分かれていずれかを見学します。

希望のコースは研修生決定後に確認しますが、各コースの定員の都合上、ご希望に添えない場合もございます。

令和7年1月24日(金)

8:20	スーパーホテル水俣 出発
8:20～8:30	移動（バス）
8:40～9:30	水俣の海の再生への取り組み 講師：水俣ダイビングサービス SEA HORSE 森下 誠氏 場所：水俣環境アカデミア
9:40～11:25	まとめのワークショップ ファシリテーター：水俣環境アカデミア所長 古賀 実 場所：水俣環境アカデミア
11:30～11:40	閉講式 場所：水俣環境アカデミア
11:40～12:25	昼食（弁当）
12:25～12:50	移動（バス）
12:50～13:10	水俣病慰霊の碑見学
13:10～13:15	移動（バス）
13:15～13:45	道の駅見学
13:45～14:00	移動（バス）
14:00	新水俣駅着 解散

令和6年度 水質分析研修 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、水質分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

(1) 期間

全体：令和6年11月25日（月）から12月13日（金）

オンライン開催日：令和6年11月25日（月）および12月6日（金）

会場に集合する期間：令和6年12月9日（月）～12月13日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 研修予定人員

各コース 12名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス
(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)
- ・ 研修所ホームページへのアクセス

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、添付様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添

えて、**令和6年10月4日(金)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

※なお、添付様式「被推薦者名簿」についてはコースごとにシートを分けているため入力誤りが無いよう注意すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

（1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

（2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表（令和6年度水質分析研修）」のとおり。

* 次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎ 「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する[※]。受講生は、環境調査研修所に集合する日（12月9日）までに、配信された教材の聴講を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の聴講確認はレポートの提出により行う。レポートは集合研修開始日（12月9日）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、研修最終日に実施する総合討論において受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし聴講していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ 水質分析研修 教科内容

教科内容	時間
基調講義	0.75
共通講義	0.75
講義動画聴講	4.0
実習講義	1.0
実習	25.5
ゼミナール	1.5
その他(開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等)	4.0
合計教科時間	37.5

○ 水質分析研修 実習内容

コース	実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
A	水質中の農薬 GC/MS対象水質基準 項目（シマジン・チ オベンカルブ）	前処理及び測定法 (ガスクロマトグラフ 質量分析法) の習得	1. 前処理法固相抽出法 2. クリーンアップ法 3. 測定法 ガスクロマトグラフ質量分析法（四重 極型） 4. 精度管理手法	12名

B	水質中の有機 フッ素化合物 PFOS、PFOA、 PFHxS	前処理及び測定法 (固相抽出法および液体クロ マトグラフ質量分析法の習得)	1. 前処理法 固相抽出法 2. 測定法 液体クロマトグラフ質量分析法 (四 重極型) 注) 3. 精度管理手法 注) 装置測定メソッドの作成は行いません	12名
C	水質中の金属類 カドミウム、鉛、亜 鉛、ヒ素、セレン等	告示法およびJIS等に基づく 有害金属測定技法及び応用手 法の習得	1. 前処理法 試料分解法、固相抽出法 2. 測定法 ICP質量分析法、水素化物発生原子 吸光法 3. 精度管理手法	12名
合 計				36名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト†	令和6年11月25日(月)
教材配信†	令和6年11月25日(月)～ 令和6年12月6日(金)
開講式†	令和6年12月6日(金) 14:00～ (5分間)
教務課オリエンテーション†	令和6年12月6日(金) 14:05～ (10分間)
基調講義†	令和6年12月6日(金) 14:15～ (45分間)
共通講義†	令和6年12月6日(金) 15:00～ (45分間)
実習オリエンテーション†	令和6年12月6日(金) 16:00～ (30分間)
実習‡	令和6年12月9日(月)～ 令和6年12月13日(金)
ゼミナール‡	令和6年12月13日(金) 13:45～ (90分間)
閉講式‡	令和6年12月13日(金) 15:30～ (15分間)

†オンラインで実施します。‡環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画を期間内に聴講してください。

コース	教材名	講師	時間
A	水質分析の前処理（固相抽出法）	ジーエルサイエンス株式会社 国枝巧	1.0
	GCの基礎	麻布大学 杉田和俊	1.5
	MSの基礎（GC/MS）	公立鳥取環境大学 山本敦史	1.5
B	水質分析の前処理（固相抽出法）	ジーエルサイエンス株式会社 国枝巧	1.0
	質量分析の基礎	公立鳥取環境大学 山本敦史	1.5
	LC-MSの実践	公立鳥取環境大学 山本敦史	1.5
C	水質試料の前処理	麻布大学 伊藤彰英	1.5
	誘導結合プラズマ質量分析法の基礎	東北大学 鹿籠康行	1.5
	原子吸光法の基礎	株式会社島津製作所 川上正	1.0

（注）

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9：00より行う予定です。8：45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15：45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、鉄道の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 水質分析研修／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	17:00	
オンライン研修	11/25(月)~12/6(金)	動画視聴【各自】 【Aコース】 水質分析の前処理(固相抽出法) ジーエルサイエンス株式会社 国枝 巧 質量分析の基礎 公立鳥取環境大学 山本 敦史 GCカラムの取扱いと選び方 Restek株式会社 海老原 卓也 GCの基礎 麻布大学 杉田 和俊 【Bコース】 水質分析の前処理(固相抽出法) ジーエルサイエンス株式会社 国枝 巧 質量分析の基礎 公立鳥取環境大学 山本 敦史 LC-MSの実践 公立鳥取環境大学 山本 敦史 【Cコース】 水質試料の前処理 麻布大学 伊藤 彰英 誘導結合プラズマ質量分析法の基礎 東北大学 鹿嶋 康行 原子吸光法の基礎 株式会社島津製作所 川上 正									
	12/6(金)	動画視聴【各自】 14:00~ 開講式 オリエンテーション 14:15~15:00 基調講義 環境省水・大気環境局 環境汚染対策室 今藤 夕希 15:00~15:45 共通講義 国立研究開発法人国立環境研究所 名誉研究員 柴田 康行 休憩 16:00~ 16:30 実習オリエンテーション									
研修所	12/9(月)	9:00~ 施設説明	9:15~ 実習室説明等	10:00~11:00 実習講義	11:15~ 実習	(同左) 実習					
				【Aコース】 環境調査研修所 岩切 良次 同上 岩淵 勝己	【Aコース】 環境調査研修所 岩切 良次 同上 岩淵 勝己	【Aコース】固相抽出	ジーエルサイエンス株式会社 国枝 巧				
				【Bコース】 同上 木村 久美子	【Bコース】 同上 木村 久美子	【Bコース】固相抽出	環境調査研修所 木村 久美子				
				【Cコース】 同上 本多 将俊	【Cコース】 同上 本多 将俊	【Cコース】	同上 本多 将俊				
							アジレント・テクノロジー株式会社 菅野 信行 アジレント・テクノロジー株式会社 中野 かずみ PerkinElmer Japan合同会社アプリケーションリサーチラボ 数野 修				
12/10(火)	8:50~9:20	実習	【Aコース】装置実習	環境調査研修所 岩切 良次 同上 岩淵 勝己 アジレント・テクノロジー株式会社 高桑 裕史 アジレント・テクノロジー株式会社 中村 李 株式会社島津テクノリサーチ 奥田 浩子 日本電子株式会社 阿部 吉雄	【Aコース】装置実習	環境調査研修所 岩切 良次 同上 岩淵 勝己 アジレント・テクノロジー株式会社 高桑 裕史 アジレント・テクノロジー株式会社 中村 李 株式会社島津テクノリサーチ 奥田 浩子 日本電子株式会社 阿部 吉雄	【Bコース】固相抽出	環境調査研修所 木村 久美子	【Bコース】装置実習	環境調査研修所 木村 久美子 株式会社島津製作所 分析計測事業部 岩佐 奈実 日本ウォーターズ株式会社 小林 竜太 株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部 山本 礼央	
			【Bコース】装置実習	環境調査研修所 本多 将俊 アジレント・テクノロジー株式会社 菅野 信行 アジレント・テクノロジー株式会社 中野 かずみ PerkinElmer Japan合同会社アプリケーションリサーチラボ 数野 修	【Cコース】装置実習	アジレント・テクノロジー株式会社 菅野 信行 アジレント・テクノロジー株式会社 中野 かずみ PerkinElmer Japan合同会社アプリケーションリサーチラボ 数野 修	【Cコース】装置実習	環境調査研修所 本多 将俊	【Cコース】	アジレント・テクノロジー株式会社 菅野 信行 アジレント・テクノロジー株式会社 中野 かずみ PerkinElmer Japan合同会社アプリケーションリサーチラボ 数野 修	
12/11(水)	実習準備等	実習	【Aコース】装置実習	環境調査研修所 岩切 良次 同上 岩淵 勝己 アジレント・テクノロジー株式会社 高桑 裕史 アジレント・テクノロジー株式会社 中村 李 株式会社島津テクノリサーチ 奥田 浩子 日本電子株式会社 阿部 吉雄	【Aコース】装置実習	環境調査研修所 岩切 良次 同上 岩淵 勝己	【Bコース】装置実習	環境調査研修所 木村 久美子 株式会社島津製作所 分析計測事業部 岩佐 奈実 日本ウォーターズ株式会社 小林 竜太 株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部 山本 礼央	【Bコース】装置実習	環境調査研修所 木村 久美子 株式会社島津製作所 分析計測事業部 岩佐 奈実 日本ウォーターズ株式会社 小林 竜太 株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部 山本 礼央	
			【Cコース】装置実習	環境調査研修所 本多 将俊 株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 川上 正	【Cコース】装置実習	環境調査研修所 本多 将俊 株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 川上 正	【Cコース】装置実習	環境調査研修所 本多 将俊	【Cコース】装置実習	環境調査研修所 本多 将俊 株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 川上 正	
12/12(木)			実習	環境調査研修所 岩切 良次 同上 岩淵 勝己 同上 木村 久美子 同上 本多 将俊	【Aコース】実習 データ解析 セミナール準備	【Aコース】実習 データ解析 セミナール準備					
			【Bコース】装置実習	同上 木村 久美子	【Bコース】装置実習・データ整理・セミナールの準備	【Bコース】装置実習・データ整理・セミナールの準備					
			【Cコース】実習	同上 本多 将俊	【Cコース】データ整理・レポート作成	【Cコース】データ整理・レポート作成					
12/13(金)			実習	ジーエルサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CSI課 国枝 巧	13:45~15:15	ゼミナール	15:30~	閉講式			

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。配信URLにおいて、11/25(月)から12/6(金)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 施設説明、開講式 : 研修棟3階 大セミナー室
 <Aコース(指導教官:岩切教官)> 実習、実習オリエンテーション、実習講義、ゼミナール : 実習棟3階
 <Bコース(指導教官:木村教官)> 実習、実習オリエンテーション、実習講義、ゼミナール : 特殊実習棟2、3階
 <Cコース(指導教官:本多教官)> 実習、実習オリエンテーション、実習講義、ゼミナール : 実習棟2階
 開講式、オリエンテーション、基調講義、共通講義、実習オリエンテーション : オンライン

注)12/13(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
 帰路の航空機、鉄道の時間等により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS） 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、特定の機器（ICP-MS）測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

（1）期間

全体：令和6年5月20日（月）～6月7日（金）

オンライン開催期間：令和6年5月20日（月）～5月31日（金）

会場に集合する期間：令和6年6月3日（月）～6月7日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

（2）集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 定員

12名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- （1）国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- （2）研修受講に支障のない健康状態にある者
- （3）所属長の推薦を受けた者
- （4）オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス
- ・ 研修所ホームページへのアクセス

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添

えて、**令和6年3月25日(月)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

（1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

（2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表（令和6年度特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、環境調査研修所に集合する日（令和 6 年 6 月 3 日）までに、配信された教材の視聴を終える（配信予定の教材は、本文書の「**配信予定教材一覧**」に掲載）。
3. 講義動画の視聴確認はレポート提出により行う。レポートは**集合研修開始日までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。**
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習内容をまとめた実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、研修最終日に実施するゼミナールにおいて、受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネル

(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>) にアクセスし視聴していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。配信は開講式前から行う予定としており、研修開始以前から視聴することができます。

○ 特定機器分析研修 I 教科内容

1. 講義動画視聴	3. 5
2. 実習講義	1. 0
3. 実習（データ整理、報告書作成含む）	26. 0
4. ゼミナール	1. 5
5. その他（開講式、閉講式、実習オリエンテーション、実習準備等）	4. 0
合計	36. 0時間

○ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
ICP-MS	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C P - M S の測定方法の理解と操作技法の習得 ・ 水質試料の分析 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 測定物質 有害金属類 2. 装置 I C P 質量分析装置 3. 内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 前処理 2) 測定操作 3) 定性及び定量分析 4) 精度管理手法 	12名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト [†]	令和 6 年 5 月 20 日（月）
配信教材視聴 [†]	配信 URL 通知日～令和 6 年 6 月 7 日（金）

開講式 [†]	令和6年5月31日（金）14:00～（15分間）
オリエンテーション [†]	令和6年5月31日（金）14:15～（15分間）
実習オリエンテーション [†]	令和6年5月31日（金）14:30～（45分間）
実習 [‡]	令和6年6月3日（月）～令和6年6月7日（金）
ゼミナール [‡]	令和6年6月7日（金）13:45～（90分間）
閉講式 [‡]	令和6年6月7日（金）15:30～（15分間）

[†]オンラインで実施します。[‡]環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信教材一覧(予定)

配信される以下の教材動画を実習の開始日までに閲覧してください。

教材名	時間
ICP-MSによる微量元素分析の実際-環境水試料を例として-	約40分
ICP質量分析法について（仮）	約180分

（注）

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9:00より行う予定です。8:45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 特定機器分析研修 I (ICP-MS) / 日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	17:00
オンライン	5/20 (月) ~ 5/30 (木)	動画視聴【各自】								
	5/31 (金)	動画視聴【各自】						14:00~14:30 開講式 オリエンテー ション	14:30~15:15 実習オリエンテーション 自己紹介等	動画視聴【各自】
研修所	6/3 (月)	9:00~ 施設 説明	9:15~ 実習室説明等	9:30~10:30 実習講義	10:45~ 実習 環境調査研修所 教官 本多 将俊			(同左) 実習		
	6/4 (火)	8:50~ 9:20	実習 アジレント・テクノロジー株式会社 菅野 信行 中野 かずみ PerkinElmer Japan合同会社 敷野 修			(同左) 実習				
	6/5 (水)	実 習 準 備	実習 アジレント・テクノロジー株式会社 菅野 信行 中野 かずみ PerkinElmer Japan合同会社 敷野 修			(同左) 実習				
	6/6 (木)		実習 環境調査研修所 教官 本多 将俊			(同左) 実習				
	6/7 (金)		実習(データ整理、報告書作成) 環境調査研修所 教官 本多 将俊			ゼミナール 環境調査研修所 教官 本多 将俊			15:30~ 閉講式	

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして聴講していただけます。
配信URLの通知後から6/7(金)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 施設説明、閉講式 : 本館第1教室
 実験室説明、実習講義、実習、データ整理、ゼミナール : 実習棟2階
 開講式、オリエンテーション、実習オリエンテーション : オンライン

注)・6/7(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

・帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第1回実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、特定の機器（LC/MS/MS）測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

（1）期間

全体 : 令和6年5月20日（月）～6月7日（金）

オンライン開催期間 : 令和6年5月20日（月）～5月31日（金）

集合研修期間 : 令和6年6月3日（月）～6月7日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

（2）集合研修会場 環境調査研修所

所在地 : 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話 : 04 (2994) 9766 (教務課直通)

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 使用装置

株式会社エービー・サイエックス 4500QTRAP (以降 SCIEX)

株式会社島津製作所 LCMS-8050 (以降 島津)

※ Waters および Agilent の装置を用いた同内容の研修は、第2回（10月開催）に行います。

5. 研修予定人員

10名（各装置5名）

6. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- （1）国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- （2）研修受講に支障のない健康状態にある者
- （3）所属長の推薦を受けた者
- （4）オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話

- ・研修所 YouTube チャンネルへのアクセス

(<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFg1Q/featured>)

- ・研修所ホームページへのアクセス

7. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、**令和6年3月25日(月)までに必着**するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。

【提出先】 教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、7. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

11. 日程について

別添3「日程表（令和6年度特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第1回）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、環境調査研修所に集合する日（令和6年6月3日）までに、配信された教材の視聴を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の視聴確認はレポート提出により行う。レポートは**集合研修開始日までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。**
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習内容をまとめた実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、研修最終日に実施するゼミナールにおいて、受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ 特定機器分析研修Ⅱ 教科内容

	時間
1. 講義動画視聴	3.0
2. 実習講義	1.0
3. 実習（データ整理、報告書作成を含む）	26.0
4. ゼミナール	1.5
5. その他（開講式、閉講式、実習オリエンテーション、実習準備等）	4.0

合計 35.5 時間

○ 特定機器分析研修Ⅱ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
LC/MS/MS	LC/MS/MS を使用した有機フッ素化合物の分析方法の理解と操作技法の習得	<ol style="list-style-type: none"> 1. 測定物質 PFOS、PFOA、PFHxS 2. 装置 高速液体クロマトグラフ タンデム質量分析計 3. 内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 前処理操作（固相抽出法） 2) 測定操作 3) 定性・定量分析 4) 精度管理手法 	10 名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト [†]	令和6年5月20日(月)
教材配信 [†]	配信 URL 通知日～令和6年6月7日(金)
開講式 [†]	令和6年5月31日(金) 14:00～ (15分間)
オリエンテーション [†]	令和6年5月31日(金) 14:15～ (15分間)
実習 オリエンテーション [†]	令和6年5月31日(金) 14:30～ (45分間)
実習 [‡]	令和6年6月3日(月)～ 令和6年6月7日(金)
ゼミナール [‡]	令和6年6月7日(金) 13:45～ (90分間)
閉講式 [‡]	令和6年6月7日(金) 15:30～ (15分間)

[†]オンラインで実施します。 [‡]環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画および資料を期間内に閲覧してください。

教材名	時間
水質分析の前処理(固相抽出法) (仮)	約60分
質量分析の基礎 (仮)	約60分
LC/MS/MSの実践(仮)	約60分

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9:00より行う予定です。8:45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS/MS)第1回／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	17:00		
オンライン	5/20(月)～ 5/30(木)	動画視聴【各自】											
	5/31(金)	動画視聴【各自】						14:00～14:30 開講式 オリエン テーション	14:30～15:15 実習オリエンテーション 自己紹介等	動画視聴【各自】			
研修所	6/3 (月)	9:00～ 施設 説明	9:15～ 実習室 説明等	9:30～ 実習講義	10:45～ 実習 環境調査研修所 教官 木村 久美子			(同左) 実習					
	6/4 (火)	8:50～ 9:20	実習 (株)イービー・サイエックス アプリケーションサポート部 マネージャー 緒方 幸恵 (株)島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 環境G 坂井 健朗						(同左) 実習				
	6/5 (水)	実 習 準 備	実習 (株)イービー・サイエックス アプリケーションサポート部 マネージャー 緒方 幸恵 (株)島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 環境G 坂井 健朗						(同左) 実習				
	6/6 (木)		実習 環境調査研修所 教官 木村 久美子						(同左) 実習				
	6/7 (金)		実習(データ整理、報告書作成)						ゼミナール			15:30～ 閉講式	

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。

- 使用教室 施設説明、閉講式 : 本館第1教室
- 実験室説明、実習講義、実習、データ整理、ゼミナール : 特殊実習棟2階、3階
- 開講式、オリエンテーション、実習オリエンテーション : オンライン

注)・6/7(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、ゼミナールの延長等により若干遅れる場合があります。

・帰路の航空機、列車等の都合により、ゼミナールや閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第2回実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、特定の機器（LC/MS/MS）測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

（1）期間

全体 : 令和6年10月7日（月）～ 10月25日（金）

オンライン開催期間 : 令和6年10月7日（月）～ 10月25日（金）

集合研修期間 : 令和6年10月21日（月）～ 10月25日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

（2）集合研修会場 環境調査研修所

所在地 : 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話 : 04 (2994) 9766 (教務課直通)

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 使用装置

日本ウォータース株式会社 Xevo TQD (以降 Waters)

アジレント・テクノロジー株式会社 6470 トリプル四重極 LC/MS (以降 Agilent)

5. 研修予定人員

10名 (各装置5名)

6. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- （1）国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- （2）研修受講に支障のない健康状態にある者
- （3）所属長の推薦を受けた者
- （4）オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス

(<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFg1Q/featured>)

- ・研修所ホームページへのアクセス

7. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、**令和6年8月23日(金)までに必着**するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。

【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、7. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

（1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

（2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

11. 日程について

別添3「日程表（令和6年度特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第2回）」のとおり。

* 次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎ 「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する*。受講生は、環境調査研修所に集合する日（令和6年10月21日）までに、配信された教材の視聴を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の視聴確認はレポート提出により行う。レポートは**集合研修開始日**（令和6年10月21日）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習内容をまとめた実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、研修最終日に実施するゼミナールにおいて、受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ 特定機器分析研修Ⅱ 教科内容

	時間
1. 講義動画視聴	4.0
2. 実習講義	1.0
3. 実習（データ整理、報告書作成を含む）	26.0
4. ゼミナール	1.5
5. その他（開講式、閉講式、実習オリエンテーション、実習準備等）	4.0

合計 36.5 時間

○ 特定機器分析研修Ⅱ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
LC/MS/MS	LC/MS/MS を使用した有機フッ素化合物の分析方法の理解と操作技法の習得	<ol style="list-style-type: none"> 1. 測定物質 PFOS、PFOA、PFHxS 2. 装置 高速液体クロマトグラフ タンデム質量分析計 3. 内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 前処理操作（固相抽出法） 2) 測定操作 3) 定性・定量分析 4) 精度管理手法 	10 名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト [†]	令和6年10月7日(月)
教材配信 [†]	令和6年10月7日(月)～令和6年10月25日(金)
開講式 [†]	令和6年10月18日(金) 14:00～ (15分間)
オリエンテーション [†]	令和6年10月18日(金) 14:15～ (15分間)
実習 オリエンテーション [†]	令和6年10月18日(金) 14:30～ (45分間)
実習 [‡]	令和6年10月21日(月)～ 令和6年10月25日(金)
ゼミナール [‡]	令和6年10月25日(金) 13:45～ (90分間)
閉講式 [‡]	令和6年10月25日(金) 15:30～ (15分間)

[†]オンラインで実施します。 [‡]環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画および資料を期間内に閲覧してください。

教材名	時間
水質分析の前処理(固相抽出法)	約60分
質量分析の基礎	約90分
LC/MSの実践	約90分

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9:00より行う予定です。8:45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 特定機器分析研修Ⅱ(LC/MS/MS)第2回／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	17:00
オンライン	10/7(月)~ 10/17(木)	動画視聴【各自】 ・水質分析の前処理(固相抽出法) (ジューエルサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンターCS1課 国枝 巧) ・質量分析の基礎 (公立鳥取環境大学 環境学部 准教授 山本 敦史) ・LC/MSの実践 (公立鳥取環境大学 環境学部 准教授 山本 敦史)									
	10/18(金)	動画視聴期間						14:00~14:30 開講式 オリエン テーション	14:30~15:15 実習 オリエンテーション 自己紹介等	動画視聴期間	
研修所	10/21 (月)	9:00~ 施設 説明	9:15~ 実習室 説明等	9:30~10:30 実習講義	10:45~ 実習 環境調査研修所 教官 木村 久美子			(同左) 実習			
	10/22 (火)	8:50~ 9:20	実習 日本ウォーターズ(株) 小林 竜太 アジレント・テクノロジー(株) 城代 航			(同左) 実習					
	10/23 (水)	実 習 準 備	実習 日本ウォーターズ(株) 小林 竜太 アジレント・テクノロジー(株) 城代 航			(同左) 実習					
	10/24 (木)		実習 環境調査研修所 教官 木村 久美子			(同左) 実習					
	10/25 (金)		実習(データ整理、報告書作成)			ゼミナール				15:30~ 閉講式	

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。
 配信URLにおいて、10/7(月)から10/25(金)までが視聴可能期間となります。

- 使用教室 施設説明、閉講式 : 研修棟3階小セミナー室
 実験室説明、実習講義、実習、データ整理、ゼミナール : 特殊実習棟2階、3階
 開講式、オリエンテーション、実習オリエンテーション : オンライン

注)・10/25(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、ゼミナールの延長等により若干遅れる場合があります。

・帰路の航空機、鉄道の時間等の都合により、ゼミナールや閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 大気分析研修 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、大気分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互啓発及びネットワーク形成を図る。

2. 期間および会場

(1) 期間

全体: 令和7年1月20日(月)から2月7日(金)

オンライン開催日: 令和7年1月20日(月)～1月31日(金)

会場に集合する期間: 令和7年2月3日(月)～2月7日(金)

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地: 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話: 04(2994)9766(教務課直通)

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 研修予定人員

Aコース 8名

Bコース 12名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 所属長の推薦を受けた者

(4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

・Webex 上でのビデオ通話

・研修所 YouTube チャンネルへのアクセス

(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)

・研修所ホームページへのアクセス

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、**令和6年12月13日(金)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電

子での提出を基本とする。【提出先】教務課:KYOMU_KA@env.go.jp

※なお、添付様式「被推薦者名簿」についてはコースごとにシートを分けているため入力誤りが無いよう注意すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書(電子データ)を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員(独立行政法人職員を除く。)については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添 3「日程表(令和6年度大気分析研修)」のとおり。

※ 次の情報を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)に掲載しておりますので御参照ください。
◎「研修受講ガイドブック」
(研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。)

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する[※]。受講生は、環境調査研修所に集合する日（2月3日）までに、配信された教材の聴講を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の聴講確認はレポートの提出により行う。レポートは**集合研修開始日（2月3日）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jp へ電子メールにて送付すること。**
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、研修最終日に実施するゼミナールにおいて受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし聴講していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ 大気分析研修 教科内容

教科内容	時間
基調講義	1.0
共通講義	1.0
講義動画聴講	5.5
実習講義	1.0
実習	25.5
ゼミナール	1.5
その他(開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等)	4.0
合計教科時間	39.5

○ 大気分析研修 実習内容

コース	実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
A	有害揮発性有機汚染物質(HAPs)	有害大気汚染物質調査・モニタリング法の習得 VOCs：容器捕集・低温濃縮/GC/MS 法	1. 標準試料調製 2. キャニスター洗浄及びブランク管理 3. サンプルング 4. 機器分析 5. データ解析 6. 精度管理	8名
B	重金属類	大気粉じん (PM _{2.5} 含む) 中の重金属類測定法 (ICP-MS 法)	1. サンプルング 2. 前処理 3. 機器分析 4. データ解析 5. 精度管理	12名

合 計	20名
-----	-----

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト [†]	令和7年1月20日(月)
教材配信 [†]	令和7年1月20日(月)～ 令和7年1月31日(金)
開講式 [†]	令和7年1月31日(金) 14:00～ (10分間)
教務課オリエンテーション [†]	令和7年1月31日(金) 14:10～ (5分間)
基調講義 [†]	令和7年1月31日(金) 14:15～15:15 (60分間)
共通講義 [†]	令和7年1月31日(金) 15:15～16:15 (60分間)
実習オリエンテーション [†]	令和7年1月31日(金) 16:15～16:45 (30分間)
施設説明 [‡]	令和7年2月3日(月) 9:00～9:15 (15分間)
実習室説明等 [‡]	令和7年2月3日(月) 9:15～10:00 (45分間)
実習講義 [‡]	令和7年2月3日(月) 10:00～11:00 (60分間)
実習 [‡]	令和7年2月3日(月)～ 令和7年2月7日(金)
ゼミナール [‡]	令和7年2月7日(金) 13:45～ (90分間)
閉講式 [‡]	令和7年2月7日(金)15:30～ (15分間)

[†]オンラインで実施します。[‡]環境調査研修所に集合して実施します。

○配信予定教材一覧

以下の教材動画及び資料を期間内に閲覧してください。

コース	教材名	講師	時間
共通	化学物質の環境リスク評価について	川崎市環境総合研究所 石井宗幸	1.0
	大気エアロゾルの発生源解析	高崎経済大学 飯島明宏	1.0
A	有害大気汚染物質モニタリングの実際	東京都環境科学研究所 星純也	1.5
	加熱脱着 GC 測定法の原理	株式会社 ENVサイエンストレーディング 星野邦広	0.5
	GC の基礎	麻布大学 杉田和俊	0.5
	GC カラムの取扱いと選び方	Restek 株式会社 海老原卓也	1.0
B	大気粉じん試料のサンプリング法	埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一	2.0
	大気粉じん中の重金属の分析について	埼玉県環境科学国際センター 米持真一	1.5

(注) 1. 都合により一部内容を変更することがあります。

2. 集合研修初日の施設説明は9:00 より行う予定です。8:30 までに入所してください。

3. 集合研修最終日は 15:45 に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

4. 帰路の航空機、鉄道の時間等により講義等を欠席することは認めません。

令和6年度 大気分析研修／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 15:45 (休憩)	17:00
オンライン	1/20(月)	【共通】 化学物質の環境リスク評価について 大気エアロゾルの発生源解析 川崎市環境総合研究所 石井宗幸 高崎経済大学 飯島明宏 【Aコース】 有害大気汚染物質モニタリングの実際 加熱脱着GC 測定法の原理 GCの基礎 GCカラムの取扱いと選び方 東京都環境科学研究所 星純也 株式会社 ENVサイエンストレーディング 星野邦広 麻布大学 杉田和俊 Restek株式会社 海老原卓也 【Bコース】 大気粉じん試料のサンプリング法 大気粉じん中の重金属の分析について 埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一 埼玉県環境科学国際センター 米持真一								
	1/31(金)	動画視聴【各自】						14:00～14:15 開講式 オリエン テーション	14:15～15:15 基調講義 水・大気環境局環境管理課 環境汚染対策室 課長補佐 山田 克之	15:30～16:30 共通講義 大阪府立環境農林水産総合研究所 総括主任 西村理恵
研修所	2/3(月)	9:00～ 施設説明	9:15～10:00 実習室説明等	10:00～11:00 実習講義 【Aコース】 環境調査研修所 岩切良次 岩淵勝己 【Bコース】 環境調査研修所 本多将俊	11:15～ 実習 【Aコース】 環境調査研修所 岩切良次、岩淵勝己 【Bコース】 環境調査研修所 本多将俊 マイルストーンゼネラル株式会社 後藤将治	実習 【Aコース】 実習(含む講義) 低温濃縮装置の構造と測定原理 講師:ジーエルサイエンス株式会社 鈴木 明 【Bコース】 実習 同左				
	2/4(火)	8:50～9:20 実習準備等		実習 【Aコース】実習 環境調査研修所 岩切良次、岩淵勝己 講師:ジーエルサイエンス株式会社 鈴木明 【Bコース】実習 環境調査研修所 本多将俊 アジレント・テクノロジー株式会社 伊達由紀子 アジレント・テクノロジー株式会社 中野かずみ PerkinElmer Japan合同会社 敷野修		(同左) 実習				
	2/5(水)	実習準備等		実習 【Aコース】実習 環境調査研修所 岩切良次、岩淵勝己 講師:元環境調査研修所主任教官 渡辺靖二 【Bコース】実習 環境調査研修所 本多将俊 アジレント・テクノロジー株式会社 伊達由紀子 アジレント・テクノロジー株式会社 中野かずみ PerkinElmer Japan合同会社 敷野修		(同左) 実習				
	2/6(木)	実習準備等		実習 【Aコース】実習(測定・試料前処理等) 環境調査研修所 岩切良次、岩淵勝己 講師:元環境調査研修所主任教官 渡辺靖二 【Bコース】データ整理・レポート作成 環境調査研修所 本多将俊		(同左) 実習				
	2/7(金)	実習準備等		実習 【Aコース】測定・データ解析・レポート作成 環境調査研修所 岩切良次、岩淵勝己 講師:元環境調査研修所主任教官 渡辺靖二 【Bコース】データ整理・レポート作成 環境調査研修所 本多将俊		(13:45～15:15)ゼミナール 【Aコース】 環境調査研修所 岩切良次、岩淵勝己 講師:元環境調査研修所主任教官 渡辺靖二 【Bコース】 環境調査研修所 本多将俊			15:30～ 閉講式	

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。
配信URLにおいて、1/20(月)から1/31(金)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 開講式、オリエンテーション、基調講義、共通講義、実習オリエンテーション : オンライン
 <Aコース(指導教官:岩切教官、岩淵教官)> 実習、実験室説明、実習講義、ゼミナール : 実習棟3階
 <Bコース(指導教官:本多教官)> 実習、実験室説明、実習講義、ゼミナール : 実習棟2階
 施設説明、閉講式 : 研修棟3階小セミナー室

注)2/7(金)の集合研修終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
 帰路の航空機、鉄道の時間等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 廃棄物分析研修 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、廃棄物中の重金属等の分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

(1) 期間

全体：令和6年10月7日（月）から10月25日（金）

オンライン開催期間：令和6年10月7日（月）～10月18日（金）

会場に集合する期間：令和6年10月21日（月）～10月25日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 研修予定人員

10名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス
(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)
- ・ 研修所ホームページへのアクセス

6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添

えて、**令和6年8月23日(金)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表（令和6年度廃棄物分析研修）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、環境調査研修所に集合する日（令和6年10月21日）までに、配信された教材の視聴を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の視聴確認はレポート提出により行う。レポートは**集合研修開始日**（令和6年10月21日）までに**教務課：KYOMU_KA@env. go. jp**へ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習内容をまとめた実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、研修最終日に実施するゼミナールにおいて、受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ 廃棄物分析研修 教科内容

	時間
1. 基調講義（廃棄物行政の現状と課題（仮））	1.0
2. 実習講義	1.5
3. 講義（6価クロム分析について（仮））	1.5
4. 講義動画視聴	5.5
5. 実習	25.5
6. ゼミナール	1.5
7. その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）	3.5

合計 40.0 時間

○ 廃棄物分析研修実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
廃棄物中の重金属類 カドミウム、鉛、クロム、ヒ素、セレン等	前処理及び有害金属測定法の習得	1. 試料調製法 溶出試験（環告13号法） 2. 検液の前処理 3. 測定法 ICP発光分光法、水素化物発生原子吸光法 4. 精度管理手法	10名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト [†]	令和6年10月7日(月)
教材配信 [†]	令和6年10月7日(月)～ 令和6年10月25日(金)
開講式 [†]	令和6年10月18日(金) 14:00～ (15分間)
オリエンテーション [†]	令和6年10月18日(金) 14:15～ (15分間)
基調講義 [†]	令和6年10月18日(金) 14:30～ (60分間)
実習オリエンテーション [†]	令和6年10月18日(金) 15:30～ (30分間)
実習 [‡]	令和6年10月21日(月)～ 令和6年10月25日(金)
ゼミナール [‡]	令和6年10月25日(金) 13:45～ (90分間)
閉講式 [‡]	令和6年10月25日(金) 15:30～ (15分間)

[†]オンラインで実施します。[‡]環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画および資料を期間内に閲覧してください。

教材名	講師	時間
溶出試験の実際と課題	大阪公立大学 水谷 聡	約165分
金属類の分析法	PerkinElmer Japan 合同会社 古川 真	約165分

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9:00より行う予定です。8:45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 廃棄物分析研修／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00	11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45	13:45	14:00	15:15	15:30 (休憩)	15:45	17:00	
オンライン	10/7(月) ～ 10/17(木)	動画視聴【各自】 「溶出試験の実際と課題」 大阪公立大学 水谷 聡 「金属類の分析法」 PerkinElmer Japan合同会社 古川 真													
	10/18(金)	動画視聴【各自】								14:00～14:30 開講式 オリエンテーション	14:30～15:30 【基調講義】 環境省廃棄物規制課 課長補佐 切川 卓也	15:30～16:00 実習オリエン テーション	動画視聴 【各自】		
研修所	10/21 (月)	9:00～ 施設説明	9:15～ 実習室説明等	9:30～11:00 実習講義 環境調査研修所 教官 本多 将俊	【講義】 六価クロムの分析法のポイントについて 公立鳥取環境大学環境学部 副学部長 准教授 門木 秀幸					【実習】 アジレント・テクノロジー(株) 橋本 文寿 (株)島津製作所 橋本 晋 PerkinElmer Japan合同会社 古川 真					
	10/22 (火)	8:50～ 9:20	【実習】 アジレント・テクノロジー(株) 橋本 文寿 (株) 島津製作所 橋本 晋 PerkinElmer Japan合同会社 古川 真		(同左)【実習】										
	10/23 (水)	実 習 準 備 等	【実習】 (株) 島津製作所 川上 正		(同左)【実習】										
	10/24 (木)	【実習】 環境調査研修所 教官 本多 将俊		(同左)【実習】 環境調査研修所 教官 本多 将俊											
	10/25 (金)	【実習】 環境調査研修所 教官 本多 将俊		【ゼミナール】 環境調査研修所 教官 本多 将俊							15:30～ 閉講式				

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。
配信URLにおいて、10/7(月)から10/25(金)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 施設説明、講義、閉講式 : 研修棟3階小セミナー室
 実験室説明、実習講義、実習、データ整理 : 実習棟2階
 開講式、オリエンテーション、基調講義、実習オリエンテーション : オンライン

注)・10/25(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
 ・帰路の航空機、鉄道の時間等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度VOCs分析研修（水質）実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析に係る業務を担当している職員が、水質中の揮発性有機化合物（VOCs）の分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

(1) 期間

全体：令和6年7月26日（金）から8月2日（金）

オンライン開催日：令和6年7月26日（金）

会場に集合する期間：令和6年7月29日（月）～8月2日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 研修予定人員

10名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス

(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)

・研修所ホームページへのアクセス

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、添付様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、令和6年5月31日(金)までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表_令和6年度 VOCs 分析研修（水質）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

（別紙） 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、環境調査研修所に集合する日（令和6年7月29日）までに、配信された教材の聴講を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の聴講確認はレポートの提出により行う。レポートは集合研修開始日（令和6年7月29日）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、ゼミナールにおいて受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし聴講していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ VOCs 分析研修 教科内容

教科内容	時間
基調講義、講義	2.25
講義動画聴講	2.0
実習（実習講義、結果のまとめとレポート作成を含む）	25.5
ゼミナール	1.5
その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、施設説明、実習準備等）	3.75
合計教科時間	35.0

○ VOCs 分析研修（水質） 実習内容

目的：水質中の VOCs ヘッドスペースサンプラー（HS）-GC-MS を用いた VOCs 測定法の習得

実習内容の概要：混合標準試料を用いて、VOCs を対象とした測定メソッドを GC-MS で作成する。その後、測定用試料を使い、試料の前処理方法や作成したメソッドによる HS-GC-MS 測定、測定結果の解析を行う。

○日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト [†]	令和6年7月12日(金)
教材配信 [†]	令和6年7月12日(金)～令和6年8月2日(金)
開講式 [†]	令和6年7月26日(金) 14:00～(10分間)
教務課オリエンテーション [†]	令和6年7月26日(金) 14:10～(20分間)
基調講義 [†]	令和6年7月26日(金) 14:30～(45分間)
実習オリエンテーション [†]	令和6年7月26日(金) 15:30～(30分間)
実習 [‡]	令和6年7月29日(月)～令和6年8月2日(金)
ゼミナール [‡]	令和6年8月2日(金) 13:45～(90分間)
閉講式 [‡]	令和6年8月2日(金) 15:30～(15分間)

[†]オンラインで実施します。[‡]環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画を期間内に聴講してください。

教材名	時間
クロマトグラフィーの基礎(GC)	1.0
VOCs分析法解説	1.0

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9:00より行う予定です。8:45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 VOCs分析研修（水質）日程表

環境調査研修所

	8:50 ~9:20	9:30	11:00 11:15 (休憩)	12:45 13:45 (昼休み)	15:15 15:30 (休憩)	16:00	17:00
7/26 (金) オンライン	動画視聴【各自】			14:00~ 開講式 オリエンテーション	14:30~15:15【基調講義】 「水中VOCsに係る施策の動向」 講師：水・大気環境局環境管理課 金田龍治	15:30~16:00 実習オリエンテーショ ン	
7/29 (月)	9:00~	実習講義 環境調査研修所 主任教官 岩切良次	講義 ヘッドスペースサンプラーの基礎原理と測定 講師：株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 環境G 内山 新士	実習 10ng/mL標準液調整、同SCAN分析、SIMメソッド作成、 SIMメソッド確認用測定 講師：アジレント・テクノロジー株式会社 高桑 裕史 講師：株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 環境G 内山 新士			
7/30 (火)	8:50~	実習 10ng/mL標準液調整、同SCAN分析、SIMメソッド作成、 SIMメソッド確認用測定 アジレント・テクノロジー株式会社 高桑 裕史 講師：株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット 環境G 内山 新士		実習講義、実習		環境調査研修所 主任教官 岩切良次 教官 木村久美子	
7/31 (水)	実習	検量線標準液の調製、HS用試料の作成、ブランク試料の作成、測定、解析 環境調査研修所 主任教官 岩切良次 教官 木村久美子		同左			
8/1 (木)	同上	前日と同様の操作に加えて、水道水試料SIM測定等を実施 データ解析、報告書作成も適宜実施 環境調査研修所 主任教官 岩切良次 教官 木村久美子		同左			
8/2 (金)	実習	データ解析、報告書作成 環境調査研修所 主任教官 岩切良次 教官 木村久美子		ゼミナール	15:30~ 15:45 閉講式		

- 使用教室：施設説明、閉講式・・・第1教室
- ：講義、実習講義、ゼミナール・・・特殊実習棟3階
- ：実習・・・特殊実習棟1階
- 実習準備等：実習に関わる講義、各実習グループごとに実習打合せ、実習準備等を行う。
- 指導教官：岩切良次、木村久美子

注) 最終日の研修終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により、若干遅れる場合があります。
 帰路の航空機、列車時間等により、最終日の講義並びに閉講式等を欠席することは認めません。
参加にあたっては、「研修受講ガイドブック」(環境調査研修所ホームページに掲載)をよくお読みください。

令和6年度 課題分析研修Ⅰ（プランクトン） 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、プランクトンの検索法に係る専門的知識及び技術等を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図ることを目的とする。

2. 期間および会場

(1) 期間

研修期間 : 令和6年6月24日(月)～6月28日(金)

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04(2994)9766(教務課直通)

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 定員

10名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、令和6年5月10日(金)までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6.の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

・受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。

- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表（令和6年度課題分析研修Ⅰ（プランクトン）（案）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」は指定の日時に対面にて行う。
2. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習内容をまとめた実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
3. 報告書に基づき、研修最終日に実施するゼミナールにおいて、受講生同士の意見交換や討議を行う。

○ 教科内容

- | | |
|---|----------|
| 1. 実習講義 | 1. 25 |
| 研修カリキュラムについて、流れや今後の実習内容について理解するとともに、プランクトンの試料採取に係る基礎的な知識を習得し、現場実習での注意事項について理解することを目的とする | |
| 2. 実習 | 25. 75 |
| (現地実習) | 4. 75 |
| (実習(講義含む)) | 21. 0 |
| 3. ゼミナール | 1. 5 |
| 実習結果について研修で学んだ知識をもとにまとめ、発表・討議を通じて実習内容及び実習で得た知識・成果の再確認を行い、研修内容をより深く理解することを目的とする。 | |
| 4. その他(開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等) | 2. 75 |
| 合計 | 31. 25時間 |

○ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要
指標生物	淡水プランクトン検索法の習得	1. プランクトンの採取法 2. プランクトンの同定法 3. プランクトンの定量法 4. 水質評価法

○ 現地実習について

屋外での実習に適した服装を御用意ください。なお、長靴は当所で用意いたします。雨天時の対応のため、必要に応じて雨具も御用意ください。

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 集合研修初日の施設説明は9:30より行う予定です。9:00までに入所してください。
3. 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、研修時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 課題分析研修 I (プランクトン) 日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	10:15	11:30	12:15	17:00
		(休憩)					
6/24 (月)		9:30~10:00 開講式／オリエンテーション	10:15~11:30 実習講義	11:30~12:15 昼休み	12:15~17:00 (12:15バス乗車、12:20出発) 現地実習 (試料採取を2か所で行います)		元 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 工学博士 一瀬 諭 環境調査研修所 教官 岩切 良次
		9:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15 15:30 17:00
		(休憩)			(昼休み)	(休憩)	
6/25 (火)	実習準備等	8:50~9:20	9:30~12:45 実習 (各採取場所の試料の検鏡、講師による解説)		12:45~13:45 昼休み	(同 左) 実習 (プランクトン同定と検索の解説、プランクトン同定の実習、写真撮影)	
6/26 (水)		9:30~12:45 実習 (採取マニュアル解説、自由観察、写真撮影)	元 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 工学博士 一瀬 諭			(同 左) 実習 (計数法の解説、計数実習 (各班で各採取場所のサンプルを計数))	
6/27 (木)		9:30~12:45 実習 (アオコ・赤潮・水質評価に関する解説、各試料の観察と講師の解説)	元 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 工学博士 一瀬 諭			(同 左) 実習 (確認テスト (記述式)、試料の写真撮影、データ整理、報告書作成等)	
6/28 (金)		9:30~12:45 実習 (データ整理、報告書作成、写真データ確認など)	元 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 工学博士 一瀬 諭			13:45~15:15 ゼミナール	閉講式 15:30~

○使用教室 : 開講式、オリエンテーション : 研修棟3階小セミナー室
 実習講義、講義、実習、ゼミナール : 研修棟1階ワークショップ室
 閉講式 : 本館2階第1教室

○指導教官 : 岩切 良次

○実習準備等 : 各実習グループごとに実習準備、実習打ち合わせ、自由討議等を行います。

○注意事項 : 最終日の研修終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

帰路の航空機や列車時間等を理由として、最終日のゼミナール及び閉講式等を欠席することは認めません。

現地実習においては屋外での実習に適した服装を御用意ください。なお、長靴は当所で用意いたします。

参加にあたっては、「研修受講ガイドブック」(環境調査研修所ホームページに掲載)をよくお読みください。

○現時点における案であり、都合により内容等を一部変更することがあります。

令和6年度 ダイオキシン類環境モニタリング研修（基礎課程）実施要綱

1. 研修の目的

地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、ダイオキシン類の環境モニタリングに関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間および会場

(1) 期間

全体：令和6年8月26日（月）～9月13日（金）

オンライン開催期間：令和6年8月26日（月）～9月6日（金）

会場に集合する期間：令和6年9月9日（月）～9月13日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 研修予定人員

4名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス

(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)

・研修所ホームページへのアクセス

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、添付様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、令和6年7月5日（金）までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表_令和6年度ダイオキシン類環境モニタリング研修（基礎課程）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

（別紙） 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、集合研修開始日（令和6年9月9日）までに、配信された教材の聴講を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の聴講確認はレポートの提出により行う。レポートは集合研修開始日（令和6年9月9日）までに教務課：KYOMU_KA@env.go.jpへ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、ゼミナールにおいて受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし聴講していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ ダイオキシン環境モニタリング研修（基礎課程） 教科内容

教科内容	時間
基調講義、講義	1.75
講義動画聴講	4.25
実習（実習講義、結果のまとめとレポート作成を含む）	27
ゼミナール	1.5
その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、施設説明、実習準備等）	3.5
合計教科時間	38

○ ダイオキシン環境モニタリング研修（基礎課程） 実習内容

目的：抽出操作から GC/MS 測定までの基本的なダイオキシン類分析法の習得

実習内容の概要：濃度既知の飛灰標準試料を用いて、試料の抽出からクリーンアップ、GC/MS 測定とデータ解析を実施し、分析操作と各操作の原理・理論的な知識の習得を行う。

○日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト†	令和6年8月26日(月)
教材配信†	令和6年8月26日(月)～9月9日(月)
開講式†	令和6年9月6日(金) 14:00～(10分間)
教務課オリエンテーション†	令和6年9月6日(金) 14:10～(20分間)
基調講義†	令和6年9月6日(金) 14:30～(45分間)
講義† (ダイオキシン類概論)	令和6年9月6日(金) 15:30～(60分間)
実習概要説明†	令和6年9月6日(金) 16:30～(15分間)
実習‡	令和6年9月9日(月)～令和6年9月13日(金)
ゼミナール‡	令和6年9月13日(金) 13:45～(90分間)
閉講式‡	令和6年9月13日(金) 15:30～(15分間)

†オンラインで実施します。‡環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画を期間内に聴講してください。

教材名	時間
サンプリング解説(大気・水・土壌)	2.5
ダイオキシン類分析法マニュアル解説	0.75
高分解能GC/MSについて	1.0

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9:00より行う予定です。8:45までに入所してください。

3. 集合研修最終日は 15：45 に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 ダイオキシン類環境モニタリング研修（基礎課程）日程表

環境調査研修所

		8:50 ~9:20	9:30	11:00 11:15 (休憩)	12:45 13:45 (昼休み)	15:15 15:30 (休憩)	16:30	16:45	17:00
オンライン	8/26 (月) ~ 9/5 (木)	動画視聴【各自】 「ダイオキシン類マニュアル解説」 元独立行政法人製品評価技術基盤機構 浅田正三 「サンプリング解説（大気・水・土壌）」 一般社団法人埼玉県環境検査研究協会 横浜直樹 「高分解能GC/MSについて」 環境調査研修所主任教官 岩切良次							
	9/6 (金)	動画視聴【各自】				14:00~ 開講式 オリエンテーション	14:30~15:15【基調講義】 「ダイオキシン類に関する行政対策」 (仮) 講師：環境省水・大気環境局 環境管理課環境汚染対策室 室長補佐 原野 利暢	15:30~16:30【講義】 「ダイオキシン類に関する特性と問題の所在」 講師：摂南大学名誉教授 宮田 秀明	実習概要説明 環境調査研修所 主任教官 岩切良次
研修所	9/9 (月)	9:00~	実習講義 環境調査研修所 主任教官 岩切良次	実習 (抽出準備、飛灰の前処理、操作説明) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次	実習 (抽出操作実施、翌日の準備、関連事項の説明) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次				
	9/10 (火)	8:50~	実習 (抽出液濃縮、クリーンアップ（多層シリカゲルカラム）の実施と操作説明、器具準備等) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次		実習 (試料液濃縮、クリーンアップ（活性炭シリカゲルカラム）の実施と操作説明、最終検液の調製) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次				
	9/11 (水)		実習 (GC/MS操作説明、GC/MS操作実習、測定) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次		実習 (GC/MS測定、データ解析ソフト操作説明、関連事項の説明) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次				
	9/12 (木)		実習 (カラム交換実習、データ解析ソフト操作説明、関連事項の説明、測定) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次		実習 (測定、データ解析、報告書作成、関連事項の説明) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次				
	9/13 (金)		実習 (データ解析、報告書作成、関連事項の説明) 環境調査研修所 主任教官 岩切良次		ゼミナール 環境調査研修所 主任教官 岩切良次		15:30~ 15:45 閉講式		

- 使用教室： 施設説明・・・本館2階第5教室
- ： 講義、実習講義、ゼミナール・・・第2特殊実習棟
- ： 実習・・・第2特殊実習棟
- ： 閉講式・・・研修棟3階小セミナー室
- 実習準備等： 実習に関わる講義、実習打合せ、実習準備等を行う。
- 指導教官： 岩切 良次

注) 最終日の研修終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により、若干遅れる場合があります。帰路の航空機、列車時間等により、最終日の講義並びに閉講式等を欠席することは認めません。参加にあたっては、「研修受講ガイドブック」（環境調査研修所ホームページに掲載）をよくお読みください。

令和6年度 アスベスト分析研修 第1回 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、大気中のアスベスト濃度を測定する上での技術的指針であるアスベストモニタリングマニュアルの知識及び一般環境試料を対象とした繊維状物質の測定技術（位相差顕微鏡法、分析走査電子顕微鏡法）を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図ることを目的とする。

2. 期間および会場

(1) 期間

令和6年6月24日（月）から6月28日（金）

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 定員

6名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、**令和6年5月10日(金)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表（令和6年度アスベスト分析研修 第1回）（案）」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

別紙

○ 教科内容

1. 基調講義（アスベストの定義と大気中アスベストモニタリング方法）・・・	1. 5
2. 講義（(仮) 電子顕微鏡によるアスベスト測定法）・・・・・・・・・・	1. 5
3. 実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2. 5
4. ゼミナール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1. 5
5. その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）・・・・・・	3. 2 5
合計	3 0. 2 5時間

○ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要
大気中のアスベスト分析	大気中のアスベスト分析(位相差顕微鏡法及び分析走査電子顕微鏡法)の原理と分析技術の習得	1. サンプリング 2. 試料作成 3. 測定法 位相差顕微鏡法 (PCM 法) 分析走査電子顕微鏡法 (A-SEM 法)

○ 外部講師（予定）

- 【講義】アスベストモニタリングマニュアル検討委員（2名）
- 【実習】位相差顕微鏡メーカー指導員（1名）
- 電子顕微鏡メーカー指導員（1名）
- アスベスト分析技術者（2名）

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 開講式は10:00より行う予定です。9:30までに入所してください。
3. 最終日は15:45に終了する予定ですが、研修時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度アスベスト分析研修 第1回 日程表

環境省環境調査研修所

9:30		11:00		11:15		12:45		13:45		15:15		15:30		17:00		17:15	
				(休憩)				(昼休み)				(休憩)					
6月24日 (月)		10:00 開講式	オリエン テーション	11:00 実習オリエンテ ーション	11:15~12:45 【基調講義】アスベストの定義と大気中アスベストモニタリング方法	13:45~17:00 【実習】位相差顕微鏡法											
	独立行政法人労働者健康安全機構 フェロー研究員 神山 宣彦					環境調査研修所 教官 本多 将俊 (株)ニコンソリューションズ 植田 太郎 (株)ニコンソリューションズ 堀江 真一郎											
6月25日 (火)	8:50 ~ 9:20	9:30~12:40 【実習】位相差顕微鏡法				13:45~15:15 【実習】サンプリング		15:30~17:00 【実習】位相差顕微鏡法									
	実習 準備 等	環境調査研修所 教官 本多 将俊 (株)環境管理センター 飯田 裕貴子 (株)環境管理センター 奥村 謙介				同左											
6月26日 (水)	8:50~ 9:20	9:30~11:00 【講義】電子顕微鏡によるアスベスト測定法			11:15~12:45 【実習】分析走査電子顕微鏡法		13:45~17:00 同左										
	実習 準備 等	(公社)日本環境技術協会 理事 平野 耕一郎			環境調査研修所 教官 本多 将俊 日本電子(株) 溜池あかね												
6月27日 (木)	8:50~ 9:20	9:30~11:00 【実習】分析走査電子顕微鏡法			11:15~12:45 【実習】分析走査電子顕微鏡法		13:45~17:00 【実習】分析走査電子顕微鏡法										
	実習 準備 等	環境調査研修所 教官 本多 将俊 日本電子(株) 溜池あかね			同左												
6月28日 (金)	8:50~ 9:20	9:30~12:45 【実習】レポート作成				13:45~15:15 【ゼミナール】		15:30~									
	実習 準備 等	環境調査研修所 教官 本多 将俊				環境調査研修所 教官 本多 将俊		閉 講 式									

○指導教官 本多 将俊

○使用教室 開講式、オリエンテーション:本館第5教室

閉講式:本館第1教室

講義:本館第4教室

実習(サンプリング、位相差顕微鏡法)→実習棟1階

実習(分析走査電子顕微鏡法)、レポート作成、ゼミナール→特殊実習棟1階

○最終日は15:45終了予定となっておりますが、講義時間の延長等により遅れる場合があります。帰路の交通機関の利用等による閉講式の欠席は認めません。

○現時点における案であり、都合により内容等を一部変更することがあります。

令和6年度 アスベスト分析研修 第2回 実施要綱

1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、大気中のアスベスト濃度を測定する上での技術的指針であるアスベストモニタリングマニュアルの知識及び一般環境試料を対象とした繊維状物質の測定技術（位相差顕微鏡法、分析走査電子顕微鏡法）を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図ることを目的とする。

2. 期間および会場

(1) 期間

令和6年7月29日（月）から8月2日（金）

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

3. 教科内容

別紙のとおりとする。

4. 定員

6名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦方法

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、**令和6年5月31日(金)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

(1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

10. 日程について

別添3「日程表（令和6年度アスベスト分析研修第2回）（案）」のとおり。

※次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」
（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

別紙

○ 教科内容

1. 基調講義（アスベストの定義と大気中アスベストモニタリング方法）・・・	1. 5
2. 講義（電子顕微鏡によるアスベスト測定法）・・・・・・・・・・・・・・・・	1. 5
3. 実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2. 5
4. ゼミナール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1. 5
5. その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）・・・・・・	3. 2 5
合計	3 0. 2 5時間

○ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要
大気中のアスベスト分析	大気中のアスベスト分析(位相差顕微鏡法及び分析走査電子顕微鏡法)の原理と分析技術の習得	1. サンプリング 2. 試料作成 3. 測定法 位相差顕微鏡法 (PCM法) 分析走査電子顕微鏡法 (A-SEM法)

○ 外部講師（予定）

- 【講義】アスベストモニタリングマニュアル検討委員（2名）
- 【実習】位相差顕微鏡メーカー指導員（2名）
- 電子顕微鏡メーカー指導員（1名）
- アスベスト分析技術者（2名）

（注）

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 開講式は10：00より行う予定です。9：30までに入所してください。
3. 最終日は15：45に終了する予定ですが、研修時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度アスベスト分析研修 第2回 日程表

環境省環境調査研修所

9:30		11:00		11:15		12:45		13:45		15:15 15:30		17:00		17:15		
				(休憩)				(昼休み)				(休憩)				
7月29日 (月)		10:00 開講式	オリエン テーション	11:00 実習オリエンテ ーション	11:15~12:45 【基調講義】アスベストの定義と大気中アスベストモニタリング方法	13:45~17:00 【実習】位相差顕微鏡法										
					独立行政法人労働者健康安全機構 フェロー研究員 神山 宣彦		環境調査研修所 教官 本多 将俊 (株)ニコンソリューションズ 植田 太郎 (株)ニコンソリューションズ 堀江 真一郎 优技術士事務所 田中 隆明									
7月30日 (火)	8:50 ~ 9:20 実習 準備 等	9:30~12:45 【実習】位相差顕微鏡法					13:45~15:15 【実習】サンプリング		15:30~17:00 【実習】位相差顕微鏡法							
					環境調査研修所 教官 本多 将俊 (株)環境管理センター 飯田 裕貴子 (株)環境管理センター 奥村 謙介		同左									
7月31日 (水)	8:50~ 9:20 実習 準備 等	9:30~11:00 【講義】電子顕微鏡によるアスベスト測定法			11:15~12:45 【実習】分析走査電子顕微鏡法		13:45~17:00 同左									
					(公社)日本環境技術協会 理事 平野 耕一郎		環境調査研修所 教官 本多 将俊 日本電子(株) 溜池あかね		同左							
8月1日 (木)	8:50~ 9:20 実習 準備 等	9:30~12:45 【実習】分析走査電子顕微鏡法					13:45~17:00 【実習】分析走査電子顕微鏡法									
					環境調査研修所 教官 本多 将俊 日本電子(株) 溜池あかね		同左									
8月2日 (金)	8:50~ 9:20 実習 準備 等	9:30~12:45 【実習】レポート作成					13:45~15:15 【ゼミナール】		15:30~							
					環境調査研修所 教官 本多 将俊		環境調査研修所 教官 本多 将俊		閉 講 式							

○指導教官 本多 将俊

○使用教室 開講式、オリエンテーション、講義：本館2階第4教室

閉講式：本館2階第1教室

実習(サンプリング、位相差顕微鏡法)→実習棟1階

実習(分析走査電子顕微鏡法)、レポート作成、ゼミナール→特殊実習棟1階

○最終日は15:45終了予定となっておりますが、講義時間の延長等により遅れる場合があります。帰路の交通機関の利用等による閉講式の欠席は認めません。

○現時点における案であり、都合により内容等を一部変更することがあります。

令和6年3月6日

分析研修関係者各位

環境省 環境調査研修所

令和6年度 研修支援教材公開のご案内

お世話になっております。

当所では、新型コロナウイルス感染対策として、集合研修の一時休止を余儀なくされておりましたが、令和5年度より、段階的に集合研修を再開しております。

集合研修休止期間中は、令和3年度より、分析研修の代替措置として、本来研修参加によって得られることが期待される化学分析・機器分析に関連した基本的知識について、一部ではありますが、研修支援教材の視聴を通じて習得していただくことを目的に、研修支援教材の配信を実施しておりました。

この研修支援教材の配信は、お陰様を持ちまして多くの皆様からご好評をいただいております。令和6年度も引き続き実施することといたしました。

令和6年度は、環境モニタリング業務の実務を担当される国・地方自治体、および関連団体に所属される個人を対象とし、環境分析、機器分析、化学分析や、環境汚染に関する基礎的な知識習得を目的とした動画教材の配信を行います。なお、配信スケジュールは以下を予定しております。

令和6年5月13日(月)～令和6年9月30日(月)

研修支援教材は、教材の視聴希望者に限定して公開いたします。これらの教材の視聴を希望する職員を有する組織・機関におかれましては、別添1の公開要領をご覧ください、視聴希望者をとりまとめ、別添2のエクセルファイル(視聴希望者登録フォーム)に必要事項をご記入の上、下記の研修所・教務課担当者までご連絡ください。後日登録された視聴希望者宛に教材の配信のURLを研修所より直接お知らせいたします。

なお、視聴された方全員を対象として、アンケートの記入をお願いする予定です。アンケートの回答は、各組織・機関の視聴希望者とりまとめ窓口のご担当者様から、視聴者分をとりまとめた上、ご提出いただくことといたしますので、ご協力よろしく願いいたします。

本件に関する問合せ先
環境省 環境調査研修所
教務課 担当 森 井上

04-2994-9766

KYOMU_KA@env.go.jp

令和6年度 研修支援教材(分析関係)の公開要領

1. 目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務に携わる職員を対象とした動画教材を作成・配信し、環境分析業務の遂行に必要な専門的知識習得や技能向上を支援することを目的とします。

2. 教材の公開期間及び配信方法

(1)公開期間:令和6年5月13日(月)～令和6年9月30日(月)頃を予定

(2)動画配信方法:環境調査研修所公式チャンネル(YouTube)

3. 配信教材内容

環境分析業務に関連する、分析化学、機器分析、環境化学等の基礎的内容

4. 閲覧主対象者

次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1)本支援教材の視聴希望を出した者

(2)当該機関において、環境分析業務を担当している者

(3)当該支援教材の受信に支障のない機器等の環境が整備できる者

5. 配信対象団体

国・地方自治体および関連団体

6. 経費

配信教材の視聴等に関する経費は、配信対象の団体・機関の負担とする。

令和6年9月30日

分析研修関係者各位

環境省 環境調査研修所

令和6年度 研修支援教材公開のご案内(後期)

お世話になっております。

当所では、新型コロナウイルス感染対策として、集合研修の一時休止を余儀なくされておりましたが、令和5年度より、段階的に集合研修を再開しております。

集合研修休止期間中は、令和3年度より、分析研修の代替措置として、本来研修参加によって得られることが期待される化学分析・機器分析に関連した基本的知識について、一部ではありますが、研修支援教材の視聴を通じて習得していただくことを目的に、研修支援教材の配信を実施しておりました。

この研修支援教材の配信は、お陰様を持ちまして多くの皆様からご好評をいただいております。令和6年度も引き続き実施することといたしました。

令和6年度は、前期に続き、環境モニタリング業務の実務を担当される国・地方自治体、および関連団体に所属される個人を対象とし、環境分析、機器分析、化学分析や、環境汚染に関する基礎的な知識習得を目的とした動画教材の配信を行います。なお、配信スケジュールは以下を予定しております。

令和6年11月5日(火)～令和7年3月28日(金)

別紙には今回公開予定(作成予定を含む)の研修支援教材の一覧を示しております。

研修支援教材は、教材の視聴希望者に限定して公開いたします。これらの教材の視聴を希望する職員を有する組織・機関におかれましては、別添1の公開要領をご覧ください、視聴希望者をとりまとめ、別添2のエクセルファイル(視聴希望者登録フォーム)に必要事項をご記入の上、下記の研修所・教務課担当者までご連絡ください。後日登録された視聴希望者宛に教材の配信のURLを研修所より直接お知らせいたします。

なお、視聴された方全員を対象として、アンケートの記入をお願いする予定です。アンケートの回答は、視聴された各個人様から、直接ご提出いただくことといたしますので、よろしくお願いいたします。

本件に関する問合せ先
環境省 環境調査研修所
教務課 担当 森 井上

04-2994-9766

KYOMU_KA@env.go.jp

令和6年度 研修支援教材(分析関係)の公開要領(後期)

1. 目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務に携わる職員を対象とした動画教材を作成・配信し、環境分析業務の遂行に必要な専門的知識習得や技能向上を支援することを目的とします。

2. 教材の公開期間及び配信方法

(1)公開期間:令和6年11月5日(火)～令和7年3月28日(金)頃を予定

(2)動画配信方法:環境調査研修所公式チャンネル(YouTube)

3. 作成予定の支援教材

別紙のとおり

4. 配信教材内容

環境分析業務に関連する、分析化学、機器分析、環境化学等の基礎的内容

5. 閲覧主対象者

次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1)本支援教材の視聴希望を出した者

(2)当該機関において、環境分析業務を担当している者

(3)当該支援教材の受信に支障のない機器等の環境が整備できる者

6. 配信対象団体

国・地方自治体および関連団体

7. 経費

配信教材の視聴等に関する経費は、配信対象の団体・機関の負担とする。

【別紙】

「公開予定の研修支援教材タイトル」

- 計量器具の取り扱い方および分析値の取り扱い方 宮下文秀 (株) 島津総合サービス
- 理化学用ガラス器具の正しい知識と取り扱い 丸島渉 柴田科学 (株)
- データの信頼性確保と標準物質の役割 山澤賢 (一財) 化学物質評価研究機構
- 超純水の基本 石井直恵 メルク (株)
- 分離分析化学の基礎 梅村知也 東京薬科大学
- 質量分析の基礎 山本敦史 公立鳥取環境大学
- 水質分析の前処理 (固相抽出法) 国枝巧 ジーエルサイエンス (株)
- クロマトグラフィーを用いる環境分析 四ノ宮美保 大妻女子大学
- 化学物質の安全な取り扱いのために 富田賢吾 名古屋大学環境安全衛生管理室
- エアースンプラーの基礎 小島謙太郎 柴田科学 (株)
- PM2.5 サンプラーの基礎 宇田川智 東京ダイレック (株)
- 試料の採取及び検体の調整方法 環境保健部環境安全課 (作製当時)
- クロマトグラフィーの基礎 (GC) 熊田英峰 東京薬科大学
- GC・GC/MS 分析における試料導入 熊田英峰 東京薬科大学
- GC カラムの取扱いと選び方 Restek (株)
- 液体クロマトグラフィーの基礎知識 梅村知也 東京薬科大学
- LC-MS の実践 山本敦史 公立鳥取環境大学
- イオンクロマトグラフィーの基礎 中谷暢丈 酪農学園大学
- マイクロ波加熱分解法 後藤将治 マイルストーンゼネラル (株)
- 原子吸光法の基礎 川上正 (株) 島津製作所
- ICP 発光分光分析法 松野夏奈 (株) 島津製作所
- 誘導結合プラズマ質量分析法の基礎 鹿籠康行 東北大学
- ICP-MS による微量元素分析の実際
-環境水試料を例として- 藤森英治 元環境調査研修所
- 環境分析の前処理について
-キレート樹脂濃縮法による環境水試料の前処理- 藤森英治 元環境調査研修所
- 溶出試験の実際と課題 水谷聡 大阪公立大学
- 環境汚染物質による生態系への影響 国末達也 愛媛大学
- 残留性有機汚染物質に関わるストックホルム条約
-PFAS を中心に- 柴田康行 元国立環境研究所
- 気中アスベスト分析のための位相差顕微鏡の取扱い 田中隆明 兎技術士事務所
- 位相差顕微鏡法によるアスベスト分析 (1) 飯田裕貴子 (株) 環境管理センター
- 位相差顕微鏡法によるアスベスト分析 (2) 飯田裕貴子 (株) 環境管理センター
- 走査電子顕微鏡の原理 高島良子 日本電子 (株)
- 生物顕微鏡の取扱い 田中隆明 兎技術士事務所
- 実体顕微鏡の取扱い 田中隆明 兎技術士事務所
- プランクトンの検索・同定及び水質評価 (講義 実習) 一瀬諭 元滋賀県琵琶湖環境科学センター

令和6年度環境省新採用職員研修実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

新たに環境省職員として環境行政を推進するにあたり、必要な基礎的知識及び環境行政全般にわたる基本的な考え方、ビジネスマナーや職場におけるコミュニケーションなど、業務に携わる際の基本的事項を学ぶ。

2. 期間及び会場

- 4月2日（火）～5日（金） オンライン講義
- 4月8日（月）～10日（水） 環境調査研修所にて実施
- 4月11日（木）～12日（金） 福島県にて実施
- 4月15日（月）～18日（木） オンライン講義

- 環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3、電話：04-2994-9766
- 福島県内の研修見学地等については、福島研修日程表（案）のとおり。

3. 教科内容 裏面のとおり

4. 研修予定人員 90名程度

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当し、所属長の推薦を受けた者とする。

- (1) 令和6年度に環境省採用予定の職員またはこれと同等と認められる者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 研修所での集合研修に参加できる者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、推薦書に別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、**令和6年3月29日（金）までに**、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。推薦後に変更があれば速やかに知らせること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

8. 研修結果の通知

以下の①及び②を満たした場合に、本研修を修了したものとし、研修終了後所属長に受講の結果を通知する。

- ① オンライン研修
所定の課程を受講し、別途指示するレポートを提出した場合
- ② 集合研修
原則として9割以上出席し、所定の課程を受講した場合

9. 経費

原則として、次の経費は環境調査研修所において負担する。

- (1) 往復に必要な交通費
- (2) 日額旅費
なお、別途、滞在費として必要な食費、雑費等を徴収する。

*参考：環境調査研修所 研修受講ガイドブック 令和5年度版
(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)

【オンライン研修部分】

1 環境行政の概況や基本的な考え方

- (1) 環境行政の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60分
- (2) 原子力規制行政／原子力規制庁について・・・・・・・・ 50分
- (3) 被災地の環境再生／福島地方環境事務所について・・ 50分
- (4) 地球環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (5) 自然環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (6) 総合環境政策統括官グループについて・・・・・・・・ 50分
- (7) 地域脱炭素推進審議官グループについて・・・・・・ 50分
- (8) 環境保健部について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (9) 水・大気環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (10) 環境再生・資源循環局について・・・・・・・・・・・・ 50分
- (11) 環境省の関連組織等について・・・・・・・・・・・・ 60分

1の合計 9時間30分

2 環境省業務に携わる際に必要な基礎知識や基礎的事項

- (1) 環境省組織概要/大臣官房について・・・・・・・・・・ 30分
- (2) 服務、倫理、ハラスメント等・・・・・・・・・・・・・・ 60分
- (3) 環境省ネットワークシステムと情報セキュリティ対策・・ 70分
- (4) 予算成立過程及び会計実務・・・・・・・・・・・・・・ 60分
- (5) 国会実務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40分
- (6) 文書管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40分
- (7) 環境省の広報・報道について・・・・・・・・・・・・・・ 40分
- (8) 地方環境事務所について・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30分
- (9) 危機管理・災害対策について・・・・・・・・・・・・・・ 20分

2の合計 6時間30分

3 その他

開・閉講式、オリエンテーション、前日の振り返り 2時間55分

オンライン研修合計 18時間55分

【集合研修部分】

4. 基調講義

新人の皆さんへ～環境省という活火山へようこそ～ 1時間

5. ビジネスマナーや職場におけるコミュニケーションの習得

ビジネスコミュニケーション 3時間30分

※受講に当たっては、別途連絡する視聴教材により各自ビジネスマナーに係る事前学習を行うこと。

6. 環境省入省後のキャリアや働き方について考える

先輩職員の業務体験記 3時間30分

【演習1】グループ討議～先輩職員を囲んで～ 2時間15分

6の合計 5時間45分

7. 外から見た環境省について知り、社会の中で期待されている役割について考える

【講義】外から見た環境省 2時間

【講義】環境と経済、そして金融 1時間30分

7の合計 3時間30分

8. 福島の現地研修に向けて

【演習2】グループ討議 ～福島現地視察関連～ 2時間15分

9. その他

オリエンテーション、グループ討議等 2時間

研修所会場での研修合計 18時間

10. 福島現地研修

合計 約8時間15分～9時間20分

(※福島現地研修の時間については、行程上グループによって差がある。

また、現地見学なので時間については目安である。)

総計 45時間10分～46時間15分

(注)

○教科内容は、都合により一部変更になることがあります。

○講義時間の延長等により研修の終了が若干遅れる場合があります。

令和6年度環境省新採用職員研修〈オンライン研修部分〉日程表

環境調査研修所

月 日										
4月2日 (火) ※オンライン							13:30～14:00 開講式 オリエンテー ション	14:10～15:10 (60 分) 【講義】環境行政の 現況 大臣官房総合政策課	15:25～15:55 (30分) 【講義】環境 省組織概要/大 臣官房につい て 大臣官房秘書 課業務改革推 進室	
4月3日 (水) ※オンライン		10:10～10:30 (20分) 前日の振り返 り	10:30～11:40 (70分) 【講義】環境省ネットワークシステムと情報セ キュリティ対策 大臣官房総務課環境情報室							
4月4日 (木) ※オンライン			10:40～11:00 (20分) 前日の振り返 り	11:00～11:40 (40分) 【講義】国会実務 大臣官房総務課		12:00～ 13:00 昼休み	13:30～14:30 (60分) 【講義】予算成立過程及び会 計実務 大臣官房会計課	14:45～15:25 (40 分) 【講義】文書管理 大臣官房総務課	15:40～16:20 (40分) 【講義】環境省 の広報・報道に ついて 大臣官房総務課 広報室	16:30～17:00 (30 分) 【講義】地方 環境事務所につ いて 大臣官房秘書課 地方環境室
4月5日 (金) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 前日の振り返 り	10:00～10:50 (50分) 【講義】被災地の環境再生/福島 地方環境事務所について 福島地方環境事務所	11:00～11:50 (50分) 【講義】原子力規制行政/原子力 規制庁について 原子力規制委員会原子力規制庁 長官官房人事課 総括補佐 御器谷 俊之	12:00～ 13:00 昼休み		13:40～ 14:00 (20分) 【講義】危機 管理・災害対 策について 大臣官房総務 課危機管理・ 災害対策室	14:10～15:10 (60分) 【講義】服務、倫 理、ハラスメント等 大臣官房秘書課			
4月15日 (月) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 4月5日 (金)の振 り返し	10:00～10:50 (50分) 【講義】環境保健部について 環境保健部環境保健企画管理課	11:00～11:50 (50分) 【講義】水・大気環境局について 水・大気環境局総務課							
4月16日 (火) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 前日の振り返 り	10:00～10:50 (50分) 【講義】自然環境局について 自然環境局総務課	11:00～11:50 (50分) 【講義】環境再生・資源循環局に ついて 環境再生・資源循環局総務課							
4月17日 (水) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 前日の振り返 り	10:00～10:50 (50分) 【講義】総合環境政策統括官グ ループについて 大臣官房総合政策課	11:00～11:50 (50分) 【講義】地球環境局について 地球環境局総務課							
4月18日 (木) ※オンライン	9:30 ～ 9:40 (10 分) 前日 の振 り返 り	9:40～10:30 (50分) 【講義】地域脱炭素推進審議官グ ループについて 大臣官房地域政策課	10:40～11:40 (60分) 【講義】環境省の関連組織等につ いて 国立研究開発法人国環境研究所 理事 高澤 哲也 独立行政法人環境再生保全機構総 務部企画課 課長 本城 宏行 中間貯蔵・環境安全事業株式会社 管理部長 眼目 佳秀	11:40 ～ 11:55 閉講 式						

注) ・終了時刻は、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
・オンライン接続先アドレスは、別途お知らせします。

令和6年度環境省新採用職員研修<集合研修部分> 日程表

環境調査研修所

月 日	※講師氏名：五十音順						
4月8日 (月)		10:00～11:00 オリエンテーション・写真撮影	11:15～12:15 【基調講義】新人の皆さんへ～環境省という活火山へようこそ～ 環境省大臣官房秘書課長 西村 治彦	12:15～ 13:15 昼休み	13:15～17:00(※15分の休憩含む) 【講義】ビジネスコミュニケーション コクヨ株式会社 坂本 崇博 萩原 謙一郎 成田 麻里子	17:15～ 19:00 交流会	
4月9日 (火)	8:50～9:20 グループ討議 (グループ内自己紹介・昨日の振り返り)	9:30～12:15(※15分の休憩含む) 【講義】先輩職員の業務体験記 <若手職員> 内田 崇 (R3) 平山 歩夢 (R2) 鈴木 郁子 (H31) <海外業務経験者> 笠原 綾 (H21) 北本 剛 (H21)		12:15～ 13:15 昼休み	13:15～14:15 【講義】先輩職員の業務体験記 浜島 直子 (H15) 田中 俊秀 (H16) 山北 育実 (H16)	14:30～17:00(※15分の休憩含む) 【演習1】グループ討議～先輩職員を囲んで～ <先輩職員> 内田 崇 (R3) 笠原 綾 (H21) 北本 剛 (H21) 鈴木 郁子 (H31) 田中 俊秀 (H16) 平山 歩夢 (R2) 山北 育実 (H16) (※追加、変更の可能性あり)	
4月10日 (水)	8:50～9:20 グループ討議 (昨日の振り返り)	9:30～10:30 【講義】外から見た環境省～民間への出向者から～ 岸 雅明 (H17・日本製鉄株式会社薄板事業部薄板企画室上席主幹) 塩野目 望 (H29・株式会社ゴールドウインPLAY EARTH 事業グループ) 豊原 悠作 (H31・太平洋セメント株式会社環境事業部リサイクルグループ副主任)	10:45～12:15 【講義】環境と経済、そして金融 近藤 崇史 日本銀行名古屋支店営業課企画役(元環境省環境金融推進室長) 竹ヶ原 啓介 株式会社日本政策投資銀行設備投資研究所長 田吉 禎彦 株式会社脱炭素化支援機構代表取締役社長	12:15～ 13:15 昼休み	13:15～14:15 【講義】外から見た環境省～自治体への出向者から～ 亀井 雄 (H20) 笹渕 紘平 (H18) 永田 綾 (H17)	14:30～17:00(※15分の休憩含む) 【演習2】東京電力福島第一原子力発電所事故による環境汚染からの福島の復興・再生の取組～今から約20年後を考えてみよう～ 環境省環境再生・資源循環局参事官 中野 哲哉	
4月11日 (木)	<p style="text-align: center;">福島研修(大臣官房秘書課と共催) ※詳細については、「令和6年度新規採用職員福島現地研修しおり」をご参照ください。</p>						福島県
4月12日 (金)	<p style="text-align: center;">福島研修(大臣官房秘書課と共催) ※詳細については、「令和6年度新規採用職員福島現地研修しおり」をご参照ください。</p>						

○使用教室：本館3階講堂

注：資料が多いので、必要があれば適宜資料を入れる袋等をお持ちください。

参加にあたっては、「研修受講ガイドブック」(環境調査研修所ホームページに掲載)をよくお読みください。

(1日目)4月11日(木)

時間	Aチーム	Bチーム	Cチーム
8:00	朝ご飯確認		
	所沢研修所 出発	所沢研修所 出発	所沢研修所 出発
9:00	移動4時間+昼食 高速道路のパーキングで 昼食 (昼食取る場所は、友部SAなどが候補だが、当日の混み具合など場合によってはバス内で食べるなど調整)		
10:00			
11:00			
12:00			
13:00	猶予		
	請戸小学校・大平山霊園 (40分) 13:20~	中間貯蔵施設 (120分)	東日本大震災・原子力災害伝承館 (60分) 13:15~
14:00	猶予		移動(10分)
	移動10分		猶予
15:00	東日本大震災・原子力災害伝承館 (60分) 14:30~		請戸小学校・大平山霊園 (40分) 14:50~
	移動(5分)	移動15分	移動20分
16:00	双葉町 JR双葉駅前広場<10分> 双葉町役場<10分> 駅西住宅(内見含む) <20分~25分> 南小学校<25分> 双葉町旧町役場<15~20分> 産業交流センター<15分> 双葉町海水浴場:時間調整用 <~10分> (1時間45分)	東日本大震災・原子力災害伝承館 (60分) 16:00~	中間貯蔵施設 (120分)
	移動20分	移動20分	
	ほっと大熊経由		
18:00	移動20分		移動30分
	ARM双葉		
19:00			
	ARM双葉・ほっと大熊	蓮人館	蓮人館

(2日目)4月12日(金)

時間	Aチーム	Bチーム	Cチーム
	ほっと大熊/ARM双葉	蓮人館	蓮人館
8:00			
	ARM双葉宿泊者:移動(20分) ほっと大熊:徒歩	移動(15分)	移動(15分)
9:00	講話(90分)@linkる大熊 多目的ホール(8:45~10:00)		
10:00	移動(15分)	移動(15分)	移動(25分)
	中間貯蔵施設 (120分)	大熊町 災害公営住宅見学(町役場付近) (40分)	双葉町 JR双葉駅前広場<10分> 双葉町役場<10分> 駅西住宅(内見含む) <20分~25分> 南小学校<25分> 双葉町旧町役場<15~20分> 産業交流センター<15分> 双葉町海水浴場:時間調整用 <~10分> (1時間45分)
11:00		移動30分(時間P)	
		請戸小学校・大平山霊園 (40分) 11:20~	
12:00		移動60分 バス内で昼食	移動80分 バス内で昼食
	移動70分 バス内で昼食		
13:00		飯館村長泥地区環境再生事業工 ア(60分)	飯館村長泥地区環境再生事業工 ア(60分)
14:00	飯館村長泥地区環境再生事業工 ア(60分)		
	移動60~70分	移動60~70分	移動70分
15:00		猶予	
16:00	レジェンド対話(90分+10分関谷所長) @コラッセふくしま(福島駅) ※バスは福島教育会館に移動して駐車		
17:00			
18:00	移動4時間+a		
19:00			
20:00			
21:00	環境省(露分)		

令和6年度環境省職員研修（課長補佐級）（分散開催）実施要綱

環境調査研修所

1. 目的

環境行政は、時代の要請を踏まえ、新たな課題への対応を迅速に行うことが重要である。そのため、必然的に、新規かつ前例の無い業務が増大し、またそれぞれの業務も専門的かつ複雑化する傾向がある。ここ10年程度で見ても、東日本大震災対応等、環境省が担う行政範囲は飛躍的に拡大し、業務は急激に拡大してきた。また、現在の職場は、これまでと比べ、育児・介護等の多様な家庭事情を有する職員や任期付き職員、出向職員が増えるなど職員構成が多様化し、各職員の仕事に対する意識も変化している。こうした中、2050年カーボンニュートラルの実現などに向けて、環境行政の更なる効果的かつ効率的な推進を図るためには、方針や目標を設定してメンバーと共有・深化させるとともに、職員一人一人の能力を最大限に発揮させ、また育成しつつ、できるだけ効率的に目標達成を図るといったマネジメント能力の向上が急務である。

このような背景から、当研修では、指導的立場にある職員を対象に、業務・人材マネジメントやコーチングといった手法のスキルアップ、意識の向上等を図る。

2. 期間及び実施方法

(1) 期間：概ね令和6年9月～12月の間のうち、共通講義を2日程度実施する。
分散開催については、開催場所ごとに集合研修実施日を調整し、決定する。

(2) 開催場所：

（共通講義）

環境省本省 第2・第3会議室（オンライン併用）

※一部の講義については、Web会議システムを利用したオンライン形式での講義実施のみ。

（分散開催）

①福島地方環境事務所、②中部地方環境事務所、③中国四国地方環境事務所、④沖縄奄美自然環境事務所、⑤環境調査研修所の各事務所等における会議室等（合計5か所）

※被推薦者の所属が本省及び関東地方環境事務所又は関東近郊の施設等機関の場合、環境調査研修所での受講、所属が地方分局の場合、所属の地方環境事務所での受講とする。

(3) 実施方法：

各地方環境事務所4か所及び環境調査研修所において、それぞれ1日間の講義・演習による対面での集合研修を実施する。集合研修に先立ち管理職の役割等に係る事前学習及び環境本省におけるオンライン併用の講義を受講し、集合研修後に理解度確認チェックを行うとともに、対面研修受講から概ね一か月後にフォローアップ・オンライン面談を実施する。

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 各回定員20名程度（合計100名）
（①～④においては1回、⑤においては2回実施する。）

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 環境省の職員で、職場における指導的立場にある者（概ね、本省課長補佐、地方支分部局課長クラスで、それぞれの職場において、業務・人材マネジメントにおいて核となることが想定される者であることが望ましい。）
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、推薦書に別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、令和6年8月26日(月)【必着】までに、環境調査研修所あて文書により通知すること。「被推薦者名簿」は開催場所ごとに1シートとすること。

なお、送付は電子での提出を基本とする。

【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

8. 修了について

受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。(オンライン参加については、別途指示する方法により出欠確認をおこなう。)

9. 経費

環境調査研修所において関東近郊より参加の研修生については、原則として通常の出勤として所属部署等のPASMO等IC乗車券も活用した旅費の処理とする。

地方事務所開催の場合においては、必要な旅費が発生する場合は、所定の手続きのもと、原則として環境調査研修所が負担するものとする。

環境省職員研修(課長補佐級)教科内容

<事前学習資料>

1. 【動画視聴】事前学習資料(視聴時間20分程度)
2. 【講義】「国家公務員のためのマネジメントテキスト」改訂版の解説の研修資料

<共通講義>

1. 【基調講義】私の思う「環境政策の視点」・・・・・・・・・・2.0時間
2. 【講義】「国家公務員のためのマネジメントテキスト」改訂版の解説・・2.0時間
(※オンラインのみ)
3. 【講義】公務員倫理・ハラスメントについて・・・・・・・・・・1.0時間
4. 【講義】メンタルヘルスについて・・・・・・・・・・1.3時間

<分散開催：対面>

5. 【講義・演習】マネジメントの基礎、人材のマネジメント、業務のマネジメント等
・・・・・・・・・・6.0時間

<フォローアップ・オンライン面談>

分散開催対面講義受講後1ヶ月経過後に、講師との
オンライン・フォローアップ面談を受講・・・・・・・・・・0.3時間
(約20分)

合計 12.6時間

(注)都合により一部内容を変更することがあります。

令和6年度環境省職員研修(課長補佐級) 日程表

環境調査研修所

	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
9月11日(水) @環境省本省 (オンライン併用)	9:45~10:00 開講式 オリエンテーション	10:00~11:00 【講義】 公務員倫理、ハラスメントについて 大臣官房秘書課 課長補佐 赤石 唯	休憩	11:10~12:30 【講義】 メンタルヘルスについて 医師/産業医/労働衛生コンサルタント 河下 太志	休憩		13:30~15:30 【基調講義】 私の思う「環境政策の視点」 元環境事務次官 鎌形 浩史		
9月25日(水) オンライン講義							13:30~15:30 【講義】 「国家公務員のためのマネジメントテキスト」 改訂版の解説 内閣官房内閣人事局 企画官 玉井 淳平		
※会場毎に日程決定 @各会場		10:00~12:00 【講義、演習】マネジメントの基礎 (グループワーク等) 株式会社市進ホールディングス	休憩			13:00~17:00 【講義・演習】人材のマネジメント、業務のマネジメント (グループワーク等) 株式会社市進ホールディングス			

○使用教室： 会場ごとに会議室等を研修場所として利用します。

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
 2. 集合研修前に事前学習、集合研修後に理解度確認チェック及びオンライン面談を実施します。
 3. 9月11日については、本省に勤務されている方は会場参加、地方事務所等に勤務されている方はオンライン参加となります。
- ※ 各会場の日程：福島地方環境事務所 11月6日(水)、中部地方環境事務所 10月15日(火)、中国四国地方環境事務所 10月21日(月)、
沖縄奄美自然環境事務所 11月11日(月)、環境調査研修所 10月10日(木)・10月16日(水)

令和6年度自然保護官等研修 I 実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

環境省入省1年目で、環境省本省又は地方環境事務所に配属され、未だ自然環境行政の現場の最前線である自然保護官事務所勤務を経験していない自然系技官の職員(他省庁からの配転者を含む。)が、最低限必要となる自然環境行政全般にわたる基礎知識を身に付け、先輩自然保護官等との意見交換を通して「レンジャー」としての基本的な心構えについて理解し、近い将来自然保護官として現場の第一線に立つための心の準備をする。併せて、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間及び会場

- (1) 期間 令和7年1月14日(火)から1月17日(金)まで(4日間)
※期間中は受講者全員合宿制となります。
- (2) 会場 環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3
TEL 04(2994)9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 35名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 環境省の職員で国立公園管理、野生生物保護の業務を担当している、又は担当しうる者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和6年11月1日(金)までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

8. 事前課題

「(別添3)自然保護官等研修I・行政事例の作成について」のとおり、事例を作成して期日までに提出すること。なお、当該事例作成以外にも事前学習等の連絡を別途行う予定である。

9. 修了証書の交付

受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。

10. 経費

- (1) 往復に必要な旅費
環境調査研修所から支給する。
- (2) 滞在費
日額旅費を環境調査研修所から支給する。

11. 日程

別添2「令和6年度 自然保護官研修 I 日程表」のとおり

*研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載した「研修受講ガイドブック」を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)に掲載しておりますので御参照ください。

○ 自然保護官等研修Ⅰ 教科内容

- | | |
|--|------------|
| 1. 基調講義－これからの自然環境行政の展望－ | 1. 5時間 |
| 自然環境行政のこれからの展開や方向性について、自然系技官である環境省幹部から話を聞くことで、現場の第一線で自然環境行政を担う者としての立場を認識し、今後の自らの職務への取り組み方についてイメージする。 | |
| 2. レンジャーの仕事を理解する | 2. 0時間 |
| 自然環境行政の基盤は、現地管理体制である。それを担う自然保護官、「レンジャー」の行動の軸とすべき基本的な考え方について理解し、職場内外の関係者とのコミュニケーションのあり方、日々の業務への向き合い方などについて考える。さらに、行政事務に携わる者としての基本的な心構えや業務の進め方、注意点等について学ぶ。 | |
| (1) レンジャーのイロハ | 1. 5時間 |
| (2) 役人のイロハ | 0. 5時間 |
| 3. 自然環境行政概論 | 10. 0時間 |
| 自然環境行政の施策の概要を知り、基本的な考え方を理解する。 | |
| (1) 生物多様性概論 | 3. 0時間 |
| (2) 国立公園概論 | 3. 5時間 |
| (3) 野生生物概論 | 3. 5時間 |
| 4. 国立公園から社会・経済を考える | 3. 0時間 |
| 国立公園の景観や自然環境は、地域の社会・経済と相互作用の関係にある。地域の資源である自然環境は、暮らしや事業の基盤となり、その変化は自然環境の変化をもたらす。自然保護官がこの資源を将来に引き継ぐ要として機能するためには、社会・経済の分野と協働することが不可欠であり、異なる分野との企画を立案して実行するための心構えや技術について学ぶ。 | |
| 5. レンジャーに期待すること | 1. 5時間 |
| レンジャーが習熟すべき技術、業務における必要性、レンジャーとして仕事に向き合う際の基本的な考え方や心得等について学び、現場の最前線のレンジャーとしての自らのあり方、この研修での取り組み方を考える。 | |
| 6. グループ討議「レンジャーの業務について」 | 3. 0時間 |
| 自然保護官等研修Ⅰに参加の研修生が、お互いの業務について情報を交換・共有し、自然系技官の担当している業務について理解を深めるとともに、現場の第一線で働くレンジャーとしての役割に対する認識を深め、業務に対する取り組み方や現地での生活、地域との付き合いなどについて考え、意見を交換することで、相互に啓発し、今後の各自の現場での取り組みに活かす。 | |
| 7. 会計概論 | 1. 5時間 |
| 会計業務の概要を知り、基本的な考え方や現地における実務の基本について理解する。 | |
| 8. 協働による国立公園の現場管理 | 0. 75時間 |
| 公園管理団体による国立公園の現場管理の実態や課題などについて理解する。 | |
| 9. その他（開・閉講式、オリエンテーション等） | 0. 75時間 |
| | 合計 24. 0時間 |

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 開講式は、10時より行う予定です。9時30分までに入所してください。
- 閉講式は16時00分に終了する予定ですが、若干遅れる場合もあります。
- 帰路の航空機や列車の時間等により最終日の講義や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度自然保護官等研修 I 日程表

(別添2)

	9:00	10:00	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:30	17:00
		9:30	10:30	10:45 (休憩)	12:15	(昼休み)	(休憩)		
1月14日 (火)		10:00~10:30 (0.5h) 開講式 オリエンテー ション	10:45~12:15 (1.5h) 【講義】 レンジャーのイロハ 環境省中国四国地方環境事務所 生物多様性保全企画官 秀田 智彦	12:15~12:45 (0.5h) 【講義】 役人のイロハ 大臣官房秘書 課地方環境室 調整専門官 櫻又 涼子		13:45~17:00 (3.0h) ※15:15~15:30休憩 【グループ討議】 レンジャーの業務について 大臣官房秘書課業務改革推進室 係員 田宮 沙知子 自然環境局国立公園課 係長 古川 遥香 自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室 係長 山崎 大輔 関東地方環境事務所沼津管理官事務所 国立公園管理官 安生 浩太 大臣官房秘書課地方環境室 調整専門官 櫻又 涼子			
1月15日 (水)	9:00~12:45 (3.5h) ※10:45~11:00休憩 【講義、演習】 国立公園概論 自然環境局国立公園課 専門官 山北 育実、係員 仲原 沙希 自然環境局国立公園課利用推進室 課長補佐 中原 一成 自然環境局自然環境整備課 係長 荒巻 理恵 関東地方環境事務所自然環境整備課 滞任環境整備専門官 小保根 聡 *本館2階第6教室にて実施。						13:45~17:00 (3.0h) ※15:15~15:30休憩 【講義、演習】 生物多様性概論 自然環境局自然環境計画課 課長補佐 笹淵 紘平 自然環境局生物多様性センター 専門調査官 山下 慎吾 *本館2階第6教室にて実施。		
1月16日 (木)	9:00~12:45 (3.5h) ※10:45~11:00休憩 【講義、演習】 野生生物概論 自然環境局野生生物課 課長補佐 七目木 修一 自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長補佐 藤田 道男 自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室 係長 木富 正裕 自然環境局野生生物課希少種保全推進室 係長 皆藤 琢磨						13:45~15:15 (1.5h) 【基調講義】 環境省自然環境局長 植田 明浩		15:30~17:00 (1.5h) 【講義】 レンジャーに期待するこ と 江戸川大学 特任教授 中島 慶 二
1月17日 (金)	8:45~12:00 (3.0h) ※10:15~10:30休憩 【講義、演習】 国立公園から社会・経済を考える 釧路自然環境事務所 所長 岡野 隆宏			(昼休み) 12:00~13:00	13:00~13:45 (0.75h) 【講義】 協働による国立 公園の現場管理 一般財団法人自然公園財 団 専務理事 鳥居 敏 男	14:00~15:30 (1.5h) 【講義】 会計概論 自然環境局総務課 予算決算係長 新井 良典 大臣官房秘書課地方環境室 調整専門官 櫻又 涼子		15:45 ~ 16:00 閉講式	

○使用教室：本館3階講堂

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場（本館3階講堂）にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は16時00分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度自然保護官等研修Ⅱ①実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

環境省入省2年目程度で、自然環境行政の現場の最前線である自然保護官事務所勤務を間もなく経験するか、または勤務1年目程度の自然系技官の職員が、自然保護官として独り立ちする際に最低限必要となる自然環境行政に関する知識・技術・考え方の基本を習得する。特に、自然保護官が自身の判断を直接的に求められる国立公園管理における必須の技術体系（特に風致判断に関すること等）について、その考え方を身につける。併せて、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間及び会場

- (1) 期 間：令和6年12月2日（月）から12月6日（金）まで（5日間）
※期間中は受講者全員合宿制となります。
- (2) 場 所：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3
TEL 04（2994）9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 30名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 環境省の職員で国立公園管理、野生生物保護の業務を担当している、又は担当しうる者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和6年10月4日（金）までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

8. 事前課題

現地管理を進める上での必須事項となる「自らが担当する国立公園のビジョン（目指す姿）を明確にし、それを実現するためのロードマップを具体的に描き、それを関係者と共有すること」の重要性を理解するため、担当する国立公園の区域等をどのような姿にしていくのかを示したビジョンと、そのビジョンを実現するための具体的な手順・スケジュールを示したロードマップを記載した資料（公園業務経験のない研修生は、担当する自らの業務にかかるもの）を事前に作成し、「【講義】現地管理の実際」の中で研修生による発表と討論を行う予定。なお、詳細や〆切、提出先等は別添3のとおり。

9. 研修の修了について

受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。

10. 経 費

- (1) 往復に必要な経費
環境調査研修所から支給する。
- (2) 滞在費

日額旅費を環境調査研修所から支給する。

11. 日程

別添2「令和6年度 自然保護官等研修Ⅱ① 日程表」のとおり。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)
に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」(研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載しております。)

○ 自然保護官等研修Ⅱ 教科内容

- 1 **【講義】 国立公園行政の今後の展開** 1.0 時間
 国立公園行政の基本的な方向性やこれからの展開について理解し、現場の第一線で自然環境行政を担う者として、今後の自らの職務への取り組み方について考える。
- 2 **【講義】 国立公園現地業務の考え方のポイント** 1.5 時間
 公園の指定から企画、整備、保護、管理運営に至る公園管理技術の体系的習得を念頭に、本研修の全体の導入となる考え方について理解する。
- 3 **【講義、討議】 現地管理の実際** 5.5 時間
 「自らが担当する国立公園のビジョン（目指す姿）を明確にし、それを実現するためのロードマップを具体的に描き、それを関係者と共有すること」は、現地管理を進める上での必須事項である。研修生が予め作成し持ち寄った「ビジョンとロードマップ」について、発表と討議を行い、グレードアップを図る。
- 4 **【講義、演習】 公園計画 ～ビジョンの具体化と公園計画策定の実務～** 5.0 時間
 各々の国立公園のビジョン（その公園（地域）を特徴付ける主要な保全対象やその保全・利用のあり方について明らかにした「目指すべき姿」）を具体的に表現することは、公園行政の一連の業務の出発点である。設定された国立公園のビジョンの実現を目指して、その公園の保全対象を保全し、望ましい利用形態を推進するために、規制や施設を計画するのが公園計画である。
 両者の関係及び許認可や公園整備とのつながりを理解するとともに、計画策定の基本的な考え方や自然保護官として日々どのような点に着眼して“点検作業”を行うことが必要か等の実務の進め方について学ぶ。
 また、グループに分かれて討議や実技を行い、公園計画策定に係る基本的な考え方を習得するとともに、調整のあり方について考える。
- 5 **【講義、演習】 管理運営計画** 4.5 時間
 管理運営計画は、公園計画に示したビジョンの実現を地域の多様な関係者とともに行うこと、また、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的に作成するものである。令和4年には、管理運営計画の構成と内容に行動計画（地域の多様な関係者ととも実施すべき取組方策及び役割分担を示したもの）が追加され、今後、行動計画を含む管理運営計画に改訂していく必要がある。講義を通じて、管理運営計画に求められる役割とその変化について理解するとともに、行動計画をつくる演習とグループ討議を通じて、改訂に向けた実務とともに、ビジョンを実現するための地域の多様な関係者との協働による公園管理の進め方について学ぶ。
- 6 **【講義、演習】 公園整備 ～公園事業の考え方と直轄整備計画策定の実務～** 6.0 時間
 公園の利用と管理における公園事業の役割や、執行者となる国・自治体・民間との連携など、公園事業に関する基本的な考え方について理解するとともに、現場において自然保護官が直面する地元市町村からの要請、期待等を知り、国の予算の現状を踏まえ、自然公園等事業をどのように進めていくのかその実務を学ぶ。
- 7 **【講義、演習】 公園保護 ～風致判断と許認可指導の実務～** 5.7 時間
 公園の風景の劣化を最小限に抑えるのが許可指導業務である。風致判断の基礎や審査基準の記述内容が意味するもの、許可指導にあたる際の基本的な考え方や手順、留意事項等について学び、具体的な開発事例を題材に、効果的な対処方法等に関してグループ討議を通し、許可指導業務の基本を習得する。また、公園整備の一環である公園事業の認可指導業務について、許可指導業務と対比させながら学ぶ。
- 8 その他（開・閉講式、オリエンテーション、全体振り返り） 1.05 時間

合計 30.25 時間

(注)1. 都合により一部内容を変更することがあります。

2. 開講式は、10時00分より行う予定です。9時30分までに入所してください。

3. 閉講式は、15時45分に終了予定ですが、遅れる場合があります。

4. 帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 自然保護官等研修Ⅱ① 日程表

別添2

8:30 9:00 9:30 10:00 11:00 12:00 12:45 13:45 15:00 16:00 17:00

(昼休み)									
12月2日(月)		10:00～ 10:30(0.5h) 開講式 オリエンテー ション	10:30～11:30(1.0h) 【講義】国立公園行政の 今後の展開 自然環境局国立公園課 長 西村 学	休憩	11:45～13:15(1.5h) 【講義】国立公園現地業務の考え 方のポイント 中国四国地方環境事務所 生物 多様性保全企画官 秀田 智彦		14:15～15:45(1.5h) 【講義・討議】現地管理の実際(ビジョン とロードマップ)① 中国四国地方環境事務所 生物多様性保全企画官 秀田 智彦	休憩	16:00～17:00(1.0h) 【講義・討議】現地管理の 実際(ビジョンとロードマッ プ)② 中国四国地方環境事務 所 生物多様性保全企画官 秀田 智彦
12月3日(火)	8:50～9:20 【討議】現地 管理の実際 (ビジョンと ロードマッ プ)③ 秀田企画官	9:30～15:45(5.0h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園計画(ビジョンの具体化と公園計画策定の実務) 北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所阿寒摩周国立公園管理事務所 所長 田中 準 中国四国地方環境事務所 統括自然保護企画官 松永 暁道 自然環境局国立公園課 専門官 山北 育実 * 本館2階第6教室にて実施。				同左		休憩	16:00～17:00(1.0h) 【討議】現地管理の実際 (ビジョンとロードマップ) ④ 秀田企画官
12月4日(水)	8:50～9:20 【討議】現地 管理の実際 (ビジョンと ロードマッ プ)⑤ 秀田企画官	9:30～15:15(4.5h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】管理運営計画 自然環境局国立公園課 課長補佐 榎 厚生 係長 高橋 佳大				同左	休憩	15:30～17:00(1.5h) 【講義・演習】公園整備(公園事業の考 え方と直轄整備計画策定の実務)① 自然環境局自然環境整備課 課長補佐 二戸 治 施設管理専門官 永緑 哲人 係長 荒巻 理恵 総務課新宿御苑管理事務所 庭園第一科長 石鍋 健 国立公園課 係員 仲原 沙希 * 本館2階第6教室にて実施。	
12月5日(木)	8:50～9:20 【討議】現地 管理の実際 (ビジョンと ロードマッ プ)⑥ 秀田企画官	9:30～15:15(4.5h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園整備(公園事業の考え方と直轄整備計画策定の実務)② 自然環境局自然環境整備課 課長補佐 二戸 治 施設管理専門官 永緑 哲人 係長 荒巻 理恵 自然環境局総務課新宿御苑管理事務所 庭園第一科長 石鍋 健 自然環境局国立公園課 専門官 山北 育実 * 本館2階第6教室にて実施。				同左	休憩	15:30～17:00(1.5h) 【講義・演習】公園保護(風致判断と許 可指導の実務(事業認可含む))① ※講師は12/6と同じ	
12月6日(金)	8:50～9:20 【討議】現地 管理の実際 (ビジョンと ロードマッ プ)⑦ 秀田企画官	9:30～14:55(4.2h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園保護(風致判断と許可指導の実務(事業認可含む))② 東北地方環境事務所 国立公園課長 田畑 慎之介 伊勢志摩国立公園管理事務所 所長 柘植 規江 自然環境局国立公園課 係長 山下 淳一				同左	14:55 ～ 15:15 全体 振り 返り	休憩	15:30 ～ 15:45 閉講 式

●使用教室: 本館3階講堂

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場(本館3階講堂)にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は15時45分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度自然保護官等研修Ⅱ②実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

コロナ下により自然保護官等研修Ⅱを受講していない職員を対象に、自然保護官として独り立ちする際に最低限必要となる自然環境行政に関する知識・技術・考え方の基本を習得する。特に、自然保護官が自身の判断を直接的に求められる国立公園管理における必須の技術体系（特に風致判断に関すること等）について、その考え方を身につける。併せて、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間及び会場

- (1) 期 間：令和6年12月2日（月）から12月5日（木）まで（4日間）
※期間中は受講者全員合宿制となります。
- (2) 場 所：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3
TEL 04（2994）9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 20名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 環境省の職員で国立公園管理、野生生物保護の業務を担当している、又は担当しうる者
- (2) 令和3年度環境省入省者
- (3) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (4) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和6年10月22日（火）までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

8. 事前課題

「（別添3）自然保護官等研修Ⅱ②・行政事例の作成について」のとおり、事例を作成して期日までに提出すること。なお、当該事例作成以外にも事前学習等の連絡を別途行う予定である。

9. 研修の修了について

受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。

10. 経 費

(1) 往復に必要な経費

原則として環境調査研修所から支給する。ただし、所属部局等での支給が可能な場合は、所属部局等において経費の全部または一部を支給いただく場合がある。対象者等詳細は別途調整する。

(2) 滞在費

日額旅費を原則として環境調査研修所から支給する。ただし、所属部局等での日額旅費の支給が可能な場合は、所属部局等において支給いただく場合がある。対象者等詳細は別途調整する。

11. 日程

別添2「令和6年度 自然保護官等研修Ⅱ② 日程表（案）」のとおり。

* 次の情報を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>) に掲載しておりますので御参照ください。

◎ 「研修受講ガイドブック」（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載しております。）

○ 自然保護官等研修Ⅱ② 教科内容

1 【講義】 国立公園行政の今後の展開

1.0 時間

国立公園行政の基本的な方向性やこれからの展開について理解し、現場の第一線で自然環境行政を担う者として、今後の自らの職務への取り組み方について考える。

2 【講義、演習】 公園計画 ～ビジョンの具体化と公園計画策定の実務～

5.0 時間

各々の国立公園のビジョン（その公園（地域）を特徴付ける主要な保全対象やその保全・利用のあり方について明らかにした「目指すべき姿」）を具体的に表現することは、公園行政の一連の業務の出発点である。設定された国立公園のビジョンの実現を目指して、その公園の保全対象を保全し、望ましい利用形態を推進するために、規制や施設を計画するのが公園計画である。

両者の関係及び許認可や公園整備とのつながりを理解するとともに、計画策定の基本的な考え方や自然保護官として日々どのような点に着眼して“点検作業”を行うことが必要か等の実務の進め方について学ぶ。

また、グループに分かれて討議や実技を行い、公園計画策定に係る基本的な考え方を習得するとともに、調整のあり方について考える。

3 【講義、演習】 管理運営計画

4.5 時間

管理運営計画は、公園計画に示したビジョンの実現を地域の多様な関係者とともに図ること、また、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的に作成するものである。令和4年には、管理運営計画の構成と内容に行動計画（地域の多様な関係者とともに実施すべき取組方策及び役割分担を示したもの）が追加され、今後、行動計画を含む管理運営計画に改訂していく必要がある。講義を通じて、管理運営計画に求められる役割とその変化について理解するとともに、行動計画をつくる演習とグループ討議を通じて、改訂に向けた実務とともに、ビジョンを実現するための地域の多様な関係者との協働による公園管理の進め方について学ぶ。

4 【講義、演習】 公園整備 ～公園事業の考え方と直轄整備計画策定の実務～

6.0 時間

公園の利用と管理における公園事業の役割や、執行者となる国・自治体・民間との連携など、公園事業に関する基本的な考え方について理解するとともに、現場において自然保護官が直面する地元市町村からの要請、期待等を知り、国の予算の現状を踏まえ、自然公園等事業をどのように進めていくのかその実務を学ぶ。

5 【講義、演習】 公園保護 ～風致判断と許認可指導の実務～

5.7 時間

公園の風景の劣化を最小限に抑えるのが許可指導業務である。風致判断の基礎や審査基準の記述内容が意味するもの、許可指導にあたる際の基本的な考え方や手順、留意事項等について学び、具体的な開発事例を題材に、効果的な対処方法等に関してグループ討議を通し、許可指導業務の基本を習得する。また、公園整備の一環である公園事業の認可指導業務について、許可指導業務と対比させながら学ぶ。

6 その他（開・閉講式、オリエンテーション、自主討議、全体振り返り）

2.55 時間

合計 24.75 時間

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 開講式は、10時00分より行う予定です。9時30分までに入所してください。
- 閉講式は、15時45分に終了予定ですが、遅れる場合があります。
- 帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和6年度 自然保護官等研修Ⅱ② 日程表

別添2

	8:30	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	12:45	13:45	15:00	16:00	17:00	
	(昼休み)											
12月2日(月)			10:00～ 10:30(0.5h) 開講式 オリエン テーション	10:30～11:30(1.0h) 【講義】国立公園行政の 今後の展開 自然環境局国立公園課 長 西村 学	休憩	11:45～18:00(5.0h) 【講義・演習】公園計画 ※講師は午後と同じ * 本館2階第6教室にて 実施		11:45～18:00(5.0h) ※12:45～13:45、15:15～15:30休憩 【講義・演習】公園計画(ビジョンの具体化と公園計画策定の実務) 北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所阿寒摩周国立公園管理事務所 所長 田中 準 中国四国地方環境事務所 統括自然保護企画官 松永 暁道 自然環境局国立公園課 係員 仲原 沙希 * 本館2階第6教室にて実施				
12月3日(火)	8:50～9:20 【討議】自主 討議	9:30～15:15(4.5h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】管理運営計画 自然環境局国立公園課 課長補佐 榊 厚生 係長 高橋 佳大					同左	休憩	15:30～17:00(1.5h) 【講義・演習】公園整備(公園事業の考 え方と直轄整備計画策定の実務)① 自然環境局自然環境整備課 課長補佐 二戸 治 施設管理専門官 永緑 哲人 係長 荒巻 理恵 総務課新宿御苑管理事務所 庭園第一科長 石鍋 健 国立公園課 専門官 山北 育実			
12月4日(水)	8:50～9:20 【討議】自主 討議	9:30～15:15(4.5h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園整備(公園事業の考え方と直轄整備計画策定の実務)② 自然環境局自然環境整備課 課長補佐 二戸 治 施設管理専門官 永緑 哲人 係長 荒巻 理恵 自然環境局総務課新宿御苑管理事務所 庭園第一科長 石鍋 健 自然環境局国立公園課 係員 仲原 沙希 * 本館2階第6教室にて実施					同左	休憩	15:30～17:00(1.5h) 【講義・演習】公園保護(風致判断と許 可指導の実務(事業認可含む))① ※講師は12/5と同じ			
12月5日(木)	8:50～9:20 【討議】自主 討議	9:30～14:55(4.2h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園保護(風致判断と許可指導の実務(事業認可含む))② 東北地方環境事務所 国立公園課長 田畑 慎之介 伊勢志摩国立公園管理事務所 所長 柘植 規江 自然環境局国立公園課 係長 山下 淳一					同左	14:55 ～ 15:15 全体 振り 返り	休憩	15:30 ～ 15:45 閉講 式		

●使用教室：本館2階第一教室、一部の講義等については本館3階講堂

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場(本館3階講堂)にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は15時45分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度 環境行政基本研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

環境省に他府省・地方公共団体等から出向した者、環境専門員、環境専門調査員及び任期付き職員が、環境省において業務を遂行するために必要な基礎知識及び環境行政全般にわたる基本的な考え方を習得する。

2. 期間及び実施方法

- (1) 期間 : 令和6年4月2日(火)～4月18日(木)
- (2) 実施方法 : オンラインによる講義配信 ※接続先は別途連絡

3. 教科内容

裏面のとおりとする。

4. 研修予定人員

300名程度

5. 受講資格

次の各号のいずれかに該当し、研修受講に支障のない健康状態にあり、秘書課長の推薦を受けた者とする。

- (1) 他府省及び地方公共団体等から出向して1年未満の者
- (2) 環境専門員(環境行政実務研修生)(※1年目の者は必須)
- (3) 環境専門調査員
- (4) 任期付き職員(※採用されて1年未満の者)

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、推薦書に別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、**令和6年3月29日(金)までに**、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

8. 研修結果の通知

所定の課程を受講し、別途指示するレポートを提出した場合に本研修を修了したものとし、研修終了後、所属長に受講の結果を通知する。

[令和6年度 環境行政基本研修教科内容]

1 環境行政の概況や基本的な考え方

- (1) 環境行政の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60分
- (2) 原子力規制行政／原子力規制庁について・・・・・・・・ 50分
- (3) 被災地の環境再生／福島地方環境事務所について・・ 50分
- (4) 地球環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (5) 自然環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (6) 総合環境政策統括官グループについて・・・・・・・・ 50分
- (7) 地域脱炭素推進審議官グループについて・・・・・・ 50分
- (8) 環境保健部について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (9) 水・大気環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (10) 環境再生・資源循環局について・・・・・・・・・・・・ 50分
- (11) 環境省の関連組織等について・・・・・・・・・・・・ 60分

1の合計 9時間30分

2 環境省業務に携わる際に必要な基礎知識や基礎的事項

- (1) 環境省組織概要/大臣官房について・・・・・・・・・・ 30分
- (2) 服務、倫理、ハラスメント等・・・・・・・・・・・・・・ 60分
- (3) 環境省ネットワークシステムと情報セキュリティ対策・・ 70分
- (4) 予算成立過程及び会計実務・・・・・・・・・・・・・・ 60分
- (5) 国会実務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40分
- (6) 文書管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40分
- (7) 環境省の広報・報道について・・・・・・・・・・・・・・ 40分
- (8) 地方環境事務所について・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30分
- (9) 危機管理・災害対策について・・・・・・・・・・・・・・ 20分

2の合計 6時間30分

3 その他

開・閉講式、オリエンテーション、前日の振り返り 2時間55分

合計 18時間55分

(注)

- 教科内容は、都合により一部変更になることがあります。
- 講義時間の延長等により研修の終了が若干遅れる場合があります。

令和6年度環境行政基本研修日程表

環境調査研究所

月 日										
4月2日 (火) ※オンライン							13:30～14:00 開講式 オリエンテー ション	14:10～15:10 (60 分) 【講義】環境行政の 現況	15:25～15:55 (30分) 【講義】環境 省組織概要/大 臣官房につい て	
		10:10～ 10:30 (20 分) 前日の振り 返り	10:30～11:40 (70分) 【講義】環境省ネットワークシステムと情報セ キュリティ対策							
4月3日 (水) ※オンライン				10:30～11:40 (70分) 【講義】環境省ネットワークシステムと情報セ キュリティ対策						
4月4日 (木) ※オンライン			10:40～ 11:00 (20 分) 前日の振り 返り	11:00～11:40 (40分) 【講義】国会実務		12:00～ 13:00 昼休み	13:30～14:30 (60分) 【講義】予算成立過程及び 会計実務	14:45～15:25 (40 分) 【講義】文書管理	15:40～16:20 (40分) 【講義】環境省 の広報・報道に ついて	16:30～17:00(30 分) 【講義】地方 環境事務所につ いて
				大臣官房総務課			大臣官房会計課	大臣官房総務課	大臣官房総務課 広報室	大臣官房秘書課 地方環境室
4月5日 (金) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 前日の振り 返り	10:00～10:50 (50分) 【講義】被災地の環境再生/福島 地方環境事務所について		11:00～11:50 (50分) 【講義】原子力規制行政/原子力 規制庁について		12:00～ 13:00 昼休み	13:40～ 14:00(20分) 【講義】危機 管理・災害対 策について	14:10～15:10(60分) 【講義】服務、倫 理、ハラスメント等		
		福島地方環境事務所		原子力規制委員会原子力規制庁 長官官房人事課 総括補佐 御器谷 俊之			大臣官房総務 課危機管理・ 災害対策室	大臣官房秘書課		
4月15日 (月) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 4月5日 (金)の振り 返り	10:00～10:50 (50分) 【講義】環境保健部について		11:00～11:50 (50分) 【講義】水・大気環境局について						
		環境保健部環境保健企画管理課		水・大気環境局総務課						
4月16日 (火) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 前日の振り 返り	10:00～10:50 (50分) 【講義】自然環境局について		11:00～11:50 (50分) 【講義】環境再生・資源循環局につ いて						
		自然環境局総務課		環境再生・資源循環局総務課						
4月17日 (水) ※オンライン	9:40～ 10:00 (20 分) 前日の振り 返り	10:00～10:50 (50分) 【講義】総合環境政策統括官グ ループについて		11:00～11:50 (50分) 【講義】地球環境局について						
		大臣官房総合政策課		地球環境局総務課						
4月18日 (木) ※オンライン	9:30 ～ 9:40 (10 分) 前日 の振り 返り	9:40～10:30 (50分) 【講義】地域脱炭素推進審議官グ ループについて	10:40～11:40 (60分) 【講義】環境省の関連組織等につ いて		11:40 ～ 11:55					
		大臣官房地域政策課	国立研究開発法人国立環境研究所 理事 高澤 哲也 独立行政法人環境再生保全機構総 務部企画課 課長 本城 宏行 中間貯蔵・環境安全事業株式会社 管理部長 眼目 佳秀							

注) ・終了時刻は、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
・オンライン接続先アドレスは、別途お知らせします。

令和6年度環境省職員研修 (令和3年度入省職員フォローアップ研修) 実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

新型コロナウイルス感染症対策のため、集合研修の実施が制限される中、令和2年度から令和4年度入省の職員について集合形式の環境省新採用職員研修の実施が見送られていた。

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことから、これらの世代の能力向上、コミュニケーションの活性化及びそれらの礎となる心身の健康の維持を目的として、フォローアップとして集合研修を実施することとする。

また、今後新採用職員等の指導係となると見込まれる世代であることから、各所属のチーム各員が成長を実感できる職場環境構築を目指し、部下とのコミュニケーション等に係る研修内容を充実することにより、新採用職員等への指導力を獲得することも目的とする。

2. 期間及び会場

(1) 期間 令和6年10月3日(木)から10月4日(金)まで(2日間)

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場 環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3
TEL 04(2994)9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 65名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 令和3年度環境省入省職員またはこれと同等と認められる者

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和6年7月31日(水)までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。

9. 経費

(1) 往復に必要な旅費

環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

日額旅費を環境調査研修所から支給する。

*研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載した「研修受講ガイドブック」を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)に掲載しておりますので御参照ください。

○ 令和6年度環境省職員研修（令和3年度入省職員フォローアップ研修） 教科内容

- | | |
|---|-------------|
| 1. 【講義】～環境省で働いてきた先輩から～ | 1. 5時間 |
| 環境省50年余の環境行政の歴史の流れ、その上での環境省の現在地点、今後に向けての課題について、長年環境省で働いてきた先輩の見方を教示いただく。これから環境省の第一線で勤務する研修生にとって、故きを温ねて新しきを知り、今後の業務遂行にあたっての視座を確立していくための講座とする。 | |
| 2. 【講義】～環境省で働く先輩職員から～ | 1. 25時間 |
| 環境省の第一線で働いている先輩職員から、今までの仕事についての話を聞くことで、これからの係長として仕事をするにあたっての心構えを学ぶとともに、今後のキャリアデザインについて考える契機とする。本講義を通して、本研修の意義や自分なりの目的について意識を深める。 | |
| 3. 【講義・演習】激変する時代・環境における次世代リーダースキル講座 | 5. 4時間 |
| 新採用職員等の指導係になることが見込まれる世代であることから、はじめての指導について技術を学ぶとともに、今後の指導時に活かせるようにする。 | |
| 4. 【討議】意見交換～今までの経験と研修で学んだことから～ | 0. 75時間 |
| 本研修で学んだ部下とのコミュニケーション方法等を通じて、今後どういった先輩職員（指導係）となっていきたいか、互いに議論し今後の職場生活での行動目標に落とし込んでいく。 | |
| 5. 【講義】メンタルヘルスについて | 1. 5時間 |
| 6. その他（開・閉講式、オリエンテーション等） | 0. 75時間 |
| | 合計 11. 15時間 |

(注)

1. 都合により一部内容・教科時間等を変更することがあります。
2. 開講式は、10時より行う予定です。9時30分までに入所してください。
3. 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、若干遅れる場合もあります。
4. 帰路の航空機や列車の時間等により最終日の講義や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度環境省職員研修（令和3年度入省職員フォローアップ研修）

日程表

環境調査研修所

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:30	19:30
10月3日 (木)		10:00～ 10:30 開講式 オリエン テーショ ン	10:30～11:45 【講義】 ～環境省で働く先輩職員 から～ 福島地方環境事務所 環境再生・廃棄物対策部 環境再生・廃棄物対策課 課長 清家 裕	昼休み		12:45～17:00（15分の休憩含む） 【講義・演習】 激変する時代・環境における次世代リーダースキル講座 コクヨ株式会社					17:30～19:30 懇親会
10月4日 (金)		8:50～10:15 【講義・演習】 激変する時代・環境における次世 代リーダースキル講座 コクヨ株式会社	10:30～12:00 【講義】 メンタルヘルスについて 医師／産業医 岡田 岳大	昼休み		13:00～14:30 【基調講義】 ～環境省で働いてきた先輩から～ 元 環境省 地球環境審議官 竹本和彦 (一般社団法人 海外環境協力セン ター)	14:45～15:30 【討議】 意見交換 ～今までの経験と 研修で学んだこと から～	15:30 ～ 15:45 閉講式			

○使用教室：本館3階講堂

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場(本館3階講堂)にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は15時45分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年度環境省職員研修（環境問題史）実施要綱

環境調査研修所

1. 目的

環境行政に従事する職員を育成する上では、単に知識だけにとどまらず、環境保全に尽力した先人の想いを継承し、将来世代への展望を描く意識を醸成していくことが重要である。このため、公害を克服すべく取り組み、未来に向けて環境保全を重視した地域づくりを進めている熊本県水俣市において、環境保全を軸とした地域再生の取り組みから地域住民等と連携した環境保全の推進方策を学び、今後の環境行政の遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、実際に現場の見学、関係者との交流を通じて、体験をもとに自ら考えることを重視した研修を実施することにより、環境行政に携わる職員の資質の向上を図る。

2. 期間及び会場

(1) 期間

- ①オンライン：令和7年1月9日（木）
- ②集合研修：令和7年1月22日（水）から1月24日（金）まで（3日間）

(2) 集合研修会場

現地見学：水俣病情報センター、水俣病資料館、熊本県環境センター、(株)JNC 工場等（熊本県水俣市）

講義：水俣環境アカデミア、水俣市総合もやい直しセンター もやい館、国立水俣病総合研究センター（熊本県水俣市）

(3) 集合研修の宿泊場所：スーパーホテル水俣（〒867-0043 熊本県水俣市大黒町 1-1-38）

(4) 集合研修の集合場所：JR 新水俣駅

(5) 研修の実施方法

受講生は、(1)①の日程でオンライン（WebEX）により実施するオリエンテーション及び講義を受講したうえで、(1)②の日程で熊本県水俣市において実施する集合研修に参加する。

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 15名程度

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 環境省職員及び環境専門調査員
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、令和6年11月15日（金）までに必着するよう、環境調査研修所あて文書により通知する。

なお、送付は電子での提出を基本とする。

【提出先】：KYOMU_KA@env.go.jp

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にそ

の旨を通知する。

8. 修了証書の交付

受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。

修了した場合、修了証書（電子データ）を交付する。

9. 経費

往復に必要な交通費及び日額旅費を環境調査研修所から支給する。

宿泊については、1/22, 23は環境調査研修所が借り上げる宿泊施設を使用するものとする。前泊・後泊が必要と認められる場合、その経費は環境調査研修所が負担するが、宿泊施設の手配は各自行うこと。

なお、滞在費は別添により研修期間中に徴収する。

10. 日程

別添2 日程表案のとおり。

11. その他

本研修は、国及び地方公共団体等職員を対象とした「令和6年度環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）」と合同で実施します。

令和6年度環境省職員研修（環境問題史）教科内容

- | | | |
|---|----------|---------|
| 1. 過去と現状、地域再生の取組みを知る（講義、見学） | ・・・・・・・・ | 10時間15分 |
| 水俣病の関係者の講義、関連施設の見学、企業・市民・行政の連携取組みの見学等を通して、実際の現場や関係者の想いに触れて、水俣病の歴史的経過・現状、地域再生の取組みについて理解を深める。 | | |
| 2. ワークショップ | ・・・・・・・・ | 1時間45分 |
| 1で得たものについて、討議の中で自らの考えをまとめ、考察する。 | | |
| 3. その他（開・閉講式、オリエンテーション等） | ・・・・・・・・ | 1時間15分 |

合計 13時間15分

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 開講式は、13時45分より行う予定です。13時15分までにJR新水俣駅にお集まりください。
- 最終日の終了時間は13時15分（JR新水俣駅着14時00分）を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

日程表 令和6年度環境問題史研修（もやい直し－水俣の経験から学ぶ地域再生－）

令和6年度環境省職員研修（環境問題史）

令和7年1月9日（木）オンライン事前学習

13:30～14:15	研修前オリエンテーション、研修生自己紹介
14:30～15:00	水俣病問題について 講師：熊本県 水俣病保健課 課長補佐 田代 絹代氏

令和7年1月22日（水）

13:00～13:30	13：15新水俣駅集合 13:15～13:30バス移動
13:40～14:00	開講式・オリエンテーション 場所：水俣病情報センター
14:00～14:30	水俣病情報センターの紹介、見学 場所：水俣病情報センター
14:35～15:35	水俣病資料館・熊本県環境センターの紹介、見学 場所：水俣病資料館、熊本県環境センター
15:40～16:40	水俣病資料館 語り部講話 水俣市立水俣病資料館語り部 川本愛一郎氏
17:10～17:15	移動（バス）
17:15～17:30	百閒排水口 見学
17:30～17:35	宿泊先・スーパーホテル水俣 到着・休憩
18:00～18:15	移動（バス）
18:30～20:30	<研修生交流会> 場所：福田農場

令和7年1月23日（木）

8:50	スーパーホテル水俣 出発
8:50～9:00	移動（バス）
9:00～10:00	JNC工場 見学
10:00～10:05	移動（バス）
10:15～11:15	もやい直しの取り組み 講師：吉永 理巳子氏 場所：水俣市総合もやい直しセンター もやい館
11:15～11:25	休憩
11:25～12:15	水俣市の環境への取り組み 水俣市環境課 場所：水俣市総合もやい直しセンター もやい館
12:15～13:00	昼食（弁当）
13:05～13:15	移動（バス）
13:30～15:10	「企業と市民と行政の連携取り組み見学」（※） Aコース：田中商店（びんのリユース事業） Bコース：バイオマスレジン（バイオマスプラスチック製造） Cコース：わく・ワークみなまた（障害福祉サービス事業所就労継続支援B）
15:20～15:40	移動（バス）
15:40～17:00	国立水俣病総合研究センター見学・講義 国立水俣病総合研究センター概要、リハビリ室見学、国際貢献・地域貢献の取組 場所：国立水俣病総合研究センター
17:00～17:15	移動（バス）
17:15	スーパーホテル水俣 到着

（※）「企業と市民と行政の連携取り組み見学」は、3コースに分かれていずれかを見学します。

希望のコースは研修生決定後に確認しますが、各コースの定員の都合上、ご希望に添えない場合もございます。

令和7年1月24日（金）

8:20	スーパーホテル水俣 出発
8:20～8:30	移動（バス）
8:40～9:30	水俣の海の再生への取り組み 講師：水俣ダイビングサービス SEA HORSE 森下 誠氏 場所：水俣環境アカデミア
9:40～11:25	まとめのワークショップ ファシリテーター：水俣環境アカデミア所長 古賀 実 場所：水俣環境アカデミア
11:30～11:40	閉講式 場所：水俣環境アカデミア
11:40～12:25	昼食（弁当）
12:25～12:50	移動（バス）
12:50～13:10	水俣病慰霊の碑見学
13:10～13:15	移動（バス）
13:15～13:45	道の駅見学
13:45～14:00	移動（バス）
14:00	新水俣駅着 解散

(問い合わせ先)

環境省環境調査研修所教務課

〒359-0042 所沢市並木 3-3

TEL 04-2994-9766

E-mail kyomu_ka@env.go.jp

HP <https://neti.env.go.jp>